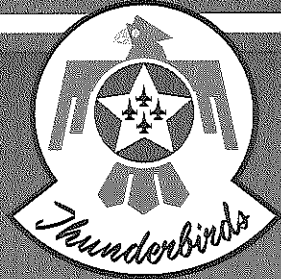




F16C "THUNDERBIRDS"

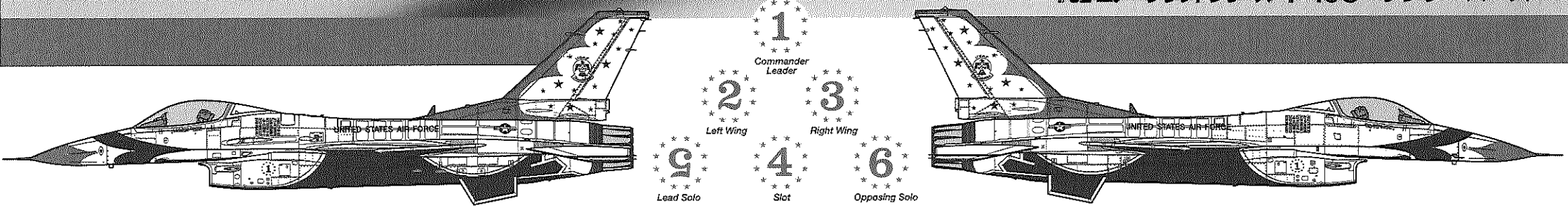
1/32 SCALE AIRCRAFT SERIES — NO.16



- *LARGE SIZE DISPLAY STAND INCLUDED
- *HIGHLY ACCURATE 1/32 MODEL OF F-16C BLOCK 32 JET PLANE
- *COLORFUL DECAL MARKINGS ALLOW CHOICE OF 2004 OR 2005 VERSIONS
- *OVERALL LENGTH: 475mm, WINGSPAN: 298mm



1/32 エアークラフトシリーズ F-16C "サンダーバース"



F16C "THUNDERBIRDS"

整列したパイロットが搭乗機に向かって歩き出す。ウォークダウンからショーははじまる。すべてのクルーが指先まで神経を使った無駄のない洗練された動きでショーを進行する。パイロットが機体に入り込み、エンジンスタード。グランドクルーとのサムアップのやり取りで機体はよいよ動き出す。きれいな隊列でタキシング、滑走路に入りエンジン音の高まりと共に観客の興奮はいやが上にも盛り上がっていく。編隊での離陸、大空に繰り広げられる息もつかせぬ演技の数々。次々と隊形を変えていく密集した編隊飛行にソロでの演技も加わり、観客の目は大空に注がれる。機体が見せるシャープな挙動、飛行の軌跡がスモークとなって残る。性能をフルに引き出したアクロバットは操縦テクニックの見事さと相まって見るものを魅了してやまない。数あるアクロバットチームの中でもその見事な演技が「パーフェクトショー」と称されて世界の指標とされているのがアメリカ空軍「サンダーバース」です。

■ジェット機アクロバットの草分け「サンダーバース」パイロットの操縦技術の向上や隊員の士気を高めることを目的の一つとするアクロバットチーム。航空自衛隊の「ブルーインパルス」をはじめ各国がトップレベルのパイロットを集めてチームを編成、その技量を競っています。

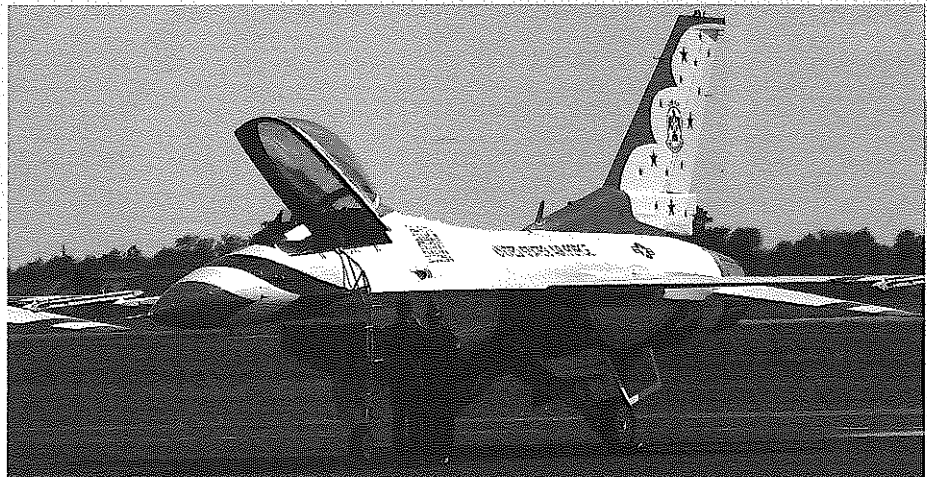
トップクラスのアクロバット技術で世界をリードするアメリカ空軍「サンダーバース」は1953年5月25日に誕生。アリゾナ州ルーク空軍基地で第3600航空デモンストラションチームとして編成され、その歴史は始まりました。チーム名の「サンダーバース」はルーク基地がある南西アメリカに居住するインディアンの中に伝わる伝説の鳥、「サンダーバード」に由来しています。初代の使用機にはジェット戦闘機のリパブリックF-84Gサンダージェットが選ばれ、「サンダーバース」は世界で最も早くジェット機によるアクロバットをはじめたチームのひとつとなったのです。メンバーはサンダージェットの飛行訓練を担当する高等飛行訓練飛行隊の教官パイロットを中心に編成されました。最初にアクロバットが一般公開されたのは1953年の7月19日。ワイオミング州シャイアンで開催されたロデオ大会でのことでした。翌1954年には中南米ツアーを実施し、11ヶ国でアクロバット飛行を披露。ツアー終了後、機体には訪問国の国旗が描き込まれ、このマーキングは現在に至るまで引き継がれています。

チーム結成からジェット戦闘機を使用した「サンダーバース」に託された役割の中でも最も重要だったのはジェット戦闘機に対する信頼性を高めることです。1950年に勃発した朝鮮戦争で本格的に実戦登場したジェット戦闘機でしたが、当時はまだメカニズムの面でも操縦技術の面でも安定性に欠けたため事故や故障が発生。このままでは兵士の士気に影響しかねないとの危機感が生まれていました。そこでアクロバットチームを結成し、ジェット戦闘機の性能を引き出す飛行を行い、その能力を広くアピールすることこそが最も重要だったのです。さらに、世界各国でアクロバット飛行を披露することは外交使節のひとつとして国際親善の役割も期待されていました。

■世界最初の超音速アクロバットチーム

1955年のはじめに「サンダーバース」は2代目となる後退翼機F-84Fサンダーストリークに機種を交換。この時初めてスモークを発生する装置を取り付けられました。大空に飛行の軌跡を残して展開される演技は観客の注目をいっそう高めることになったのです。

1956年に使用機は3代目に引き継がれ、基地もネバダ州ネリス基地へと移されます。3代目に選ばれたのはアメリカ空軍が世界に先駆けて実戦配備した超音速戦闘機ノースアメリカンF-100スーパーセイバー。この機種交換により「サンダーバース」は世界初の超音速アクロバットチームとなり、展示飛行ではソロ機が超音速でのパスも披露していました。1959年には初の極東ツアーの一環として来日。横田基地での展示飛行の際は当時の航空自衛隊関係者も見学し、



その後の航空自衛隊「ブルーインパルス」の誕生にも大きな影響を与えることになったのです。1963年12月17日のショーを最後にチームはリパブリックF-105Bサンダーチーフに機種交換を行いました。翌年、機体のトラブルにより、原因究明のためF-105B全機が飛行停止となってしまいました。そのため「サンダーバース」は急速F-100Dを導入することになったのです。

1969年からは初の双発機マクダネルF-4EファントムIIが使用機となります。圧倒的なパワーを持つファントムの使用は「サンダーバース」の演技を豪快でダイナミックなものとしたのです。加えて、それまで無塗装の金属肌、ナチュラルメタルの上に赤白青のカラーリングが施されていましたが、ファントムからは機体全体を白く塗装し、そこに赤青のストライプを入れた現在の「サンダーバース」に見られる配色となりました。機体下面には伝説の鳥「サンダーバード」が描かれ、現在に至る「サンダーバース」のカラーリングがこの時に完成したのです。

1974年からは練習機のノースロップT-38Aタロンに機種交換。石油危機や環境問題がクローズアップされる中、燃費の悪いファントムからの機種交換を余儀なくされた結果でした。小型軽量のタロンは運動性に優れ、スピード感あふれるシャープな演技が人気を集めました。

■F-16「サンダーバース」の誕生

そして迎えた1983年、すぐれた運動性能に着目した「サンダーバース」はタロンに続く使用機として当時最新鋭戦闘機として配備がはじまっていたF-16を選択。ホームベースのネリス基地で1983年4月2日、F-16Aを使った「サンダーバース」は公式デビューを果たしたのです。

ジェネラルダイナミクス社によって開発された多用用途戦闘機F-16の開発は1972年にスタートし、1974年の2月に初飛行。1975年1月にはアメリカ空軍への採用が決定しました。その後、実用化に向けたテストが繰り返され、最初の量産型F-16Aは1978年12月より部隊配備が開始されたのです。当時の最先端技術を駆使したF-16は静安定緩和技術とフライ・バイ・ワイヤの組合せですぐれた運動性を生み出し、主翼と胴体をスムーズに融合させるブレンデッド・ウィング・ボディの採用で軽量化も実現。さらに、主翼の付け根から機首まで延びたストレーキにより、あらゆる速度や飛行姿勢ですぐれた飛行特性を発揮。ハイレベルな曲技飛行をする「サンダーバース」にふさわしい性能の機体でした。将来の発展性をも視野に入れた設計が施されたF-16はその後も改良が進められ、段階ごとにブロック15、ブロック25といった名称で呼ばれています。1983年、最初の量産型F-16Aを装備した「サンダーバース」は、1992年に第3段階の改良を加えられたF-16Cブロック32へと機種交換。常に世界最高峰のアクロバットチームであり続けるためのアップデートが行われているのです。

チームの機体はレーダーと20mm機関砲が取り外され、スモークオイル用タンクを搭載した発煙装置が装備されている以外は、通常の機体と変わりはありません。そして有事の際には72時

間以内に実戦状態に戻せるようになっています。1992年からの使用機F-16Cブロック32は最大推力23770ポンドを発生するF100-PW-220エンジンを搭載し、レーダーにはAPG-68(V)を装備。コックピットには2基のCTRディスプレイと大視野型ヘッドアップディスプレイが採用され、1987年7月から部隊配備が開始されています。

「サンダーバース」の展示飛行は4機編隊とソロ2機の6機が基本となります。ダイヤモンド編隊をはじめ、各種の隊形でのルーブロール、そこにソロも加わり約45分の展示飛行では40課目にも及ぶ演技が繰り広げられます。6機のリーダーを務めるのが1番機。演技のタイミングなど、すべては1番機の指示のもとに繰り広げられます。ダイヤモンド編隊でリーダーの左後方に位置するのがレフトウィングと呼ばれる2番機です。右後方にはライトウィングの3番機が、最後尾にはソロットの4番機が加わり、編隊演技を担当します。そして5番機はリードソロ。演技の中では背面飛行をすることが多く、機体ナンバーが上下逆さまに描かれています。もう1機のソロ、オボジングソロが6番機でリードソロと共に2機での演技も担当します。2機のソロがバック・トゥ・バックで航過飛行する「カリブソ・バス」や左右から侵入して交差する「ナイフ・エッジ」などはソロの演技の見どころです。

チームの活動は毎年3月から11月まで行われ、年間約70回の展示飛行を繰り広げています。パイロットは通常2年、下士官が3年で交代します。1959年の初来日後、一般公開はなかったものの1987年にも来日し、1994年には三沢基地で35年ぶりの一般公開、2004年にはパシフィックツアーの一環として4度目の来日を果たしています。2004年のパシフィックツアーでは、残念ながら日本での演技は天候不順により行われませんでした。その後のグアム、韓国ではダイナミックなアクロバットを披露しました。2005年シーズンは2年目となるマイケル・J・チャンドラー中佐が搭乗する1番機をリーダーにラスティ・ケーン少佐(2番機)、ブライアン・バートン少佐(3番機)、スティーブ・ホートン少佐(4番機)、そしてリードソロはスコッティ・サムゾウ少佐(5番機)、オボジングソロを担当するブライアン・フェラー少佐(6番機)を中心に演技が行われています。さらに、ナレーターを含め将校や下士官など、約100名にものぼるスタッフが常にチームをサポートしているのです。半世紀以上にもわたりジェット機によるアクロバットの歴史を刻んできたアメリカ空軍「サンダーバース」。世界60ヶ国、延べ3億人以上の人達の前で演技を披露してきた「サンダーバース」はこれからも世界最高のアクロバットチームとして多くのファンを魅了し続けることでしょう。

《F-16C ブロック32 主要データ》

全長14.94 m
全幅機体は9.45 m
全高6.7 m
エンジンF100-PW-220
最大速度マッハ2.0

Aerobatic display teams are comprised of elite pilots gathered to undertake public performances of aerial maneuvers, demonstrating the finely polished skills of the pilots and the technology of modern high-performance aircraft. World renowned teams include the U.S. Air Force "Thunderbirds," U.S. Navy "Blue Angels," Royal Air Force "Red Arrows," the French Patrouille de France, and the Italian Freccia Tricolori.

U.S. Air Force "Thunderbirds"

The USAF "Thunderbirds" were founded as the 3600th Air Demonstration Unit in May, 1953. Based at Luke Air Force Base, Arizona, the team adopted the name "Thunderbirds" due to the strong American-Indian culture of the southwest where Luke is located. The thunderbird is a bird which exists in American-Indian legend, and with nothing in nature able to challenge it, the thunderbird embodies great fear and respect. The first aircraft chosen for the "Thunderbirds" was the Republic F-84G Thunderjet. The 4-plane team, consisting of a team leader, two wingmen and a slot pilot, performed their first official public air show on July 19, 1953. The following year they undertook their first overseas tour, performing in 11 countries in Central and South America. Following the tour, on the upper-left side of the fuselage they placed a flag of each country they performed in. This tradition continues today, with more than 60 countries represented.

Flying jet aircraft, the "Thunderbirds" were served with a very important mission, prove the reliability of these new jet planes. Jet fighters were first used in combat by the U.S. in the 1950's during the Korean War, where they were earning a reputation of being unreliable and dangerous. It was hoped that establishing an aerobatic display team like the "Thunderbirds" would not only reinforce public confidence in this new technology, but also strengthen morale within the Air Force itself. Other major objectives of the team were to support recruiting programs, fine-tune piloting skills, demonstrate the full capabilities of new jet fighter technology, and to promote international goodwill.

Teams für Kunstflug-Vorführungen bestehen aus Elitopiloten, die speziell ausgesucht werden, um öffentliche Vorführungen von Flugmanövern darzubieten und dabei das ausgefeilte Können der Piloten und die Technologie moderner Hochleistungs-Flugzeuge zu demonstrieren. Zu den weltberühmten Teams gehören die US Air Force "Thunderbirds," US Navy "Blue Angels," Royal Air Force "Red Arrows," die Französische "Patrouille de France" und die Italienische "Freccia Tricolori."

US Air Force "Thunderbirds"

Die USAF "Thunderbirds" wurden als die 3600. Luft-Vorführungs-Einheit im Mai 1953 gegründet. Stationiert auf dem Luftwaffenstützpunkt Luke in Arizona, gab sich das Team den Namen "Thunderbirds" entsprechend der starken Amerikanisch-Indianischen Kultur des Südwestens, wo Luke liegt. Der Donnervogel ist ein Vogel, welcher nur in der Amerikanisch-Indianischen Legende existiert und da es nichts in der Natur gibt, was ihn herausfordern könnte, verkörpert er tiefe Ehrfurcht und Respekt. Das erste Flugzeug, welches sich die "Thunderbirds" auswählten war die Republic F-84G Thunderjet. Das Team aus 4 Flugzeugen, bestehend aus dem Teamleiter, zwei Flügelmännern und dem Spaltpiloten, zeigte seine erste öffentliche Flugvorführung am 19. Juli 1953. Im darauf folgenden Jahr unternahmen sie ihre erste Übersee-tour mit Vorführungen in 11 Ländern in Zentral- und Südamerika. Im Anschluss an die Tour platzierten sie links oben auf dem Rumpf eine Fahne jeden Landes, in dem sie aufgetreten waren. Diese Tradition besteht noch heute, es sind mehr als 60 Länder repräsentiert.

Durch das Fliegen mit Düsenflugzeugen waren die "Thunderbirds" zugleich mit einer sehr wichtigen Mission beauftragt, nämlich die Zuverlässigkeit dieser neuen Düsenflugzeuge zu beweisen. Düsenjäger wurden von den USA erstmals 1950 während des Koreakriegs im Kampf eingesetzt, wo sie sich den Ruf einhandelten, unzuverlässig und gefährlich zu sein. Man hatte die Hoffnung, dass die Einrichtung einer Kunstflugstaffel wie der "Thunderbirds" nicht nur das öffentliche Vertrauen in diese neue Technologie wiederherstellen sondern auch die Moral innerhalb der Air Force selbst bestärken könnte. Andere wichtige Anliegen des Teams waren die Unterstützung eines Rekrutierungsprogramms, die Verfeinerung des fliegerischen Könnens, die Demonstrierung der gesamten Möglichkeiten der neuen Düsenjäger-Technologie und das Voranbringen des internationalen Ansehens.

Das allererste Überschall-Vorführteam der Welt 1955 wechselten die "Thunderbirds" den Flugzeugtyp von der F-84G Thunderjet auf die F-84F Thunderstreak mit gepfeilten Flügeln. Die F-84F war das erste Thunderbird-Flugzeug, das mit Rauchpatronen ausgerüstet war, was einen zusätzlichen Showeffekt

The World's First Ever Supersonic Demonstration Team

In 1955 the "Thunderbirds" changed aircraft type from the F-84G Thunderjet to the swept-wing F-84F Thunderstreak. The F-84F was the first "Thunderbirds" plane to be fitted with smoke tanks, adding extra showmanship to their already crowd-pleasing performances. The following year they adopted the new F-100C Super Sabre and moved to Nellis Air Force Base, Nevada, where they have remained based ever since. The F-100C Super Sabre landed the "Thunderbirds" the honor of being the first ever supersonic aerial demonstration team. Until banned by the US Federal Aviation Authority (FAA), upon request of the air show organizer, a solo Thunderbird would fly supersonic as part of their performance. Used until 1963, the F-100C was replaced with the F-105B Thunderchief. Due to safety concerns the Thunderchief performed only 6 shows before being replaced by the F-100D Super Sabre.

From 1969, the "Thunderbirds" adopted the F-4E Phantom II, giving them their first 2-engined aircraft. Big, heavy and powerful, the Phantom II added a whole new dynamic dimension to their performance. The Phantom also brought with it a color change, with the previously unpainted silver fuselage now featuring a coat of pure white coloring. This white coloring has been used on all Thunderbird aircraft since.

Phantom II to Fighting Falcon

The 1973 energy crisis brought an abrupt end to the fuel hungry F-4E Phantom II, with the "Thunderbirds" adopting their first ever non-combat aircraft, the T-38A Talon. Although a training aircraft, the supersonic Talon was sleek, swift, highly maneuverable and economical, making it ideal for aerobatic performance. In 1983, the "Thunderbirds" went back to flying the latest fighter jets with the Talon replaced by the all new F-16A Fighting Falcon. In 1992 the F-16A was replaced with the new Pratt & Whitney F100-P&W-220 engine powered F-16C Block 32, which still remains the "Thunderbirds" aircraft of choice. Apart from removal of radar and 20mm can-

non, and the addition of a smoke generator, the F-16C used by the "Thunderbirds" remains the same as those delivered to combat units, and if necessary can be made combat ready in less than 72 hours.

A standard Thunderbird performance involves 6 aircraft, 4 aircraft flying in formation and 2 aircraft performing solo routines, with repertoire ranging from diamond and delta formation to loops and rolls. A standard performance is approximately 1 hour, featuring a set of about 40 different routines. The performing season lasts from March to November, with the team performing about 70 times during the one season. The winter months are used for training new personnel, with pilots serving an average of 2 years and enlisted corps serving 3-4 years. Nearly a third of all support personnel are replaced each year.

For the 2005 season the "Thunderbirds" are led by Lt. Col. Mike Chandler in the No.1 jet. Lt. Col. Chandler leads all air demonstrations and is in charge of the 130-person squadron. Maj. Rusty Keen flies the No.2 jet (left wingman), Maj. Brian Burns flies the No.3 jet (right wingman), and Maj. Steve Horton flies the No.4 jet (slot pilot). Maj. Scottie Zamzow flies the No.5 jet as lead solo, and Maj. Brian Farrar flies the No.6 jet as the opposing solo.

Performing for more than 50 years, the long history of the "Thunderbirds" has seen the team visit more than 60 countries around the world, perform in front of more than 300 million people on more than 3,800 occasions, and broadcast an official air demonstration live over the internet. Always thrilling spectators around the world, the continue to serve as noble ambassadors of the U.S. Air Force.

F-16C Block 32 Main Specifications

Fuselage length: 14.94m

Wing span: 9.45m

Overall height: 6.7m

Engine: F100-PW-220

Max. speed: Mach 2.0

zu ihren bereits begeistert aufgenommenen Vorführungen ergab. Im darauf folgenden Jahr übernahmen sie die neue F-100C Super Sabre und änderten ihren Standort auf den Luftwaffenstützpunkt Nellis in Nevada, wo sie seither stationiert blieben. Die F-100C Super Sabre verschaffte den "Thunderbirds" die Ehre, das erste Flugschauteam überhaupt mit Überschallmaschinen zu sein. Bis zu dem Verbot durch die US Luftfahrt-Aufsichtsbehörde (FAA) sollte auf Bitten der Veranstalter der Flugschau ein einzelner Thunderbird als Teil ihrer Vorführungen Überschall fliegen. Nachdem sie bis 1963 eingesetzt war, wurde die F-100C durch die F-105B Thunderchief ersetzt. Aus Sicherheitsrücksichten führte die Thunderchief nur 6 Flugschauen durch, ehe sie durch die F-100D Super Sabre ersetzt wurde.

Ab 1969 übernahmen die "Thunderbirds" die F-4E Phantom II, wodurch sie erstmals eine zweistrahlige Maschine an die Hand bekamen. Groß, schwer und stark, brachte die Phantom II eine völlig neue Dimension der Dynamik in ihre Vorführung. Mit der Phantom kam auch ein Wechsel in der Farbgebung, der vorher unlackierte, silberne Rumpf erstrahlte jetzt in reinem Weiß. Die weiße Farbgebung wurde seitdem von allen nachfolgenden "Thunderbirds" verwendet.

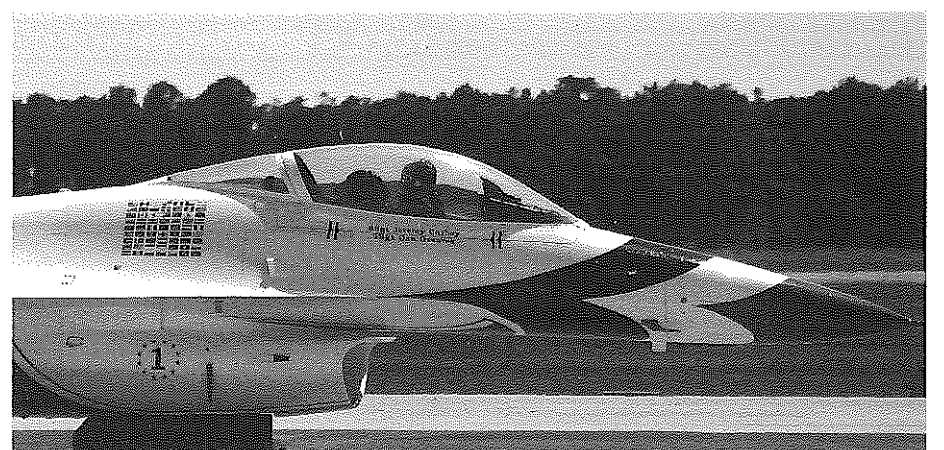
Von der Phantom II zur Fighting Falcon

Die Energiekrise von 1973 brachte ein abruptes Ende der sprit-durstigen F-4E Phantom II, die "Thunderbirds" übernahmen ihr erstes Nicht-Kampf-Flugzeug, die T-38A Talon. Obwohl nur ein Schulflugzeug, war die überschallschnelle Talon wendig, schnell, sehr gut manövrierbar und ökonomisch, was sie für Kunstflug-Vorführungen ideal machte. 1983 kamen die "Thunderbirds" darauf zurück, die neusten Kampfflugzeuge zu fliegen, die Talon wurde durch

die brandneue F-16A Fighting Falcon ersetzt. 1992 wiederum ersetzte man die F-16A durch die von der neuen Pratt & Whitney F100-P&W-220 Turbine angetriebene F-16C Block 32, die immer noch bei den "Thunderbirds" das Flugzeug der Wahl ist. Sieht man von der Entfernung des Radars und der 20mm Kanone ab, sowie der Hinzunahme eines Rauchgenerators, bleibt die von den "Thunderbirds" eingesetzte F-16C die gleiche wie eine an die Kampfeinheiten ausgelieferte, falls erforderlich könnte sie sogar in weniger als 72 Stunden kampfbereit gemacht werden.

In eine standardmäßige Thunderbird-Vorführung sind 6 Flugzeuge eingebunden, 4 davon fliegen in Formation, 2 Flugzeuge führen ein Soloprogramm vor, das Repertoire reicht von Diamant- und Delta-Formation bis zu Loopings und Rollen. Eine normale Vorführung dauert ungefähr 1 Stunde und beinhaltet etwa 40 verschiedene Programm-Nummern. Die Vorführungszeit erstreckt sich von März bis November, wobei das Team etwa 70 Vorführungen in einer Saison abbildet. Die Wintermonate werden zur Schulung neuen Personals genutzt, die Piloten dienen im Durchschnitt 2 Jahre lang und das angeworbene Corps dient etwa 3-4 Jahre. Fast ein Drittel des Hilfspersonals wird jedes Jahr ersetzt.

Für die Saison 2005 werden die "Thunderbirds" von Lt. Col. Mike Chandler im Jet Nr.1 geführt. Lt. Col. Chandler leitet alle Flugschauen und ist für die 130-Personen Schwadron verantwortlich. Maj. Rusty Keen fliegt den Jet Nr.2 (linker Flügelmann), Maj. Brian Burns fliegt den Jet Nr.3 (rechter Flügelmann) und Maj. Steve Horton fliegt den Jet Nr.4 (Spaltpilote). Maj. Scottie Zamzow fliegt den Jet Nr.5 als führender Solopilot und Maj. Brian Farrar fliegt den Jet Nr. 6 als entgegenkommender Solopilot.



Mit Vorführungen seit mehr als 50 Jahren hat in der langen Geschichte der "Thunderbirds" das Team mehr als 60 Länder auf der ganzen Welt besucht, bei mehr als 3800 Veranstaltungen vor mehr als 300 Millionen Leuten die Show vorgeführt und eine offizielle Kunstflug-Demonstration live über das Internet

übertragen. Die "Thunderbirds" wirken auch weiterhin als edle Botschafter der US Air Force, indem sie die Zuschauer rund um den Globus begeistern.

F-16C Block 32 Haupt-Daten
Rumpflänge: 14,94m
Spannweite: 9,45m
Gesamthöhe: 6,7m
Triebwerk: F100-PW-220
Max. Geschwindigkeit: Mach 2,0

Les patrouilles acrobatiques sont constituées de pilotes d'élite rassemblés pour effectuer des présentations aériennes démontrant leur maîtrise du pilotage et la haute technologie de leurs appareils. Parmi les formations les plus célèbres au monde, on peut citer les "Thunderbirds" de l'U.S. Air Force, les "Blue Angels" de l'U.S. Navy, les "Red Arrows" de la Royal Air Force, la "Patrouille de France" de l'Armée de l'Air et les "Frecce Tricolori" italiens.

Les "Thunderbirds" de l'U.S. Air Force
Les USAF "Thunderbirds" ont été créés sous la dénomination de 3600th Air Demonstration Unit en mai 1953. Basée à Luke Air Force Base, Arizona, la formation a adopté le nom de "Thunderbirds" du fait de la très forte tradition culturelle amérindienne du Sud-Ouest Américain où Luke AFB est située. Le Thunderbird (Oiseau Tonnerre) est une divinité des légendes amérindiennes. Ne craignant rien ni personne, le Thunderbird inspire le respect. Le premier appareil utilisé par les "Thunderbirds" a été le Republic F-84G Thunderjet. La formation de quatre appareils constituée d'un leader, de deux ailiers et d'un charognard effectua sa première représentation publique le 19 juillet 1953. L'année suivante fut entreprise la première tournée à l'étranger dans 11 pays d'Amérique Centrale et du Sud. Suite à ce périple, un drapeau de chaque nation visitée fut peint à l'avant gauche du fuselage. La tradition se perpétue aujourd'hui avec plus de 60 drapeaux ornant les appareils.

Volant sur jets de combat, les "Thunderbirds" avaient une mission importante : prouver la fiabilité de ces nouveaux appareils. Les avions à réaction furent pour la première fois engagés au combat dans les années 1950 lors de la Guerre de Corée où ils avaient acquis la mauvaise réputation d'être dangereux et peu fiables. On espérait que la création de patrouilles acrobatiques telles les "Thunderbirds" donnerait confiance au public en cette nouvelle technologie mais renforcerait également le moral au sein même de l'Air Force. Les autres objectifs principaux étaient d'appuyer les campagnes de recrutement, d'affiner les techniques de pilotage, de démon-

trer les performances des nouveaux jets de chasse et de représenter les Etats-Unis à l'étranger.

La Première Patrouille Acrobatique Supersonique au Monde

En 1955, les "Thunderbirds" échangèrent leur F-84G Thunderjet pour des F-84F Thunderstreak à ailes en flèche. Le F-84F fut le premier appareil des "Thunderbirds" équipé de fumigènes afin d'accroître l'impact visuel de leurs démonstrations. L'année suivante, ils passèrent sur le nouveau F-100C Super Sabre et déménagèrent à Nellis Air Force Base, Nevada dont ils n'ont plus bougé depuis. Le F-100C Super Sabre permit aux "Thunderbirds" de devenir la première patrouille acrobatique supersonique au monde. Jusqu'à l'interdiction de la Federal Aviation Authority (FAA), le passage du solo des Thunderbirds à Mach 1 faisait partie du programme de démonstration. Utilisé jusque 1963, le F-100C fut remplacé par le F-105B Thunderchief. Du fait de problèmes liés à la sécurité, les Thunderchief n'effectuèrent que six show aériens avant d'être à leur tour remplacés par des F-100D Super Sabre.

A partir de 1969, les "Thunderbirds" volèrent sur F-4E Phantom II, leur première monture biréacteur. Enorme, lourd et puissant, le Phantom II ajoutait une nouvelle dimension dynamique aux représentations. Avec le Phantom survint également un changement dans la décoration des avions : laissés précédemment métal naturels, il étaient maintenant peints en blanc pur. Tous les appareils utilisés depuis par les "Thunderbirds" sont peints en blanc.

Du Phantom II au Fighting Falcon

La crise pétrolière de 1973 mit fin à la carrière du gourmand F-4E chez les "Thunderbirds," obligeant même la patrouille à utiliser son premier appareil non conçu pour le combat : le T-38A Talon d'entraînement. Le Talon était un appareil supersonique aux lignes fines et élancées, très manoeuvrant et économique ; la machine idéale pour l'acrobatie. En 1983, les "Thunderbirds" volaient à nouveau sur jet de combat de dernière génération. Les T-38A avaient été remplacés par des F-16A Fighting Falcon. En

1992, des F-16C Block 32 équipé du nouveau réacteur Pratt & Whitney F100-P&W-220 prirent la relève. Ils sont toujours utilisés en 2005. A part la dépose du radar et du canon de 20mm et l'ajout d'un générateur de fumée, les F-16C employés par les "Thunderbirds" sont les mêmes que ceux livrés aux unités opérationnelles et si nécessaire, ils peuvent être prêts au combat en moins de 72 heures.

Un show aérien "Thunderbirds" standard implique 6 avions, 4 en formation et 2 effectuant des figures solo, le répertoire allant des formations Diamant et Delta aux tonneaux et loopings. Une représentation dure classiquement une heure et comporte une quarantaine de figures. La saison s'étend de mars à novembre avec environ 70 représentations. Durant les mois d'hiver s'effectue l'entraînement du personnel nouveau. Les pilotes servent durant 2 ans en moyenne et les autres personnels 3 à 4 ans. Environ un tiers des personnels techniques sont remplacés chaque année. Pendant la saison 2005, le leader des "Thunderbirds" était le Lt. Col. Mike Chandler dans l'avion N°1. Le Lt. Col. Chandler mène toutes les démonstrations aériennes et dirige un escadron de 130 personnes. Le Maj. Rusty Keen pilotait le N°2 (ailier gauche), le Maj. Brian Burns le N°3 (ailier droit) et le Maj. Steve Horton le N°4 (charognard). Le Maj. Scottie Zamzow était le N°5 (leader solo) et le Maj. Brian Farrar le N°6 (2^{ème} solo).

Après plus de 50 ans d'existence, les "Thunderbirds" ont visité plus de 60 pays tout autour du monde, se sont produits devant plus 300 millions de spectateurs lors de plus de 3.800 occasions et diffusent une démo officielle sur Internet. Frisson garanti avec les "Thunderbirds," nobles ambassadeurs de l'US Air Force !

Données principales F-16C Block 32
Longueur du fuselage : 14,94 m
Envergure : 9,45 m
Hauteur totale : 6,7 m
Réacteur : F100-PW-220
Vitesse maximale : Mach 2,0

READ BEFORE ASSEMBLY

注意 ●このキットは組み立てモデルです。作る前に必ず説明書を最後までお読みください。また、小学生などの低年齢の方が組み立てるときは、保護者の方もお読みください。
●工具の使用には十分注意してください。とくにカッターナイフ、ニッパーなど刃物によるケガ、事故には注意してください。
●接着剤や塗料は使用する前にそれぞれの注意書きをよく読み、指示に従って正しく使用し、使用するときは換気に十分注意してください。
●小さなお子さまのいる場所での工作は避けてください。小さな部品の飲み込みや、ビニール袋をかぶっての窒息などの危険な状況が考えられます。
●精密モデルのため、とがっている部品があります。思わぬ事故のおそれがありますので、取り扱いおよび完成後の鑑賞の際には十分ご注意ください。

CAUTION ●Read carefully and fully understand the instructions before commencing assembly.
●When assembling this kit, tools including knives are used. Extra care should be taken to avoid personal injury.
●Read and follow the instructions supplied with paints and/or cement, if used (not included in kit).
●Keep out of reach of small children. Children must not be allowed to suck any part, or pull vinyl bag over their head.
●This kit contains pointed parts. To avoid personal injury, take care when assembling and handling model after completion.

VORSICHT ●Bevor Sie mit dem Zusammenbau beginnen, sollten Sie alle Anweisungen gelesen und verstanden haben.
●Beim Zusammenbau dieses Bausatzes werden Werkzeuge einschließlich Messer verwendet. Zur Vermeidung von Verletzungen ist besondere Vorsicht angebracht.
●Wenn Sie Farben und/oder Kleber verwenden (nicht im Bausatz enthalten), beachten und befolgen Sie die dort beiliegenden Anweisungen.
●Bausatz von kleinen Kindern fernhalten. Verhüten Sie, daß Kinder irgendwelche Bauteile in den Mund nehmen oder Plastiktüten über den Kopf ziehen.
●Dieser Bausatz enthält spitze Teile. Zur Vermeidung von Verletzungen sollte beim Zusammenbau und bei der Handhabung des Modells nach der Fertigstellung vorsichtig umgegangen werden.

PRECAUTIONS ●Bien lire et assimiler les instructions avant de commencer l'assemblage.
●L'assemblage de ce kit requiert de l'outillage, en particulier des couteaux de modélisme. Manier les outils avec précaution pour éviter toute blessure.
●Lire et suivre les instructions d'utilisation des peintures et/ou de la colle, si utilisées (non incluses dans le kit).
●Garder hors de portée des enfants en bas âge. Ne pas laisser les enfants mettre en bouche ou sucer les pièces, ou passer un sachet vinyl sur la tête.
●Ce kit comporte des pièces pointues. Pour éviter les blessures, assembler et manipuler le modèle terminé avec précaution.

TOOLS RECOMMENDED

●用意する工具 / Tools recommended /
Benötigtes Werkzeug / Outillage nécessaire

接着剤 (プラスチック用)

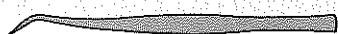
Cement
Kleber
Colle



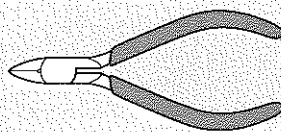
瞬間接着剤
Instant cement
Sekundenkleber
Colle rapide



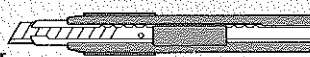
ピンセット
Tweezers
Pinzette
Précisiles



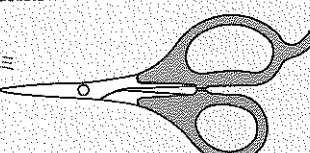
ニッパー
Side cutters
Seitenschneider
Pince coupante



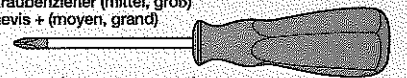
ナイフ
Modeling knife
Modellermesser
Couteau de modélisme



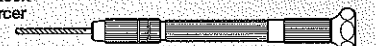
デカールバサミ
Scissors
Schere
Ciseaux



+ドライバー-L(大), M(中)
+ Screwdriver (medium, large)
+ Schraubenzieher (mittel, groß)
Tournevis + (moyen, grand)



ピンバイス (1mm, 1.2mm, 1.5mm)
Pin vise
Schraubstock
Outil à percer



★この他に金属ヤスリや紙ヤスリ、ウエス、セロファンテープなどがあると便利です。
★A file, abrasive paper, soft cloth and cellophane tape will also assist in construction.
★Faisle, Schleifpapiere, weiches Tuch und Tesafilm sind beim Bau sehr hilfreich.
★Une lime, du papier abrasif, un chiffon doux et du ruban adhésif seront également utiles durant le montage.

PAINTING

《塗装する前に》

各部品の塗装する面のゴミやほこり、油などを柔らかい布で拭き取ってください。中性洗剤で一度洗っておくのもよいでしょう。接着剤のほみ出しやキスはカッターナイフや目の細かい紙ヤスリで修正します。パーティングライン（部品にのこる成型工程上の合わせ目）もヤスリをかけ修正します。

《塗料の種類》

塗装にはプラモデル用塗料を使用してください。プラモデル用塗料にはラッカー系、アクリル系、エナメル系の3種類があります。基本的にはラッカー系



●ラッカー系塗料



●アクリル系塗料



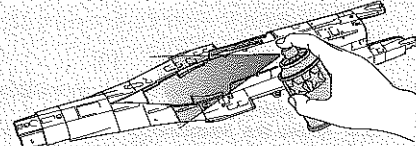
●エナメル系塗料

塗料などでボディなど大きな部分を塗り、アクリル系、エナメル系塗料で細部を塗装します。そして最後のウエザリングやスミ入れなどの仕上げ塗装はエナメル塗料を使用します。この順序をまちがえたら

ッカー系塗料がアクリル、エナメル系塗料を冒しますので気をつけてください。

《タミヤスプレーでの塗装》

雨の降っていない日中、風のない日陰で新聞紙を敷いてホコリが立たないようにしてから塗装します。まず、塗装する物を空きカンなどに固定し、20cm



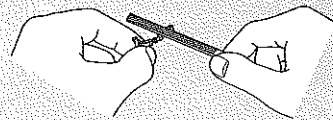
くらいはなして塗料を吹きつけます。スプレーの缶をすばやく同じ方向に動かしてシュッシュッと吹きつけるようにしてください。塗装する物よりひと回り大きな物に吹きつけるように塗装するのがコツです。吹きつけたあとは日陰でホコリがつかないように注意して十分に乾かします。
★スプレー塗料は缶に印刷された注意をよく読んで正しく使用してください。

《下塗り塗装について》

成形色の濃い部品に淡い色の塗料を直接塗る時は本塗装の前に下塗りとしてスーパーサーフェイサーなどを吹きつけておくのもよいでしょう。ただし、本塗装は下塗り塗装が完全に乾いたあとでおこなってください。

《メタル部品のバリ取りと塗装》

①メタル部品のバリや丸い凸は目の細かい金属ヤスリでていねいにおとします。この時、部品に大きなキズができないように注意します。また、穴がふさがっている時はピンバイスなどで穴をあけ、そっているものはそりを直してください。



②次に1000番程度の紙ヤスリで表面を磨き、タミヤメタルプライマーを吹きつけてから塗装します。必ず、タミヤメタルプライマーを吹きつけてください。塗装のはがれを防ぎます。

《マスキングのしかた》

下に塗った塗料が完全に乾いた状態でおこないます。（塗装や乾燥条件にもよりますが、少なくとも1日以上は乾燥させる）乾燥時間が短いと下地を冒して思わぬ失敗をします。塗装しない部分にマスキングテープを貼っていきます。余分なマスキングテープはデザインナイフなどできれいに切りとります。その後、マスキングテープをよく押さえ、部品に密着させ塗装します。テープをはがすときは塗料が完全に乾く前にこするときれいに仕上がりますが、はがす際は塗装面を傷つけないように注意しましょう。

PRIOR TO PAINTING

Remove all dust and oil from parts prior to painting. If necessary, wash with detergent, rinse off thoroughly and allow to air dry. Remove excess cement, fill in and clean up joints and seam lines. Smooth surface using a modeling knife and fine abrasive papers.

PLASTIC PAINTS

Standard plastic model paints, like enamels, acrylics, and lacquers can be used in painting injection molded models. Lacquer spray is recommended for large areas and acrylic for small details. Use of enamel paints are recommended for black-wash and drybrushing, so as not to damage the base coat.

SPRAY PAINTING

For finishing large areas, the use of spray paints or an airbrush will provide an even finish. It is recom-

mended to work on a clear day with little humidity. Spray paint outdoors in a shady windless area, if possible. Use a cardboard box, newspapers, etc. to keep from painting other areas. Spray can or airbrush painting should be done in one direction only, and at a distance of about 20cm from the object. Always give a light coat to the entire surface and allow to dry, then repeat this procedure two or three times for a perfect finish.

★When using spray or airbrush, carefully read and follow the instructions provided. Never paint near open flames or any other heat sources.

UNDERCOATING

When attempting to paint light color on darker color plastic: first apply surface primer or white paint, then paint color. When applying overcoat, make sure the

undercoat has completely cured.

PREPARING DIE-CAST METAL PARTS

①Remove any excess metal with a file, being careful to avoid damaging the parts. Open any clogged screw holes using a pin vise if necessary.

②Polish the metal surface using fine abrasives (#1000) and prepare for painting using Tamiya metal primer.

MASKING

When painting a curved or irregular border line, roughly mask off the border area first. Then trace the line with a pencil, and cut along this line using a knife and remove the excess tape. Be careful not to cut into the plastic surface. Press down the tape edges firmly with your finger before painting.

VOR DER BEMALUNG

Vor der Bemalung alle Staub- und Ölrreste entfernen. Mit Spülmittel abwaschen, wenn nötig, gründlich spülen und an der Luft trocknen lassen.

Überflüssigen Klebstoff entfernen, Modell abspachteln und Fugen verschließen. Oberflächen mit Modellmesser bearbeiten, abspachteln und schmirgeln.

PLASTIK-FARBEN

Normale Farben für Plastik-Modelle, wie Emaillacke, Acrylfarben und sonstige Lacke sind zur Lackierung von Spritzguß-Modellen geeignet. Für große Flächen ist Lackspray, für kleine Details sind Acrylfarben zu empfehlen. Die Verwendung von Emaillacken empfiehlt sich für Nachdunkelungen und Trockenmaltechnik, da hierbei der Untergrund nicht beschädigt wird.

SPRÜH- & AIRBRUSH-BEMALUNG

Bei der Bemalung von großen Flächen erreicht man mit Sprüh- oder Airbrush-Farben eine glatte Oberflä-

che. Es wird empfohlen, an einem klaren Tag mit geringer Luftfeuchtigkeit zu arbeiten. Sprüh-Farben, wenn möglich, draußen an einem schattigen und windstillen Platz verarbeiten. Karton, Zeitungen usw. verwenden, um nicht versehentlich andere Flächen mit einzufärben.

Die Bemalung mit Sprühdosen oder Airbrush sollte nur in einer Richtung erfolgen und in ca. 20cm Entfernung von dem Modell. Sprühen Sie auf die gesamte Oberfläche immer eine dünne Schicht und lassen Sie sie trocknen, dann wiederholen Sie diese Prozedur zwei bis dreimal für ein perfektes Finish.

★Bei Verwendung von Sprüh-farben oder Airbrush die beigefügte Bedienungsanleitung sorgfältig lesen.

GRUNDIERUNG

Falls helle Farben auf dunkleres Plastik aufgebracht werden sollen: zu erst eine Oberflächengrundierung oder weiße Farbe auftragen.

VORBEREITUNG DER DRUCKGUSSTÜCKE

①Entfernen Sie überstehende Metallstücke mit einer Feile, aber achten Sie darauf, die Teile nicht zu beschädigen. Öffnen Sie alle verstopften Schraublöcher, wenn notwendig mit einem Schraubstock.

②Polieren Sie die Tamiya Metall-Grundierung mit einem feinen Schmirgelpapier (#1000) und bereiten Sie sie mit einer Grundierung für die Bemalung vor.

ANKLEBEN

Wenn eine Rundung oder unregelmäßige Linie zu bemalen ist, kleben Sie die Grenzlinie zuerst grob ab. Dann mit einem Stift an der Linie entlang fahren und mit einem Modellermesser an dieser Linie entlang schneiden und das überflüssige Klebeband entfernen. Achten Sie darauf, nicht in die Plastik-Oberfläche einzuschneiden. Drücken Sie die Ecken des Klebebandes vor der Bemalung mit dem Finger fest an. Wenn Sie Klebeband auf eine bereits bemalte Oberfläche anbringen möchten, zuerst vergewissern, ob die Farbe vollständig trocken ist.

PREPARATION

Enlever la poussière et la graisse de toutes les pièces avant de les peindre. Si nécessaire, les nettoyer avec un détergent, rincer soigneusement et laisser sécher.

Éliminer tout excès de colle, mastiquer et poncer les jointures et lignes de moulage (papier abrasif fin).

PEINTURES POUR MAQUETTES PLASTIQUE

Les peintures pour maquettes plastique standard de type enamel, acrylique et vernis peuvent être employées sur les modèles en plastique injecté. Les peintures en bombes sont préférables pour couvrir des surfaces importantes. Les peintures enamels sont recommandées pour les jus et brossages à sec afin de ne pas endommager la teinte de base.

PEINTURE A LA BOMBE ET A L'AÉROGRAPHE

Pour peindre de grandes surface, les bombes aérosols ou l'aérographe sont indispensables pour assu-

rer un fini parfait. Il est préférable de travailler à l'extérieur par vent nul et à l'ombre. Installer les pièces à peindre sur un carton, du journal... pour protéger les alentours. La mise en peinture doit s'effectuer en une seule direction et à une distance de 20cm de l'objet. Appliquer toujours une légère couche sur toute la surface puis laisser sécher. Répéter ensuite cette procédure deux ou trois fois pour obtenir un fini parfait.

★Lire soigneusement les instructions fournies avec l'aérosol ou l'aérographe.

SOUS-COUCHE

Lorsqu'une teinte claire doit être appliquée sur du plastique d'une teinte plus sombre, passer au préalable une couche d'apprêt ou de peinture blanche. Avant d'appliquer une nouvelle couche, s'assurer que la précédente est complètement sèche.

PREPARATION DES PIÈCES MÉTAL

①Enlever tout excès de métal avec une lime sans endommager les pièces. Ouvrir tout trou obstrué avec un outil à percer, si nécessaire.

②Passer du papier abrasif fin (#1000) sur la surface des pièces et appliquer de l'apprêt pour métal Tamiya avant de peindre.

MASQUAGE

Lorsque la délimitation des teintes est irrégulière, commencer par appliquer la bande-cache puis y tracer la ligne de séparation. À l'aide d'un couteau de modéliste, inciser la bande en suivant le tracé et enlever la partie excédentaire. Veiller à ne pas inciser le plastique lors de cette opération. Appuyer fermement sur les bords de la bande-cache avant d'entamer la mise en peinture. Lorsque la bande-cache doit être apposée sur une surface déjà peinte, bien s'assurer que la peinture soit parfaitement sèche.

《使用する塗料》

PAINTS REQUIRED

ERFORDERLICHE FARBEN

TEINTES DE PEINTURES A EMPLOYER

TS-8 ●イタリアレッド / Italian red / Italienisches Rot / Rouge Italien

TS-26 ●ピュアホワイト / Pure white / Glanz Weiß / Blanc pur

TS-27 ●マットホワイト / Matt white / Matt Weiß / Blanc mat

TS-30 ●シルバリーフ / Silver leaf / Met. Silber / Aluminium

AS-12 ●シルバーメタル / Bare-Metal Silver / Blank-Metal Silver / Métal Nu

AS-26 ●ライトグレイ / Light Ghost Grey / Helles Geister-Grün / Gris Fantôme Clair

X-1 ●ブラック / Black / Schwarz / Noir

X-3 ●ロイヤルブルー / Royal blue / Königsblau / Bleu royal

X-7 ●レッド / Red / Rot / Rouge

X-8 ●レモンイエロー / Lemon yellow / Zitronengelb / Jaune citron

X-10 ●ガンメタル / Gun metal / Metall-Grün / Gris acier

X-11 ●クロムシルバー / Chrome silver / Chrom-Silber / Aluminium chromé

X-12 ●ゴールドリーフ / Gold leaf / Gold Glänzend / Doré

X-13 ●メタリックブルー / Metallic blue / Blau-Metallic / Bleu métallisé

X-18 ●セミグロスブラック / Semi gloss black / Seidenglanz Schwarz / Noir satiné

X-21 ●フラットベース / Flat base / Mattierungsmittel / Produit mattant

X-25 ●クリアグリーン / Clear green / Klar-Grün / Vert translucide

X-27 ●クリアレッド / Clear red / Klar-Rot / Rouge translucide

X-28 ●パークグリーン / Park green / Grasgrün / Vert pré

X-31 ●チタンゴールド / Titanium gold / Titan-Gold / Titane doré

X-32 ●チタンシルバー / Titanium silver / Titan-Silber / Titane argenté

X-F-1 ●フラットブラック / Flat black / Matt Schwarz / Noir mat

X-F-2 ●フラットホワイト / Flat white / Matt Weiß / Blanc mat

X-F-4 ●イエローグリーン / Yellow green / Grüngelb / Vert jaune

X-F-5 ●フラットグリーン / Flat green / Matt Grün / Vert mat

X-F-7 ●フラットレッド / Flat red / Matt Rot / Rouge mat

X-F-8 ●フラットブルー / Flat blue / Matt Blau / Bleu mat

X-F-16 ●フラットアルミ / Flat aluminum / Matt Aluminium / Aluminium mat

X-F-49 ●カーキ / Khaki / Khaki / Kaki

X-F-51 ●カーキドレープ / Khaki drab / Braun-Khaki / Vert kaki

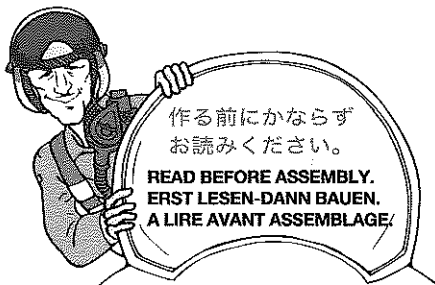
X-F-56 ●メタリックグレイ / Metallic grey / Grau-Metallic / Gris métallisé

X-F-57 ●バッフ / Buff / Lederfarben / Chamois

X-F-58 ●オリーブグリーン / Olive green / Olivgrün / Vert olive foncé

X-F-63 ●ジーマングレイ / German grey / Deutsches Grau / Gris Panzer

X-F-66 ●ライトグレイ / Light grey / Hellgrau / Gris clair



●お買い求めの際、または組立の前には必ず内容をお確かめください。万一不良部品、不足部品などがありました場合には、お買い求めの販売店にご相談ください。なお、組み立てを始めたあとは、製品の返品交換には応じかねます。

- 組み立てる前に説明書をよく見て、全体の流れをつかんでください。
- このキットには接着剤は含まれていません。プラスチック用接着剤(タミヤセメント)を別にお買い求めください。
- 接着剤、塗料は必ずプラスチック用を使用し、換気には十分注意してください。

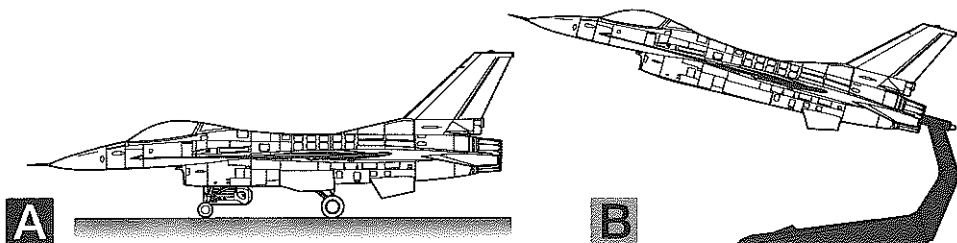
- Study and understand the instructions thoroughly before beginning assembly.
 - Read and follow the instructions supplied with paints and /or cement, if used (not included in kit).
 - Use cement sparingly and ventilate room while constructing.
- This mark denotes numbers for Tamiya Paint colors. Refer to P5 for paints required.

- Vor dem Zusammenbau die Bauanleitung gründlich studieren.
- Wenn Sie Farben und/oder Kleber verwenden (nicht im Bausatz enthalten) beachten und befolgen Sie die dort beiliegenden Anweisungen.
- Nicht zuviel Klebstoff verwenden (separat erhältlich). Dieses Zeichen gibt die Tamiya Farbnummern an. Siehe S.5 für benötigte Farben.

- Etudier et bien assimiler les instructions avant de débiter l'assemblage.
 - Lire et suivre les instructions d'utilisation des peintures et ou de la colle, si utilisés (non inclus dans le kit).
 - Utiliser aussi peu que possible la colle et aérer la pièce pendant la construction.
- Ce signe indique la référence de la peinture TAMIYA à utiliser. Se référer à la page 5 pour les peintures à utiliser.

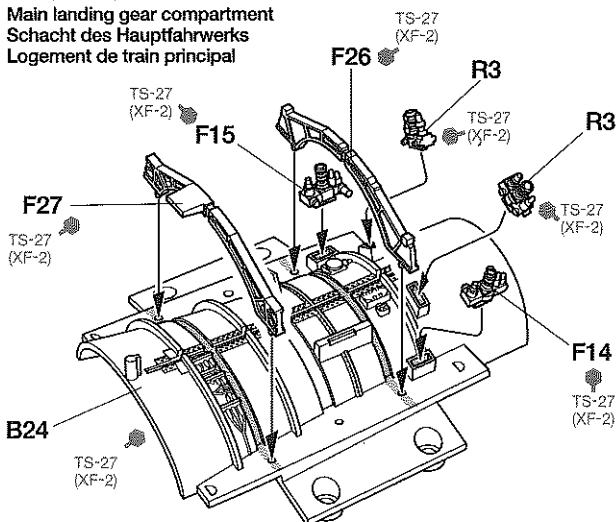
●このキットは2種類のディスプレイ方法が選べます。組み立てを始める前にA、Bどちらかを選び、図中の指示に従って組み立ててください。

- This kit can depict two types of display. Choose A or B.
- Mit diesem Bausatz lassen sich zwei Flugzeugtypen darstellen. Wählen Sie A oder B.
- Ce kit permet deux types de présentation. Choisir A ou B.

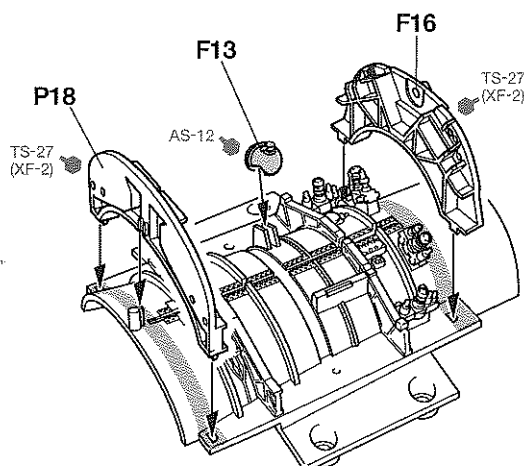


- 塗装指示のないプラスチック部品は機体色 (TS-26)です。全体の塗装は別紙のフィニッシングガイドを参考にしてください。
- When no color is specified, paint the item with fuselage color (TS-26). Refer to the separate finishing guide for painting pattern and markings.
- Wenn keine Farbe angegeben ist, das Teil in der Rumpffarbe lackieren (TS-26). Beachten Sie die separate Fertigstellungs-Anleitung für die Lackierung und Markierung.
- Si aucune teinte n'est spécifiée, peindre dans la teinte du fuselage (TS-26). Se reporter au guide de finition séparé pour peindre les motifs.

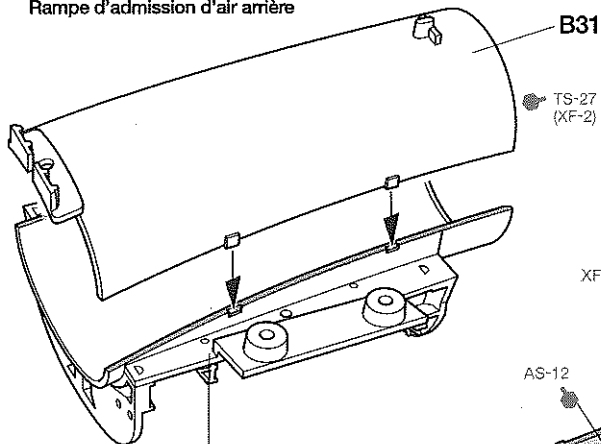
1 主脚納庫の組み立て
Main landing gear compartment
Schacht des Hauptfahrwerks
Logement de train principal



この色で塗られた部分は接着面です。
Blue shaded portion indicates cementing surface.
Die blau schattierten Bereiche kennzeichnen die Klebefläche.
Les surfaces en bleu sont à encoller.

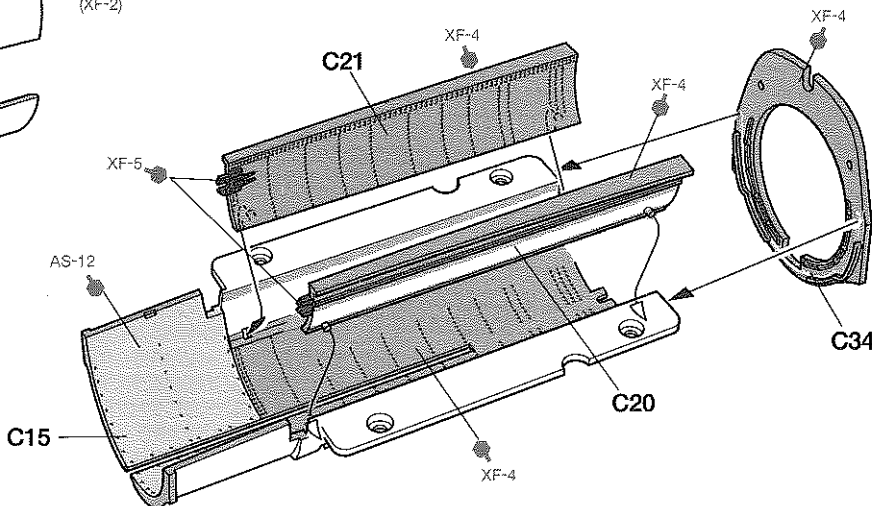


2 後部エアダクトの組み立て
Rear air duct
Hinterer Luftkanal
Rampe d'admission d'air arrière





指示の番号のスライドマークをはります。
Number of decal to apply.
Nummer des Abziehbildes, das anzubringen ist.
Numéro de la décalcomanie à utiliser.

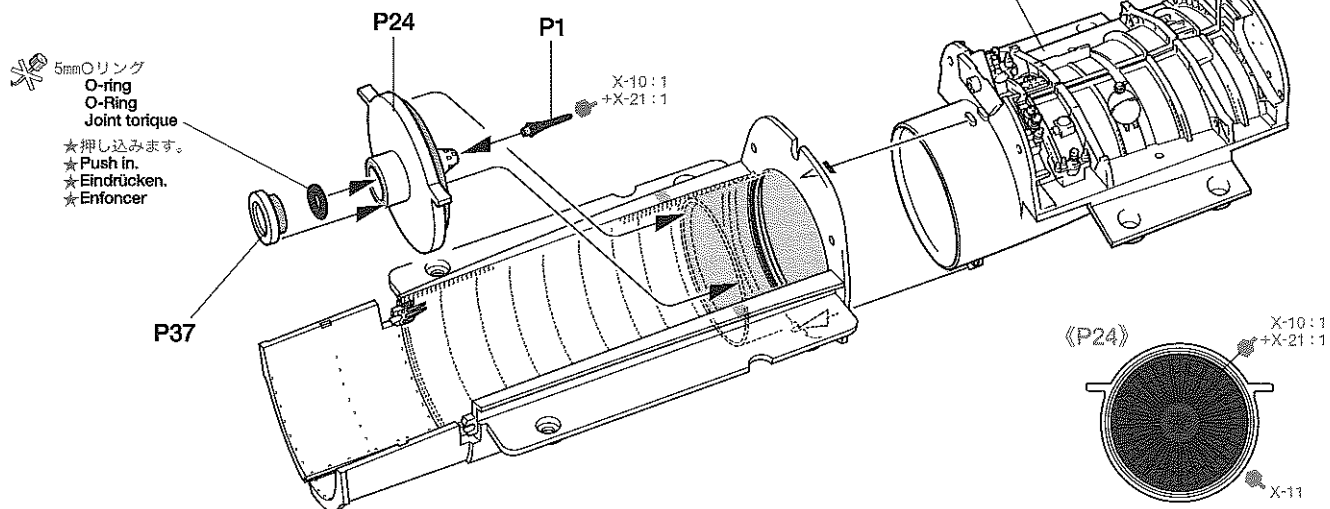
主脚納庫
Main landing gear compartment
Schacht des Hauptfahrwerks
Logement de train principal



3 エンジン格納庫の組み立て
Engine bay
Triebwerkraum
Baie du réacteur

 このマークの部品は接着しません。
Do not cement.
Nicht kleben.
Ne pas coller.

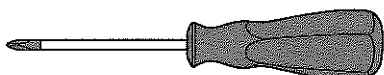
 後部エアダクト
Rear air duct
Hinterer Luftkanal
Rampe d'admission d'air arrière




★+ドライバー (小) はアダプターに取り付けて使用してください。
 ★Use small screwdriver with adapter.
 ★Kleinen Schraubenzieher mit Adapter verwenden.
 ★Utiliser le petit tournevis avec adaptateur.



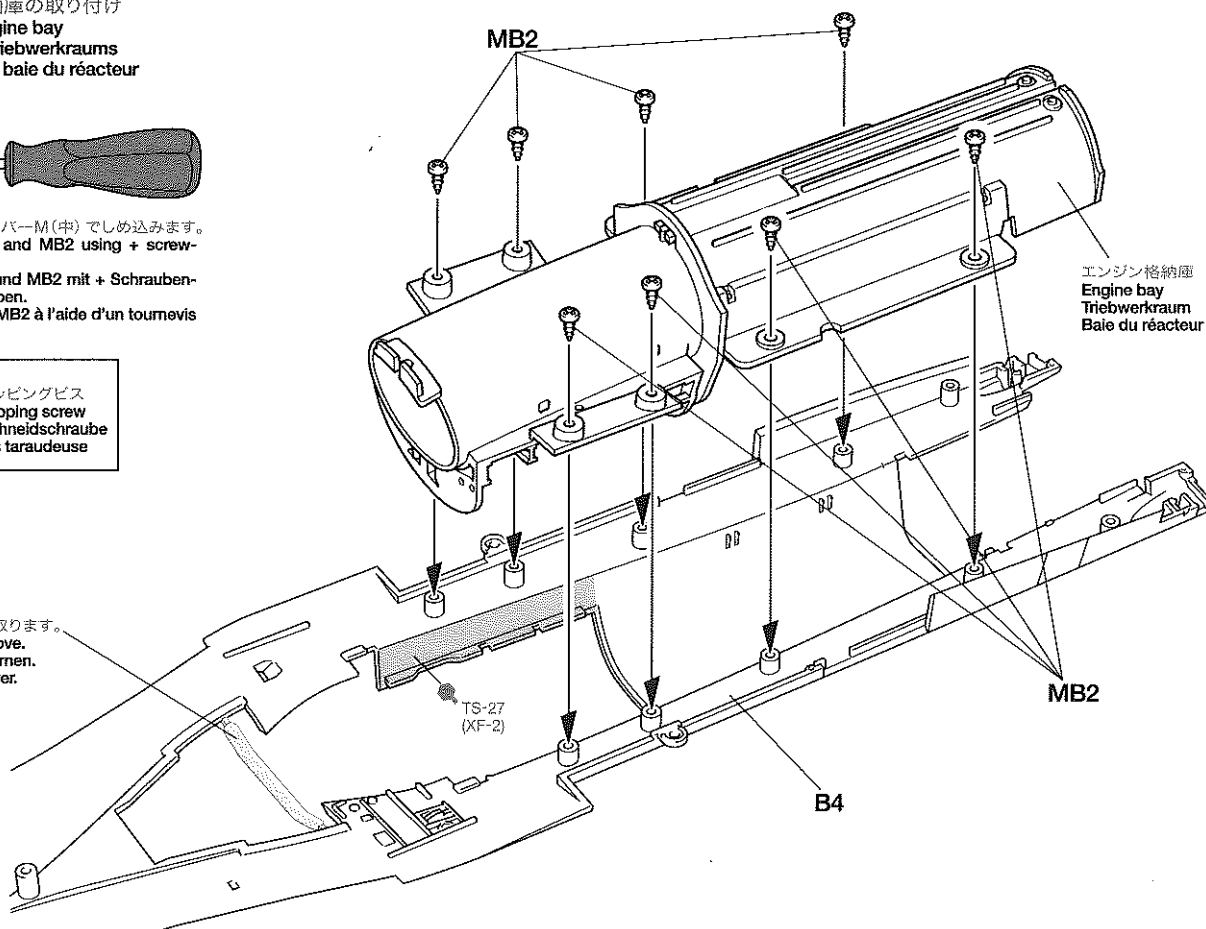
4 エンジン格納庫の取り付け
Attaching engine bay
Einbau des Triebwerkraums
Fixation de la baie du réacteur



★MB1とMB2は+ドライバー-M(中)で締め込みます。
 ★Tighten screws MB1 and MB2 using + screwdriver (medium).
 ★Die Schrauben MB1 und MB2 mit + Schraubenzieher (mittel) einschrauben.
 ★Serrer les vis MB1 et MB2 à l'aide d'un tournevis + (moyen).

 2×4mmダッピングビス
MB2 Tapping screw
 Schneidschraube
 Vis taraudeuse

★切り取ります。
 ★Remove.
 ★Entfernen.
 ★Enlever.



《瞬間接着剤について》

★通常は塗装する前に使用します。その際、接着面の油分を取ってから接着します。どうしても塗装後に接着したい場合は接着面の塗料を十分に落としてから使用します。この時、塗料が残っていると接着力が極端に低下するので注意しましょう。
 ★接着剤をつけすぎると接着力が落ちるばかりではなく、白化しやすくなるので注意してください。
 ★劣化した接着剤は使用しないでください。不要な部品で試すなどしてから使用してください。
 ★使用する際は瞬間接着剤の取扱説明をよく読んでからご使用ください。



Instant cement.
 ★Remove any paint or oil from cementing surface before affixing parts.
 ★Use only a small amount of cement. Too much cement will make joints turn white and lose adhesion.
 ★Do not use old cement. Test cement first with unnecessary parts such as sprues before use.

★Carefully read instructions before cementing.

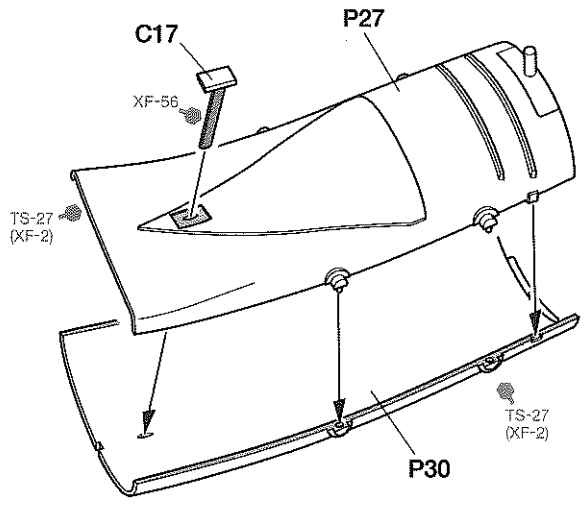
Sekundenkleber
 ★Entfernen Sie alle Farbe und Ölflecke von der Kleboberfläche bevor sie Teile ankleben.
 ★Verwenden Sie nur geringe Mengen Klebstoff. Bei zuviel Klebstoff kann sich die Verbindung verschieben und die Haftkraft verloren gehen.
 ★Verwenden Sie keinen alten Klebstoff. Testen Sie den Kleber vor der Anwendung zuerst mit nicht benötigten Teilen etwa vom Spritzling.
 ★Vor dem Kleben die Gebrauchsanleitung sorgfältig lesen.

Colle rapide
 ★Enlever les traces de peinture ou de grasse des surfaces de contact avant de coller les pièces.
 ★N'utiliser qu'une petite quantité de colle. Un excès peut blanchir les lignes de joint et limiter l'adhésion.
 ★Ne pas utiliser une colle périmée. Tester la colle sur des pièces inutilisées comme des morceaux de grappes avant utilisation effective.
 ★Lire soigneusement les instructions avant de coller.

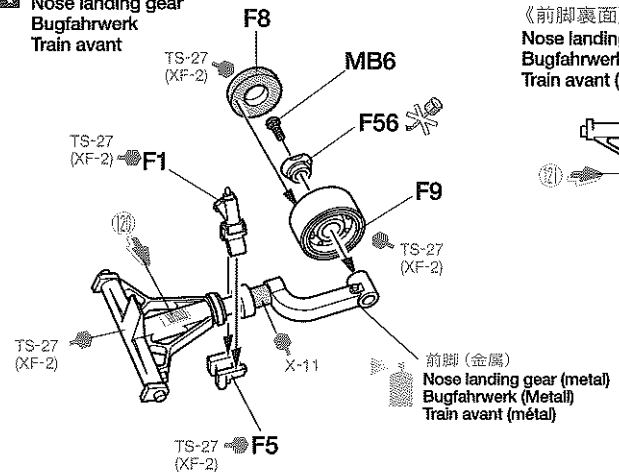
5 《前部エアダクト》
Front air duct
 Vorderer Luftkanal
 Rampe d'admission d'air avant

★このマークの部品は必ず、タミヤ メタルプライマーで下塗りしてください。
 ★Make sure to apply metal primer prior to painting metal parts.
 ★Vor dem Lackieren von Metallteilen unbedingt Metall-Grundierung auftragen.
 ★Appliquer de l'apprêt pour métal avant de peindre les pièces métalliques.

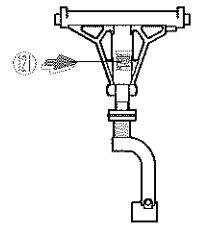
MB6 1.2×4mm丸ビス (黒)
 Screw (black)
 Schraube (schwarz)
 Vis (noire)



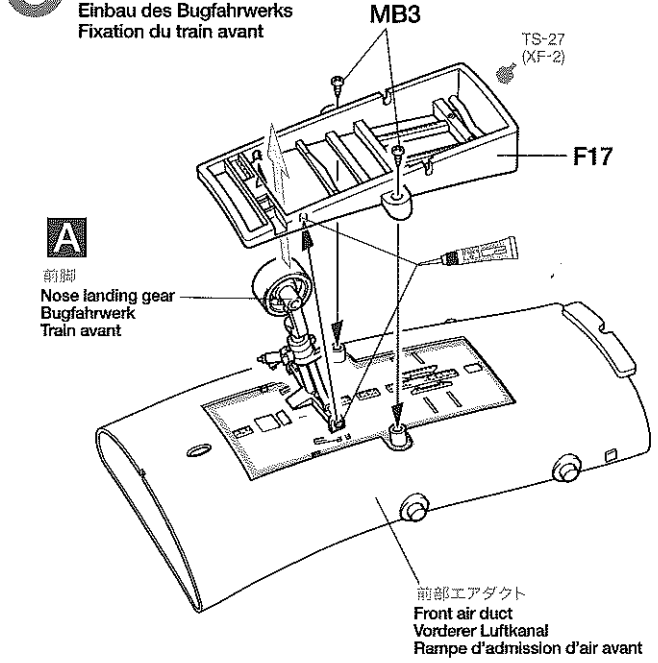
A 《前脚》
Nose landing gear
 Bugfahrwerk
 Train avant



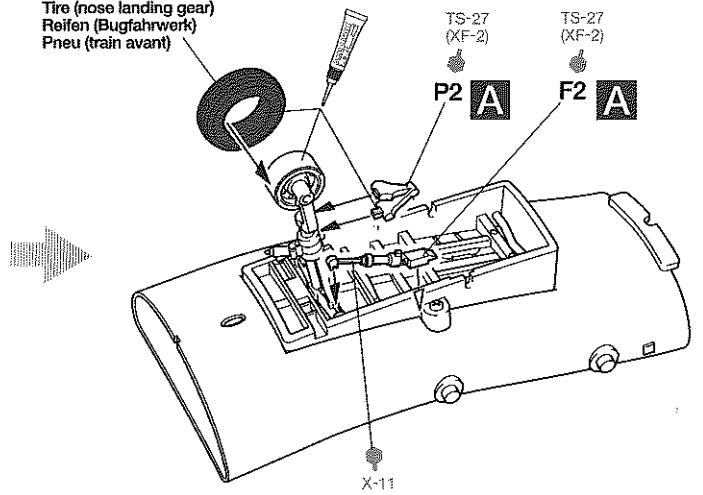
《前脚裏面》
Nose landing gear (rear view)
 Bugfahrwerk (Rückseite)
 Train avant (face arrière)



6 前脚の取り付け
Attaching nose landing gear
 Einbau des Bugfahrwerks
 Fixation du train avant

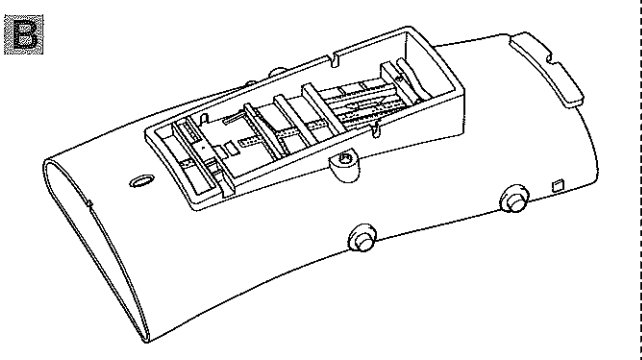


A タイヤ (小)
Tire (nose landing gear)
 Reifen (Bugfahrwerk)
 Pneu (train avant)

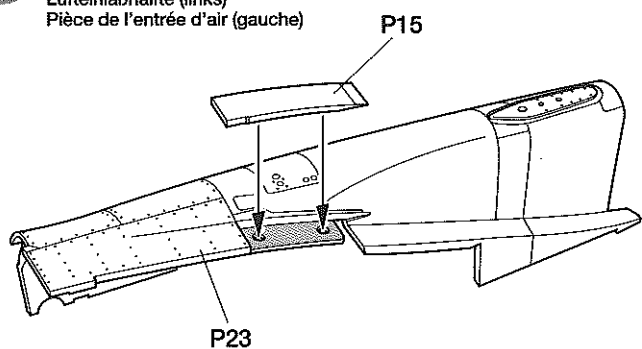


MB3 1.4×3mmタッピングビス
 Tapping screw
 Schneidschraube
 Vis taraudeuse

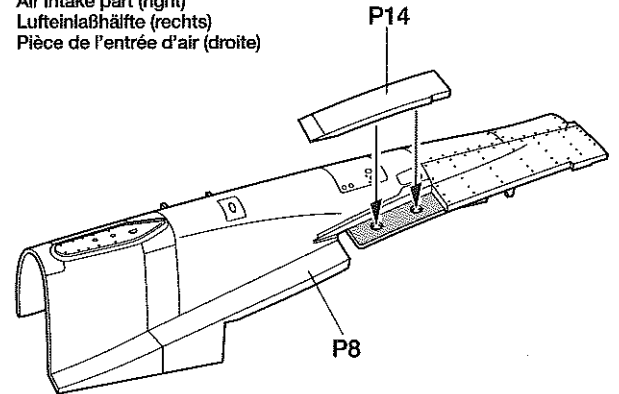
このマークの場所は瞬間接着剤を使います。
 Use instant cement for places shown by this mark.
 An den Stellen mit dieser Markierung Sekundenkleber verwenden.
 Utilisez de la colle rapide aux endroits indiqués par ce symbole.



7 《エアインテーク 左》
Air intake part (left)
 Lufteinlaßhälfte (links)
 Pièce de l'entrée d'air (gauche)



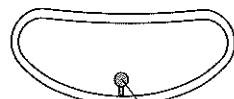
《エアインテーク 右》
Air intake part (right)
 Lufteinlaßhälfte (rechts)
 Pièce de l'entrée d'air (droite)



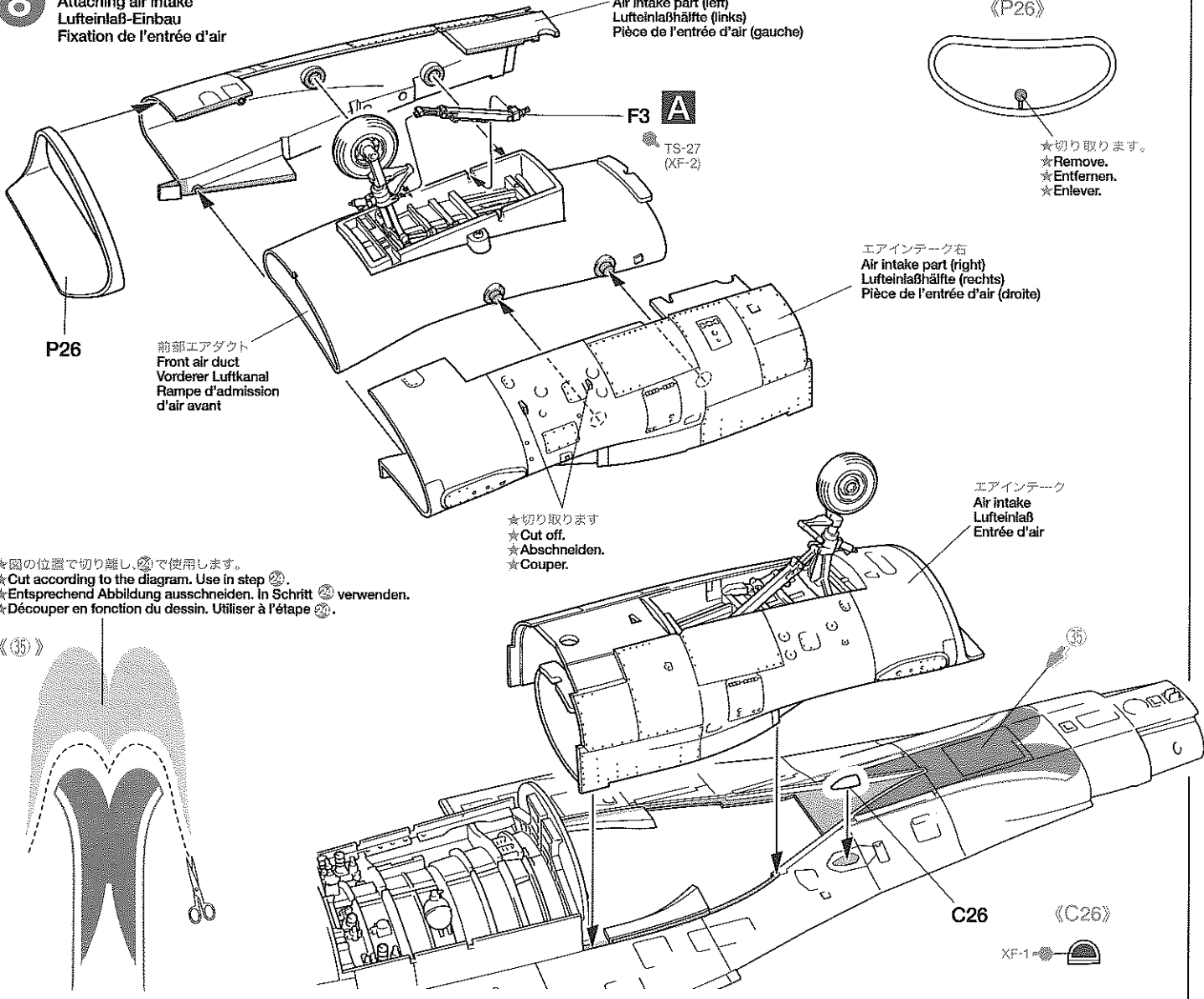
8 エアインテークの取り付け
Attaching air intake
Lufteinlaß-Einbau
Fixation de l'entrée d'air

エアインテーク左
Air intake part (left)
Lufteinlaßhälfte (links)
Pièce de l'entrée d'air (gauche)

《P26》



★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

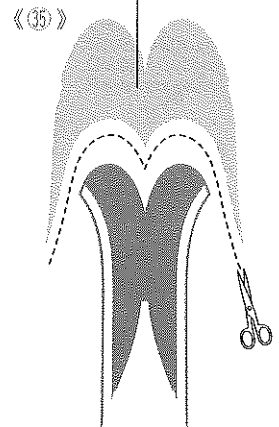


エアインテーク右
Air intake part (right)
Lufteinlaßhälfte (rechts)
Pièce de l'entrée d'air (droite)

エアインテーク
Air intake
Lufteinlaß
Entrée d'air

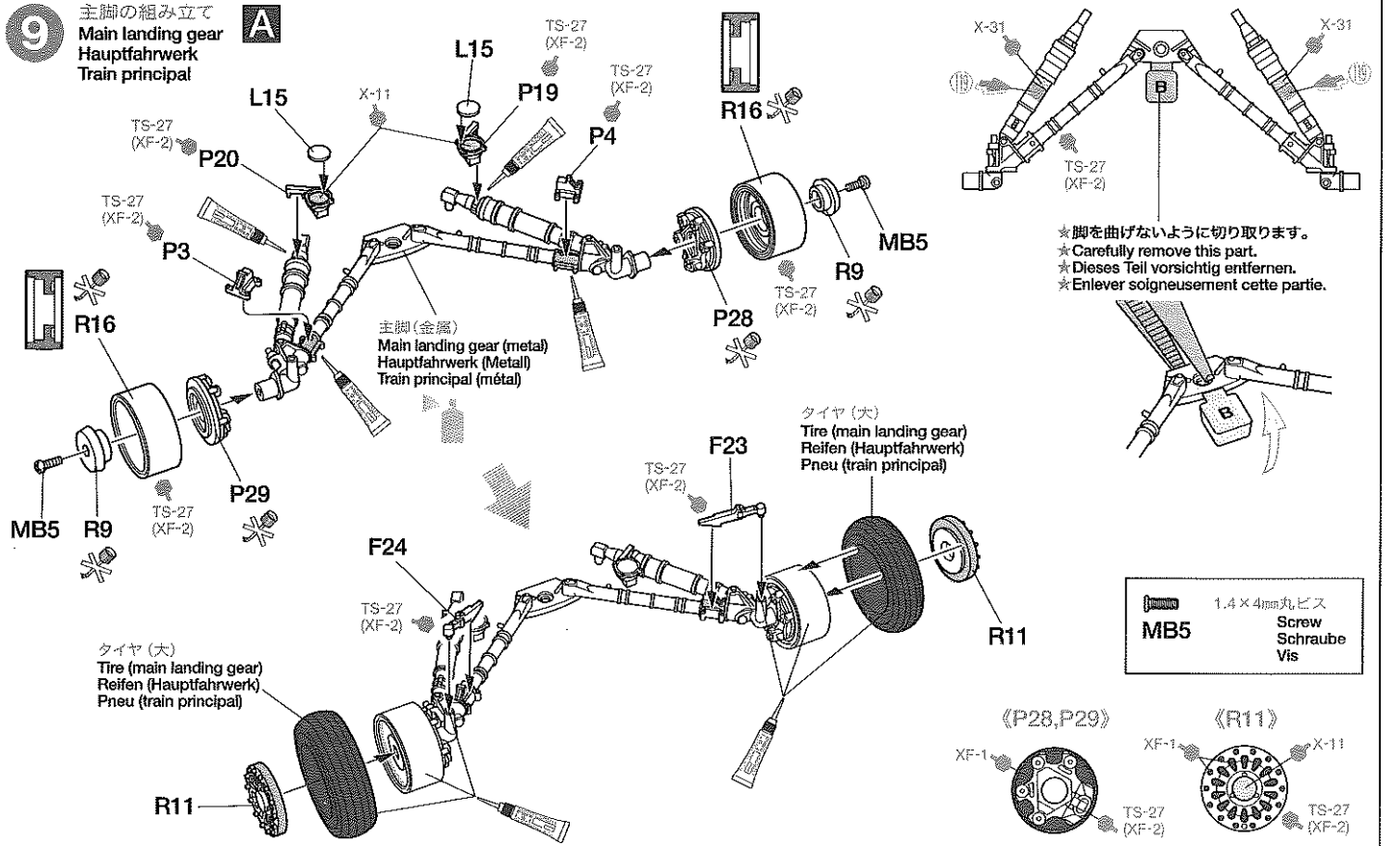
★切り取ります
★Cut off.
★Abschneiden.
★Couper.

★図の位置で切り離し、②で使します。
★Cut according to the diagram. Use in step ②.
★Entsprechend Abbildung ausschneiden. In Schritt ② verwenden.
★Découper en fonction du dessin. Utiliser à l'étape ②.



9 主脚の組み立て
Main landing gear
Hauptfahrwerk
Train principal

A

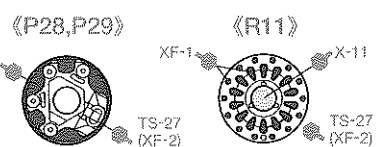


★脚を曲げないように切り取ります。
★Carefully remove this part.
★Dieses Teil vorsichtig entfernen.
★Enlever soigneusement cette partie.

タイヤ (大)
Tire (main landing gear)
Reifen (Hauptfahrwerk)
Pneu (train principal)

タイヤ (大)
Tire (main landing gear)
Reifen (Hauptfahrwerk)
Pneu (train principal)

1.4x4mm丸ビス
Screw
Schraube
Vis



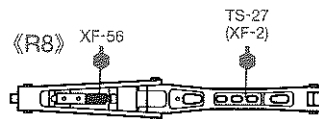
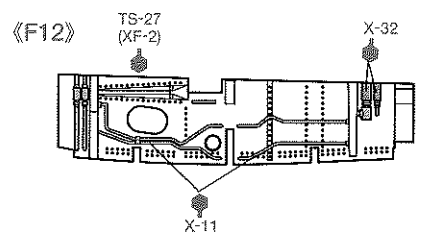
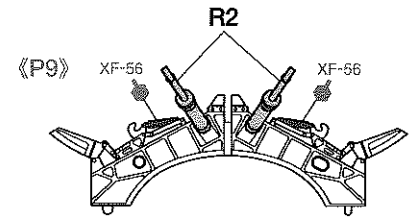
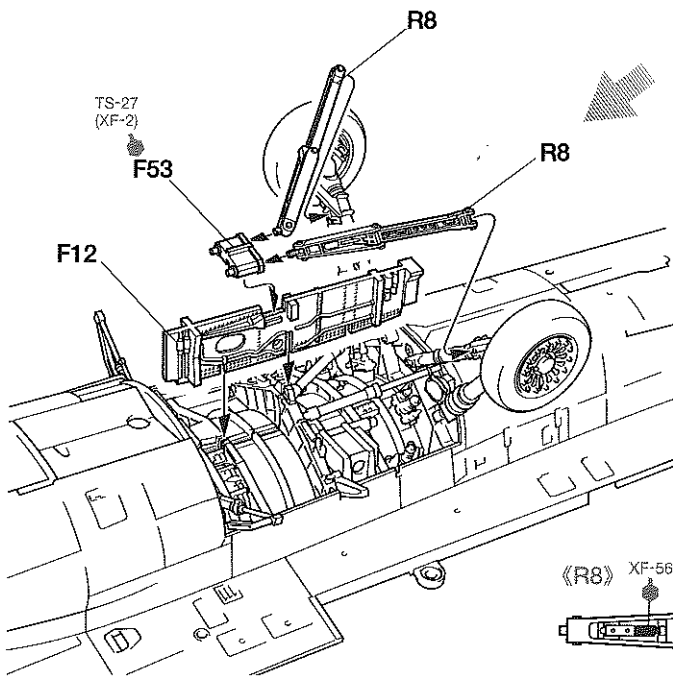
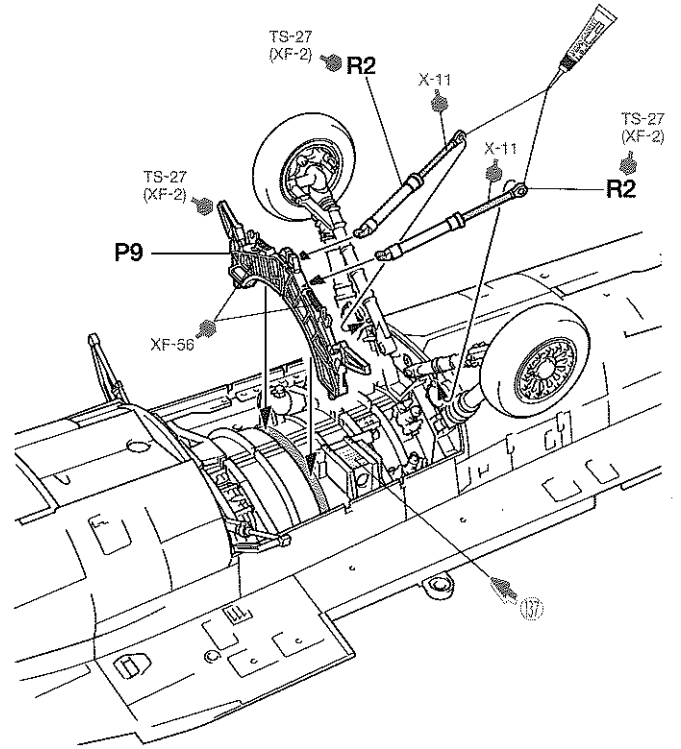
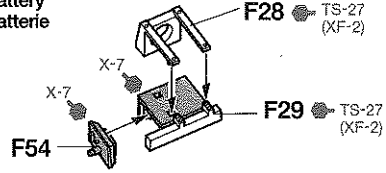
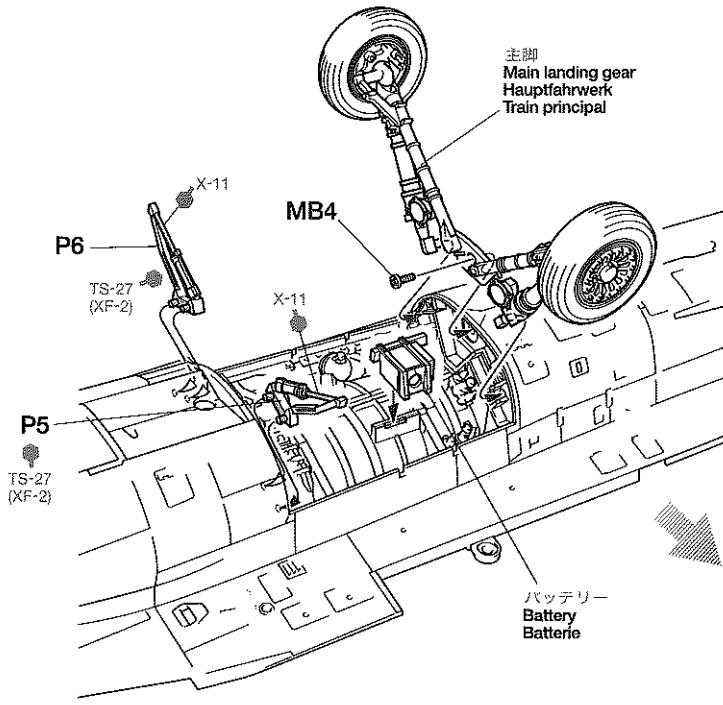
10

主脚納庫部品の取り付け
 Attaching main landing gear compartment parts
 Befestigung der Teile des Hauptfahrwerks-Schachtes
 Fixation des pièces du logement de train principal

A

《バッテリー》
 Battery
 Batterie

1.6×3mm丸ビス
 Screw
 Schraube
 Vis



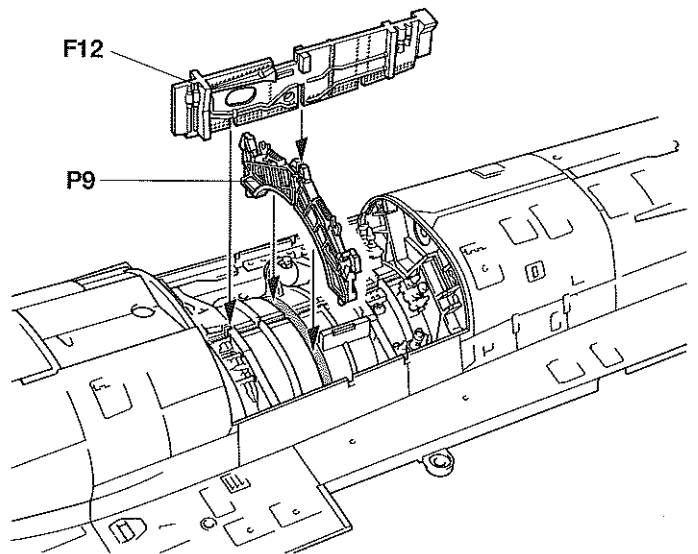
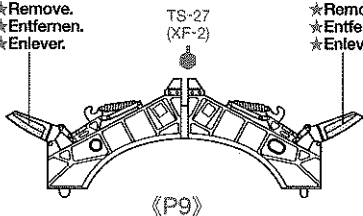
11

主脚納庫部品の取り外し
 Attaching main landing gear compartment parts
 Befestigung der Teile des Hauptfahrwerks-Schachtes
 Fixation des pièces du logement de train principal

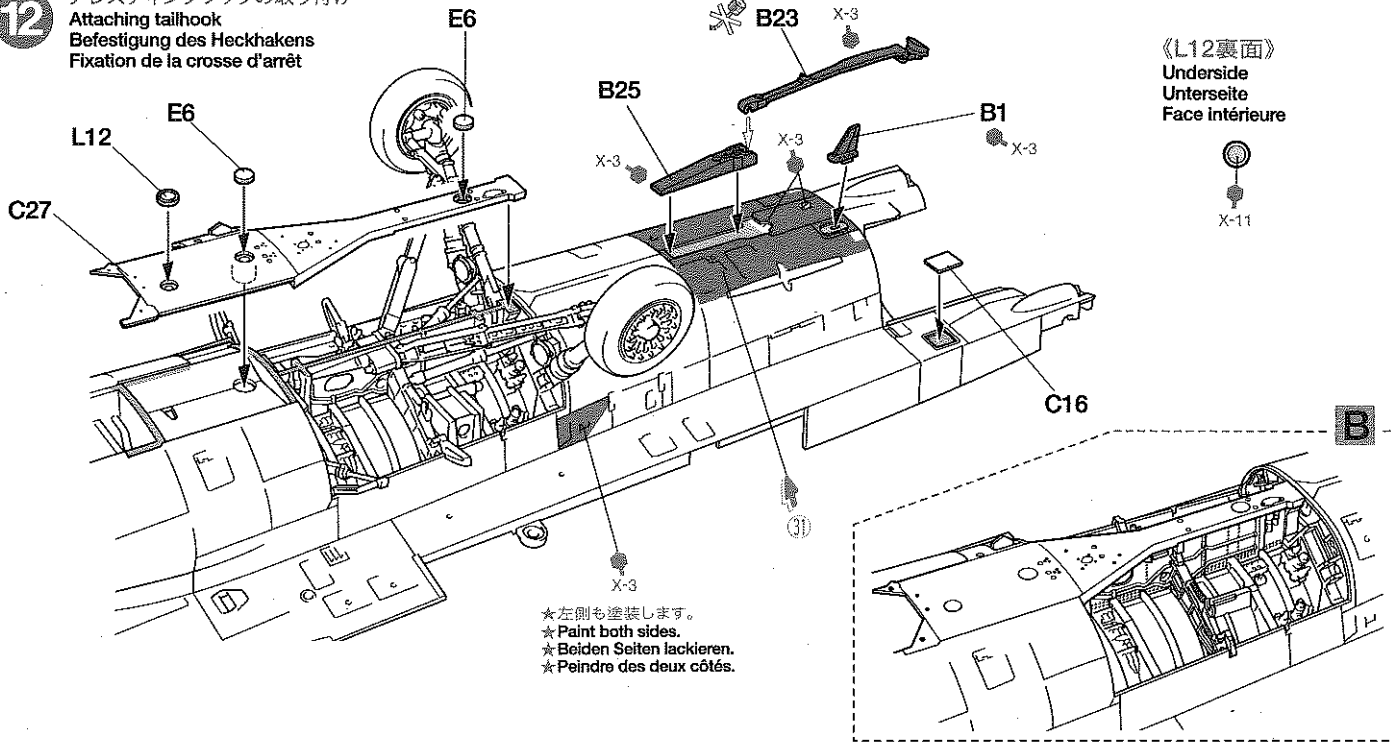
B

★切り取ります。
 ★Remove.
 ★Entfernen.
 ★Enlever.

★切り取ります。
 ★Remove.
 ★Entfernen.
 ★Enlever.

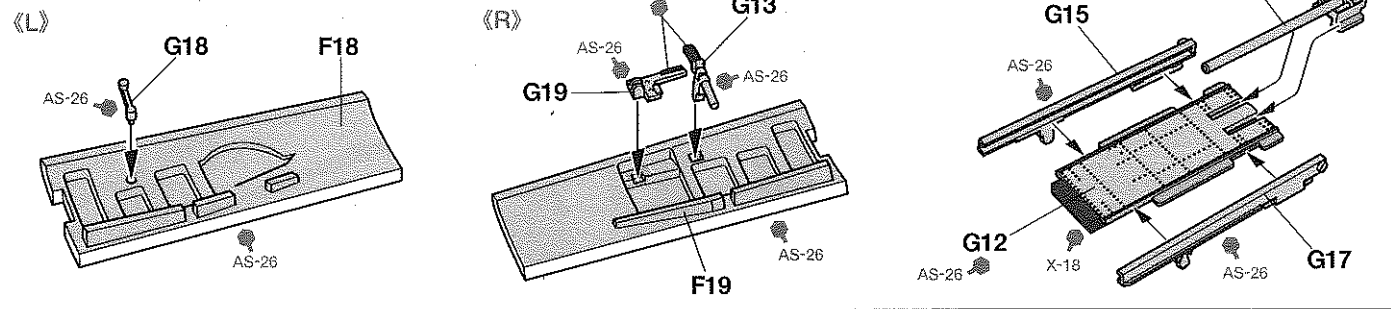


12 アレステイングフックの取り付け
Attaching tailhook
Befestigung des Heckhakens
Fixation de la crosse d'arrêt

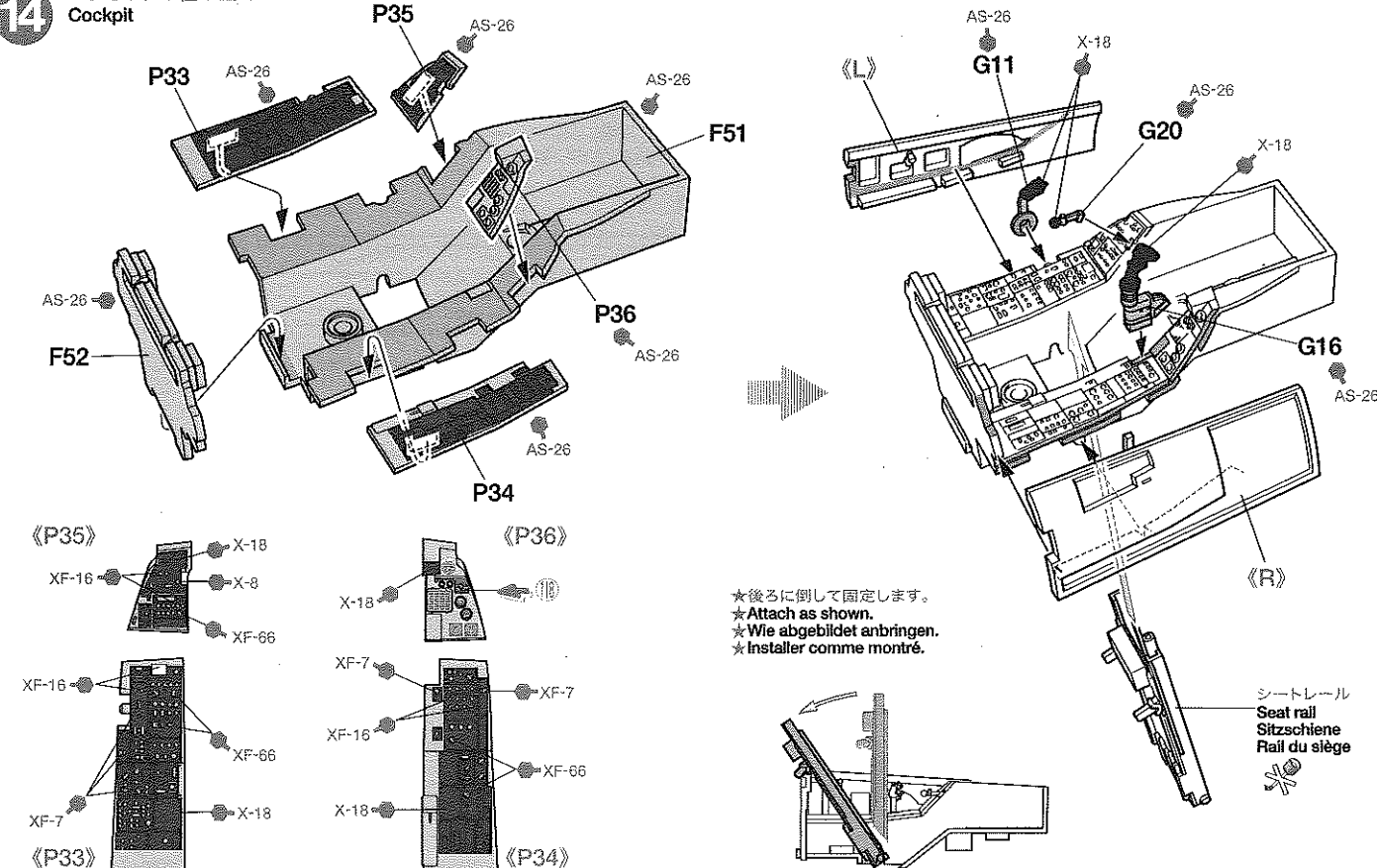


13 《コクピット内壁》
Cockpit side panel
Cockpit-Seitenwand
Panneaux latéraux du cockpit

《シートレール》
Seat rail
Sitzschiene
Rail du siège



14 コクピットの組み立て
Cockpit



《エッチングパーツの切り出し》

- ①エッチングパーツは矢印の形をしたブリッジの部分でカッターナイフで切り出します。
★切り取った後に残るブリッジは鋭く尖っているのてケガには十分注意してください。
- ②切り出した時、部品に出張った部分が残っている場合はヤスリなどで丁寧に削り落とします。ニッパーやカッターは使用しないでください。おこぼれの原因になります。
- ③塗装する場合は必ずタミヤメタルプライマーを吹き付けてから塗装します。
- ④接着には瞬間接着剤を使用します。瞬間接着剤を使用する場合は付属の取扱説明をよく読んでからお使いください。

Cutting out photo-etched parts

- ① Carefully cut out photo-etched parts using a modeling knife.
★After cutting out, pieces may have sharp points. To avoid personal injury, take care when handling photo-etched parts.
- ② Carefully remove any excess using a file. Do not use side cutters or a modeling knife, as this will damage the tools.

- ③ Apply metal primer prior to painting.
- ④ Affix photo-etched parts using instant cement. Carefully read instructions regarding cement use.

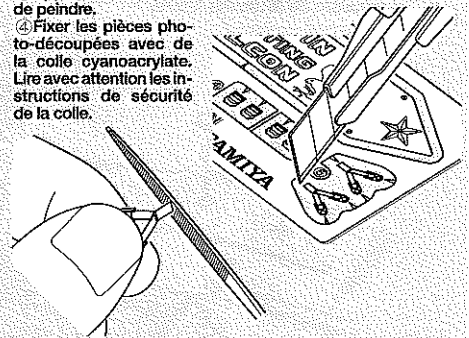
Ab schneiden der fotogeätzten Teile

- ① Die fotogeätzten Teile mit einem Modellbaumesser vorsichtig abschneiden.
- ★Nach dem Ausschneiden können die Teile scharfe Kanten aufweisen. Zur Vermeidung von Verletzungen vorsichtig mit den fotogeätzten Teilen umgehen.
- ② Überstände vorsichtig mit einer Feile entfernen. Zum Entfernen der Überstände keine Seitenschneider oder Modellbaumesser verwenden, da diese Werkzeuge beschädigt werden können.
- ③ Vor dem Lackieren Metall-Grundierung auftragen.
- ④ Die fotogeätzten Teile mit Sekundenkleber anheften. Die Warnhinweise auf dem Kleber genau durchlesen.

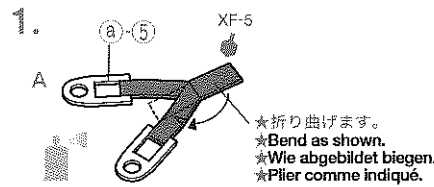
Prélèvement des pièces photo-découpées

- ① Détacher avec précaution les pièces photo-découpées de la planche à l'aide d'un couteau de modéliste.
- ★Après détachement, les pièces peuvent présenter des pointes acérées. Pour éviter de se blesser, les manipuler avec précaution.

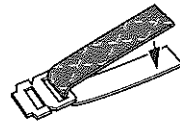
- ② Enlever les parties excédentaires en les limant soigneusement. Ne pas utiliser de pinces coupantes ni de couteau de modéliste, ils seraient endommagés.
- ③ Appliquer de l'apprêt pour métal avant de peindre.
- ④ Fixer les pièces photo-découpées avec de la colle cyanoacrylate. Lire avec attention les instructions de sécurité de la colle.



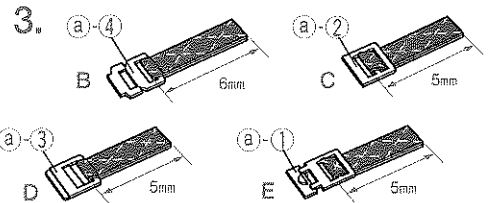
15 シートベルトの組み立て
(パイロットを取り付けない場合)
Seatbelt assembly (when not installing pilot)
Zusammenbau des Sitzgurtes
(wenn kein Pilot eingesetzt wird)
Assemblage du harnais (pilote non installé)



2.

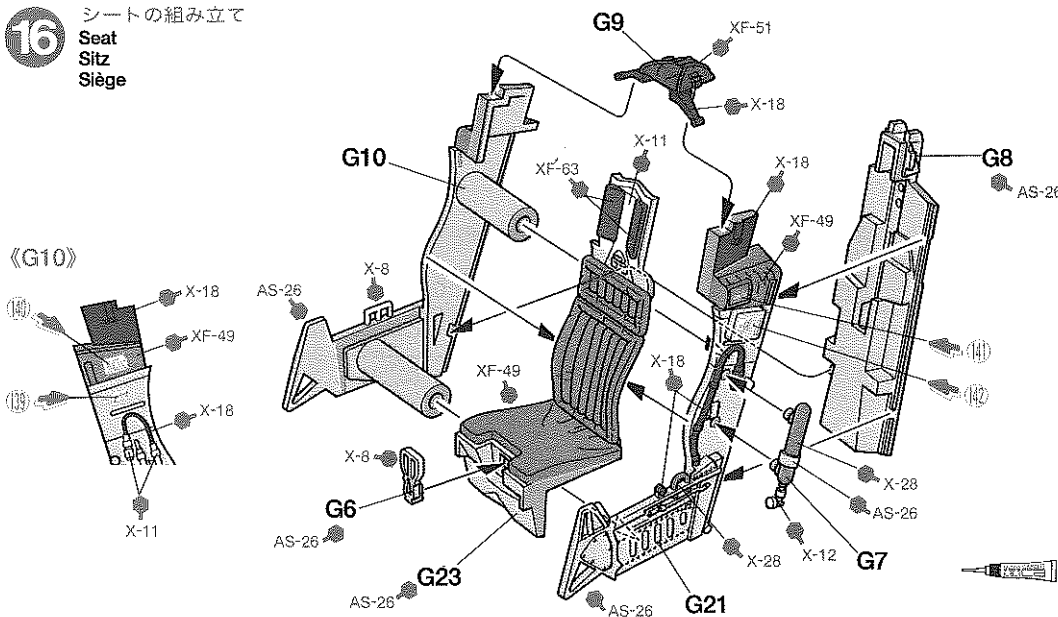


エッチングパーツ②の①～⑤を使う分だけ切り出します。マスクシールからシートベルトを2cmに切って図のように貼ります。
Cut out ①-⑤ from photo-etched sheet ②. Cut seatbelt to 2cm length from masking sticker and apply as shown.
①-⑤ vom fotogeätzten Blatt ② ausschneiden. Vom Abkleber 2cm für den Sitzgurt abschneiden und wie abgebildet anbringen.
Découper ①-⑤ de la planche de photo-découpe ②. Découper une sangle de 2cm de la planche de masquages et appliquer comme montré.



BとDは2個ずつ作り、指定された長さにベルトを切りそろえます。
Make each 2 pieces of B and D. Cut off belts to shown lengths.
Je zwei Teile von B und D anfertigen. Die Gurte in der abgebildeten Länge abschneiden.
Préparer 2 de chaque de B et D. Découper les sangles aux longueurs indiquées.

16 シートの組み立て
Seat
Sitz
Siège

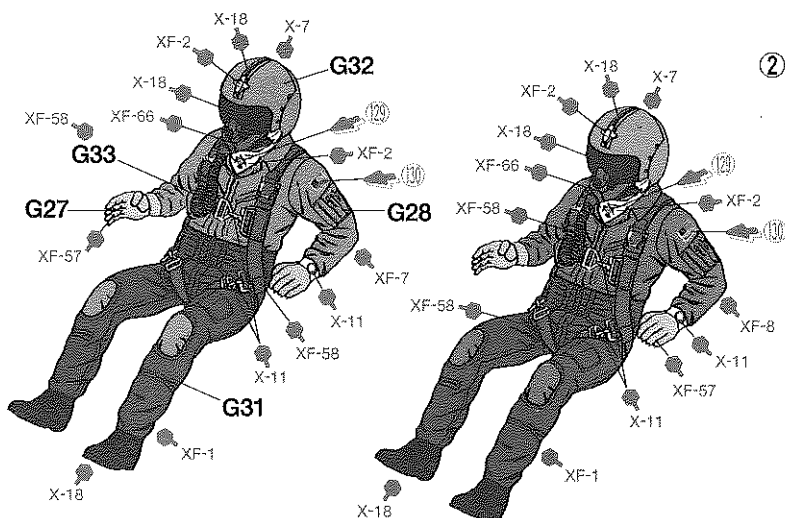


シートベルトの取り付け
(パイロットを取り付けない場合)
When not installing pilot.
Wenn kein Pilot eingesetzt wird.
Pilote non installé.

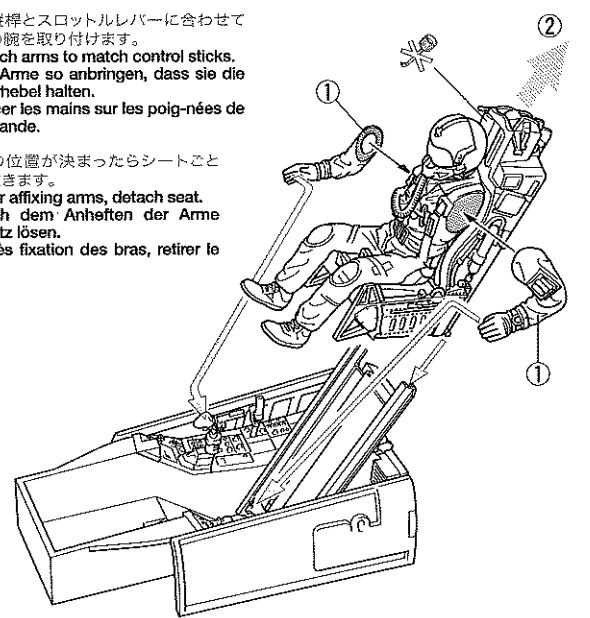
シートベルトは瞬間接着剤で接着します。
Affix seatbelts using instant cement.
Mit Sekundenkleber die Sitzgurte anbringen.
Fixer les harnais à l'aide de la colle rapide.

17 パイロットの取り付け
Pilot installation
Einsetzen des Piloten
Installation du pilote

- ★人形の塗装はどちらかを選んでください。
★Select either color (red or blue).
- ★Wählen Sie eine Farbe (Rot oder Blau).
- ★Choisir la couleur (rouge ou bleu).



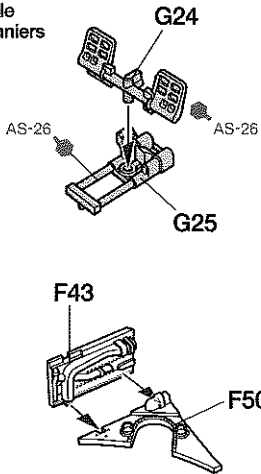
- ① ★操縦桿とスロットルレバーに合わせて左右の腕を取り付けます。
★Attach arms to match control sticks.
★Die Arme so anbringen, dass sie die Steuerhebel halten.
★Placer les mains sur les poignées de commande.
- ② ★腕の位置が決まったらシートごと引き抜きます。
★After affixing arms, detach seat.
★Nach dem Anheften der Arme den Sitz lösen.
★Après fixation des bras, retirer le siège.



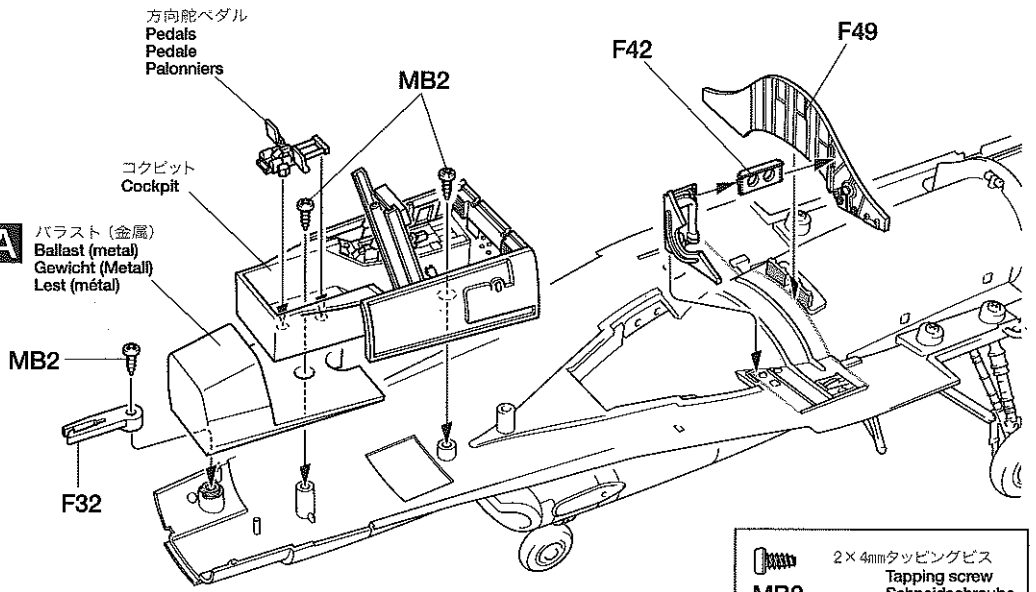
18 コックピットの取り付け
Installing cockpit
Cockpit-Einbau
Installation du cockpit

《方向舵ペダル》

Pedals
Pedale
Palonniers

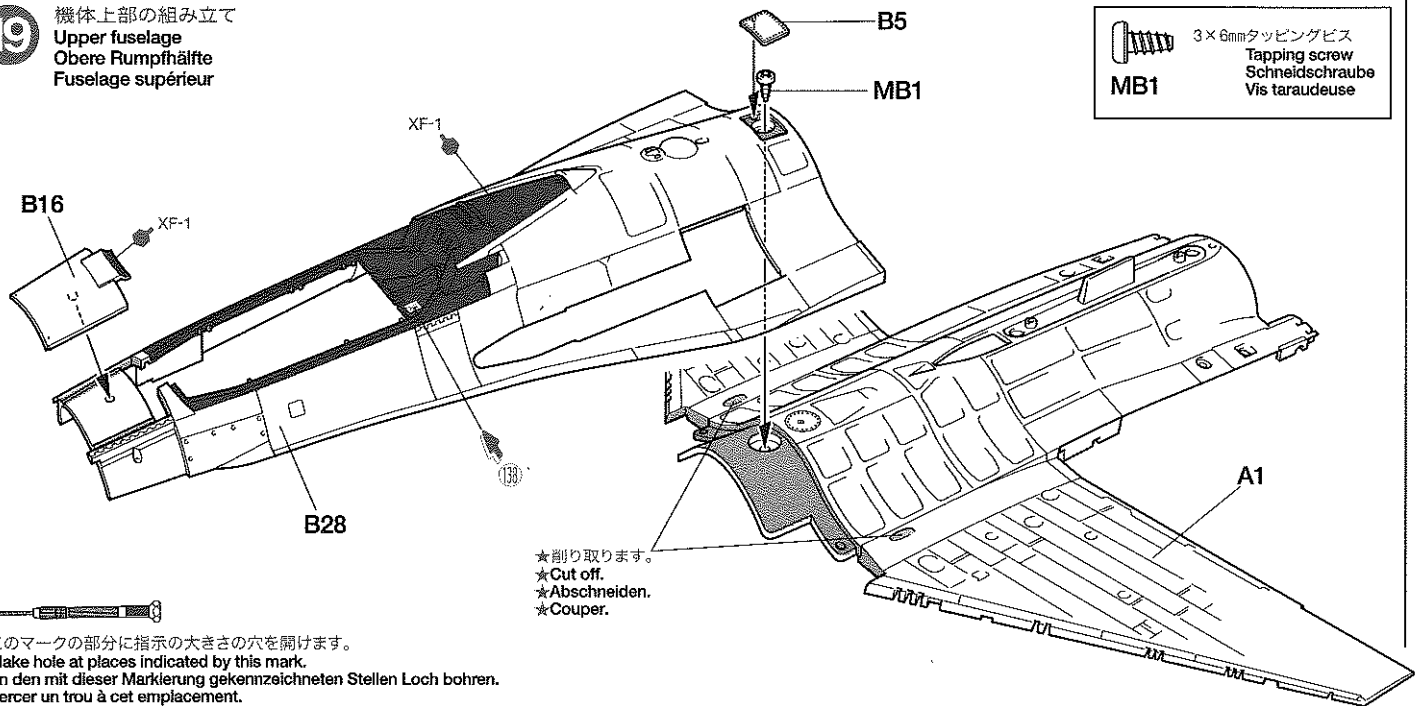


A バラスト (金属)
Ballast (metal)
Gewicht (Metall)
Lest (métal)



MB2 2×4mmタッピングビス
Tapping screw
Schneidschraube
Vis taraudeuse

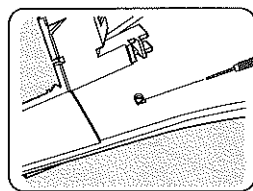
19 機体上部の組み立て
Upper fuselage
Obere Rumpfhälfte
Fuselage supérieur



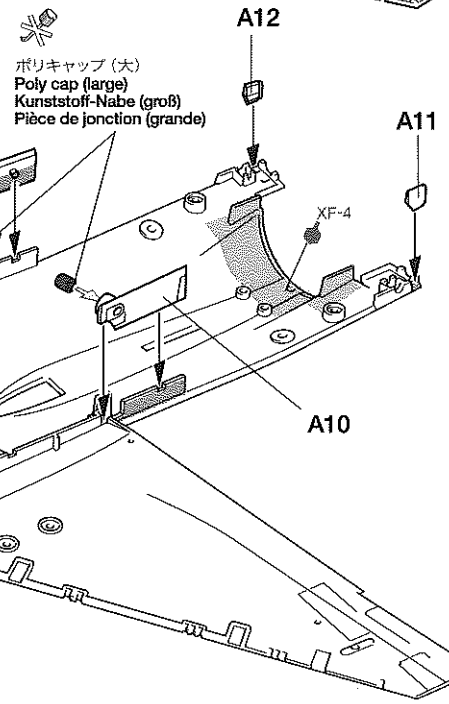
MB1 3×6mmタッピングビス
Tapping screw
Schneidschraube
Vis taraudeuse

★削り取ります。
★Cut off.
★Abschneiden.
★Couper.

このマークの部分に指示の大きさの穴を開けます。
Make hole at places indicated by this mark.
An den mit dieser Markierung gekennzeichneten Stellen Loch bohren.
Perçer un trou à cet emplacement.



機体上部裏面
Upper fuselage (inside)
Obere Rumpfhälfte (Innen)
Fuselage supérieur (intérieur)



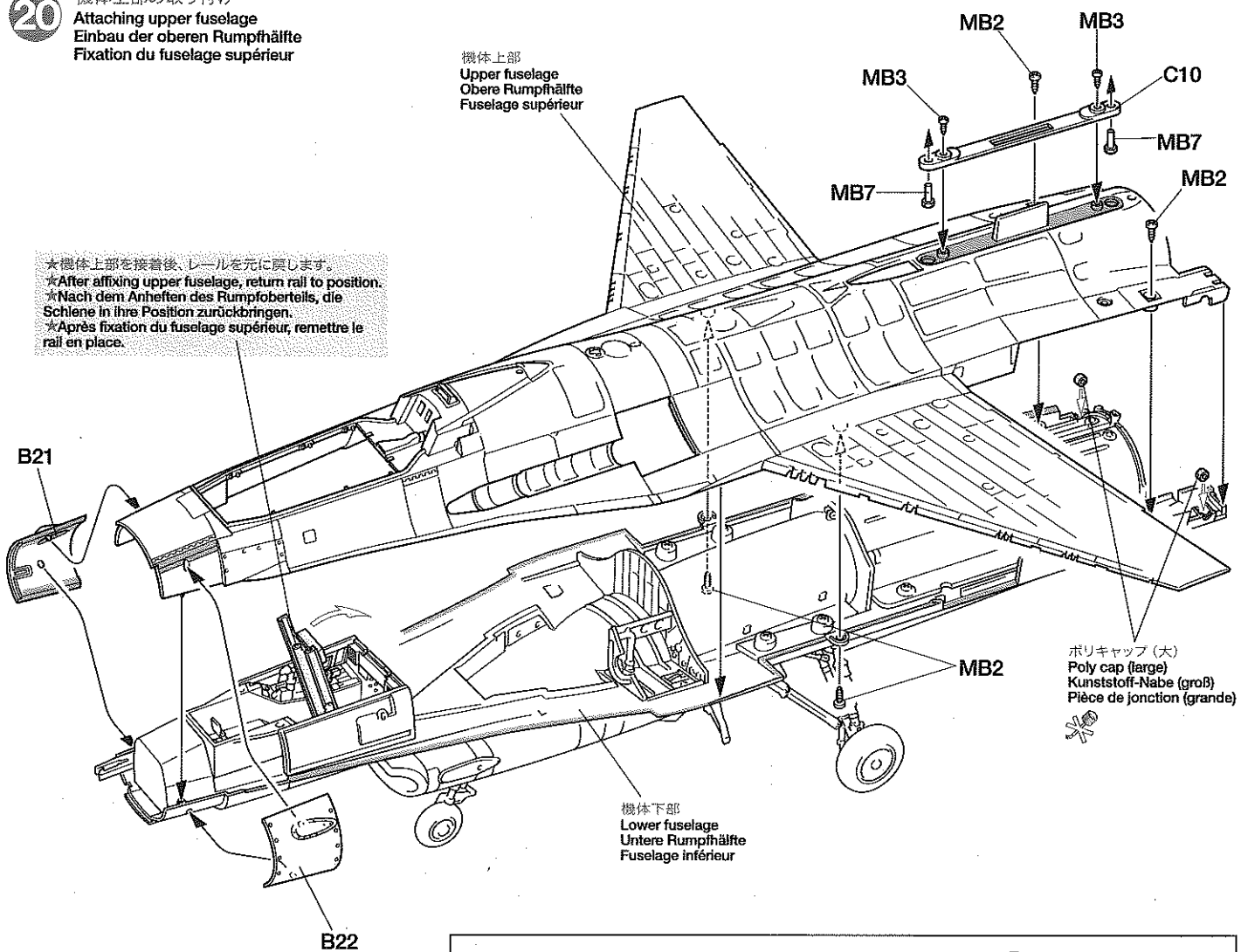
ポリキャップ (大)
Poly cap (large)
Kunststoff-Nabe (groß)
Pièce de jonction (grande)

20

機体上部の取り付け
Attaching upper fuselage
Einbau der oberen Rumpfhälfte
Fixation du fuselage supérieur

機体上部
Upper fuselage
Obere Rumpfhälfte
Fuselage supérieur

★機体上部を接着後、レールを元に戻します。
★After affixing upper fuselage, return rail to position.
★Nach dem Anheften des Rumpfoberteils, die Schiene in ihre Position zurückbringen.
★Après fixation du fuselage supérieur, remettre le rail en place.

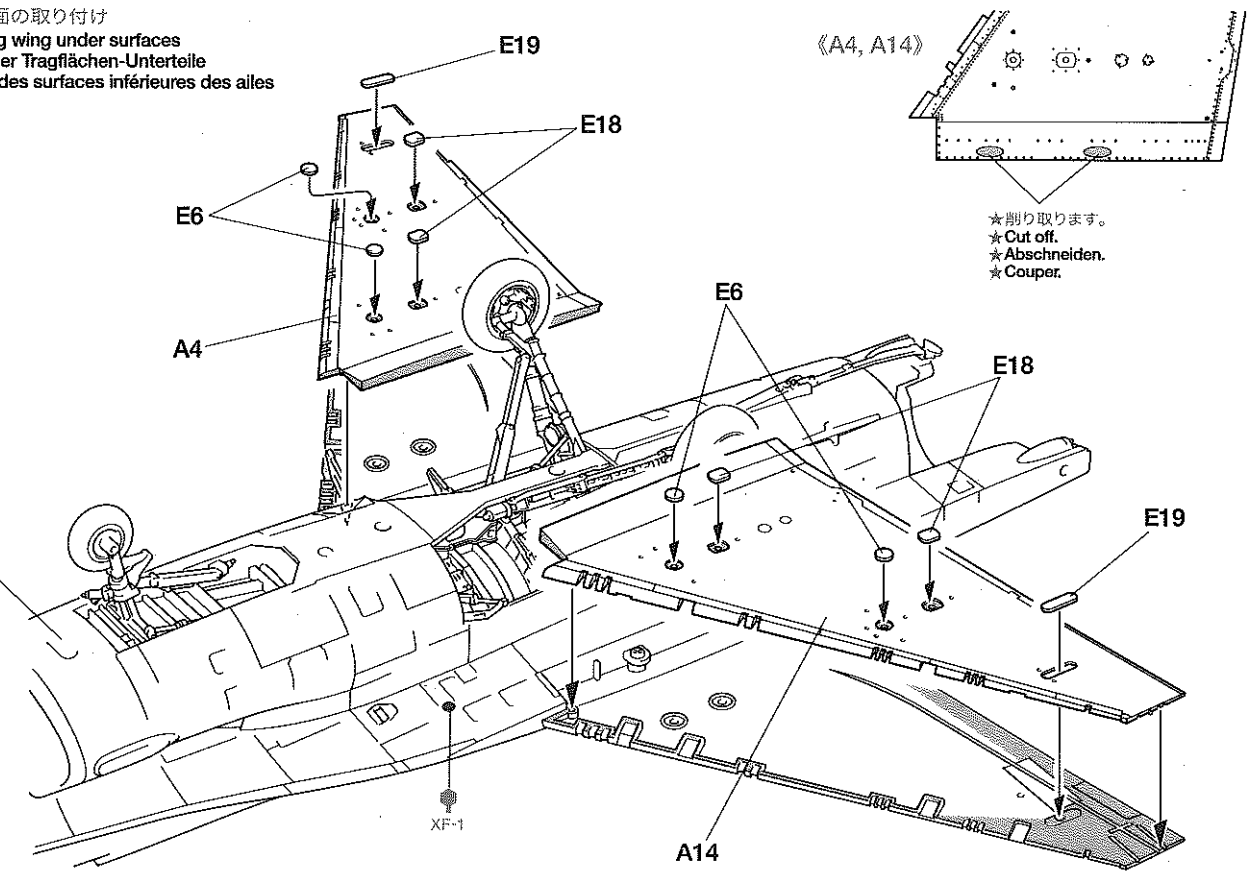


	2×4mmタッピングビス Tapping screw Schneidschraube Vis taraudeuse		1.4×3mmタッピングビス Tapping screw Schneidschraube Vis taraudeuse		六角リベット Hex head rivet Sechskant-Niete Rivet à tête hexagonale
MB2		MB3		MB7	

21

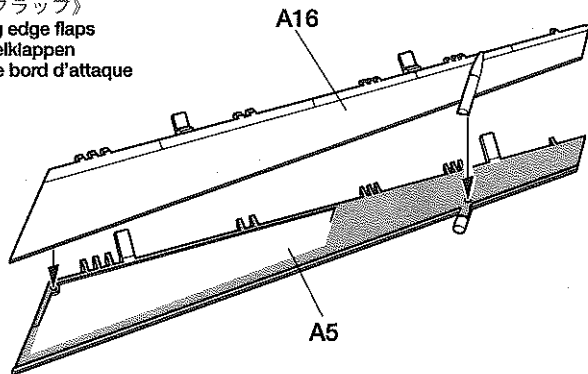
主翼下面の取り付け
Attaching wing under surfaces
Einbau der Tragflächen-Unterteile
Fixation des surfaces inférieures des ailes

機体
Fuselage
Rumpf

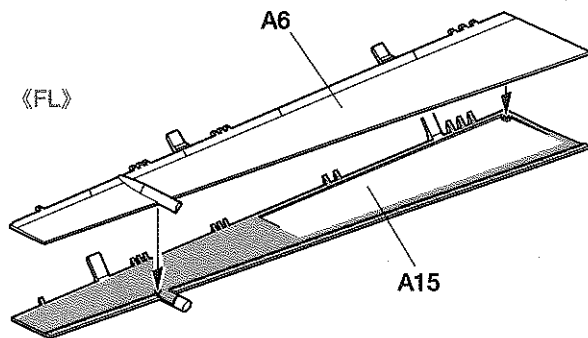


22 《前縁フラップ》
Leading edge flaps
Vorflügelklappen
Becc de bord d'attaque

《FR》

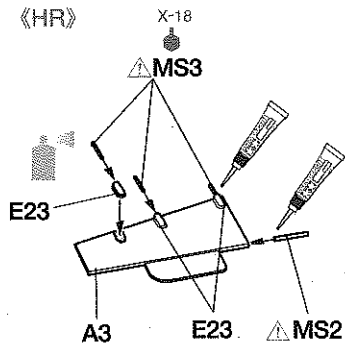


《FL》

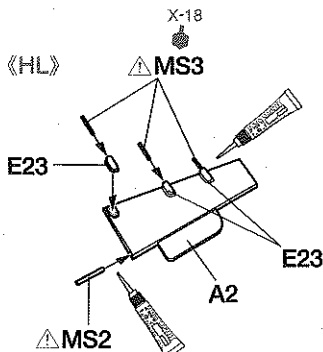


《翼端部》
Wing tips
Flügelspitzen
Extrémités des ailes

《HR》

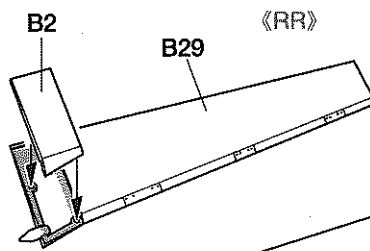


《HL》

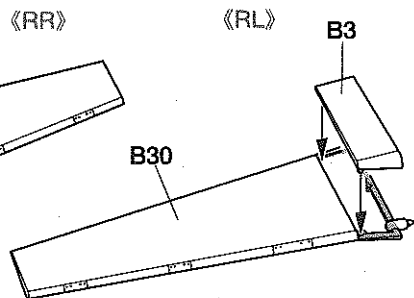


《フラッペロン》
Flaperons
Landeklappen

《RR》



《RL》

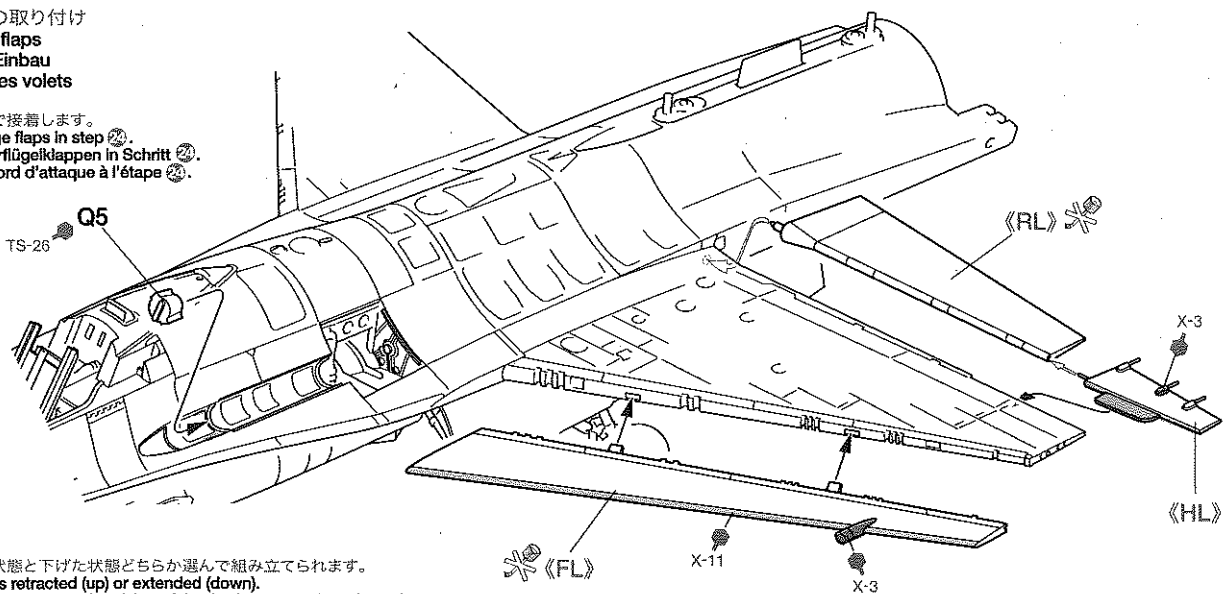


このマークの部品は尖った箇所があるので注意します。
Be careful of pointed parts.
Auf spitzige Teile achten.
Attention aux pièces pointues.

	0.5×5.5mmシャフト Shaft Achse		0.7×6mmシャフト Shaft Achse
MS3		MS2	

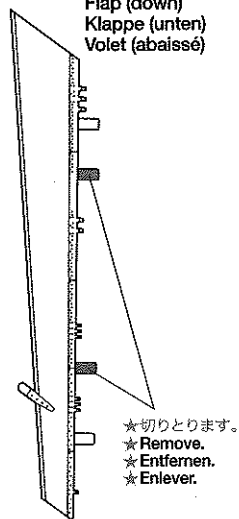
23 フラップの取り付け
Attaching flaps
Klappen-Einbau
Fixation des volets

- ★前縁フラップは②で接着します。
- ★Attach Leading edge flaps in step ②.
- ★Befestigung der Vorflügelklappen in Schritt ②.
- ★Fixer les becs de bord d'attaque à l'étape ②.

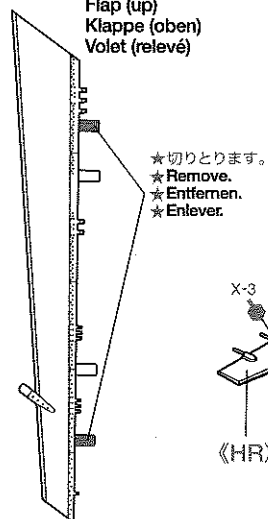


- フラップは上げた状態と下げた状態どちらか選んで組み立てられます。
- Choose either flaps retracted (up) or extended (down).
- Wählen Sie zwischen Klappe eingefahren (oben) oder ausgefahren (unten).
- Choisir entre volets rentrés (relevés) ou braqués (abaissés).

《下げた状態》
Flap (down)
Klappe (unten)
Volet (abaissé)

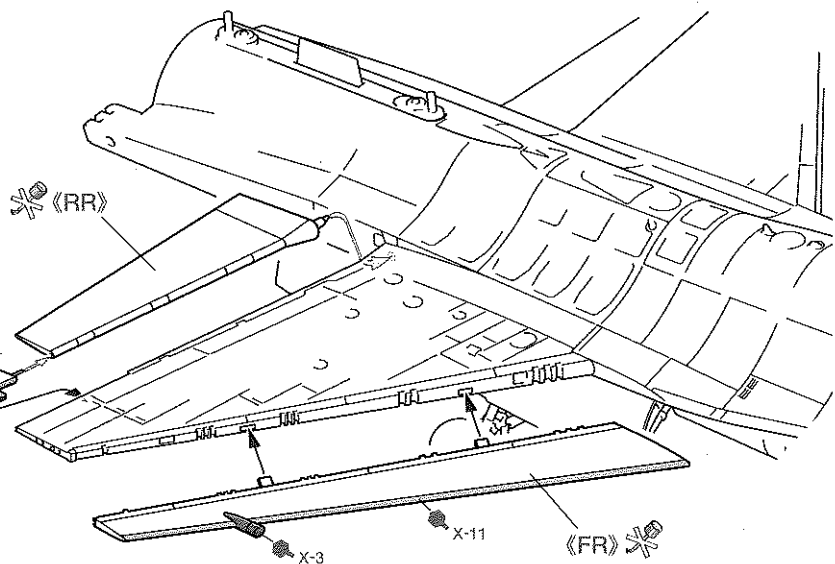


《上げた状態》
Flap (up)
Klappe (oben)
Volet (relevé)



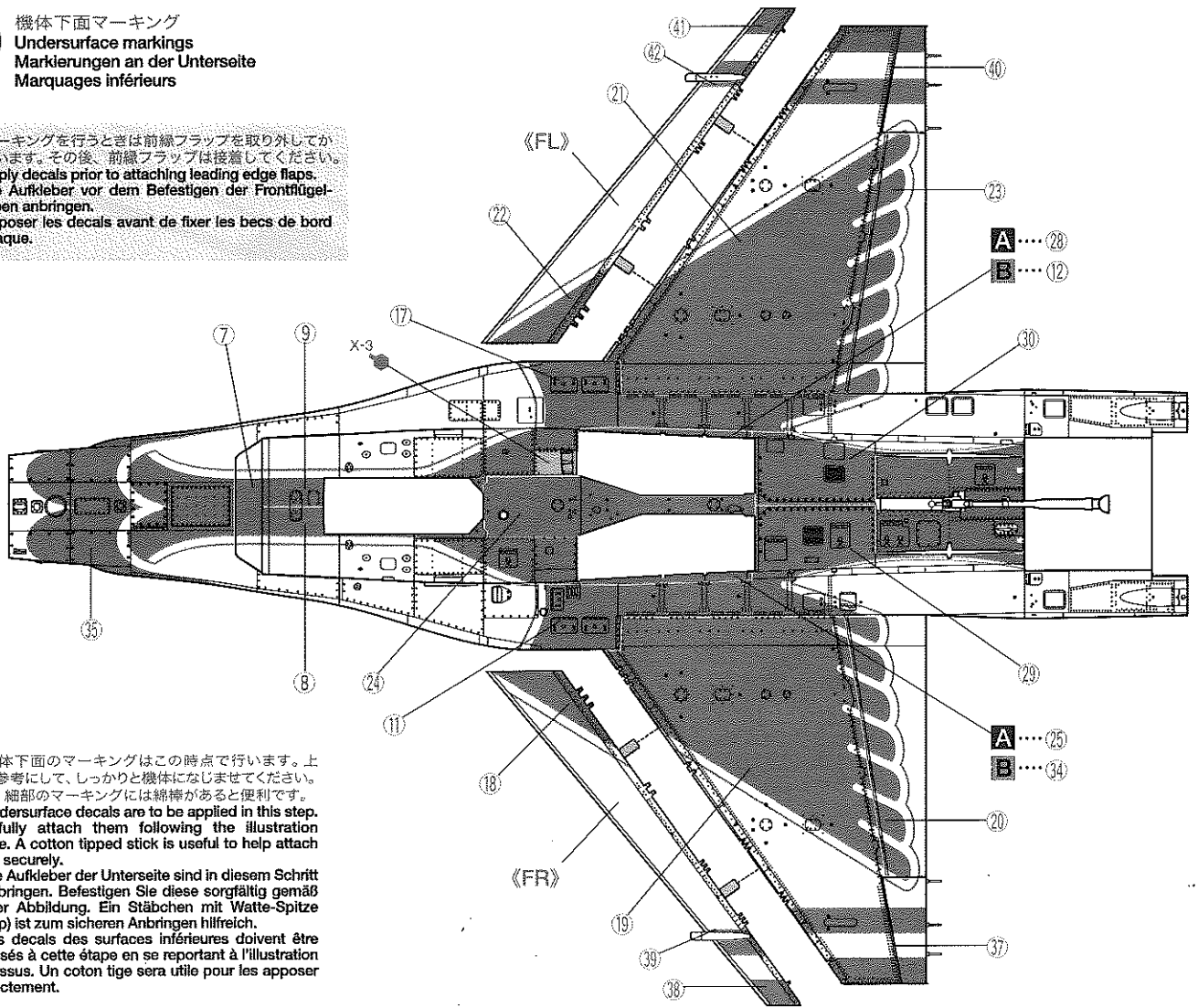
- ★切りとります。
- ★Remove.
- ★Entfernen.
- ★Enlever.

- ★切りとります。
- ★Remove.
- ★Entfernen.
- ★Enlever.



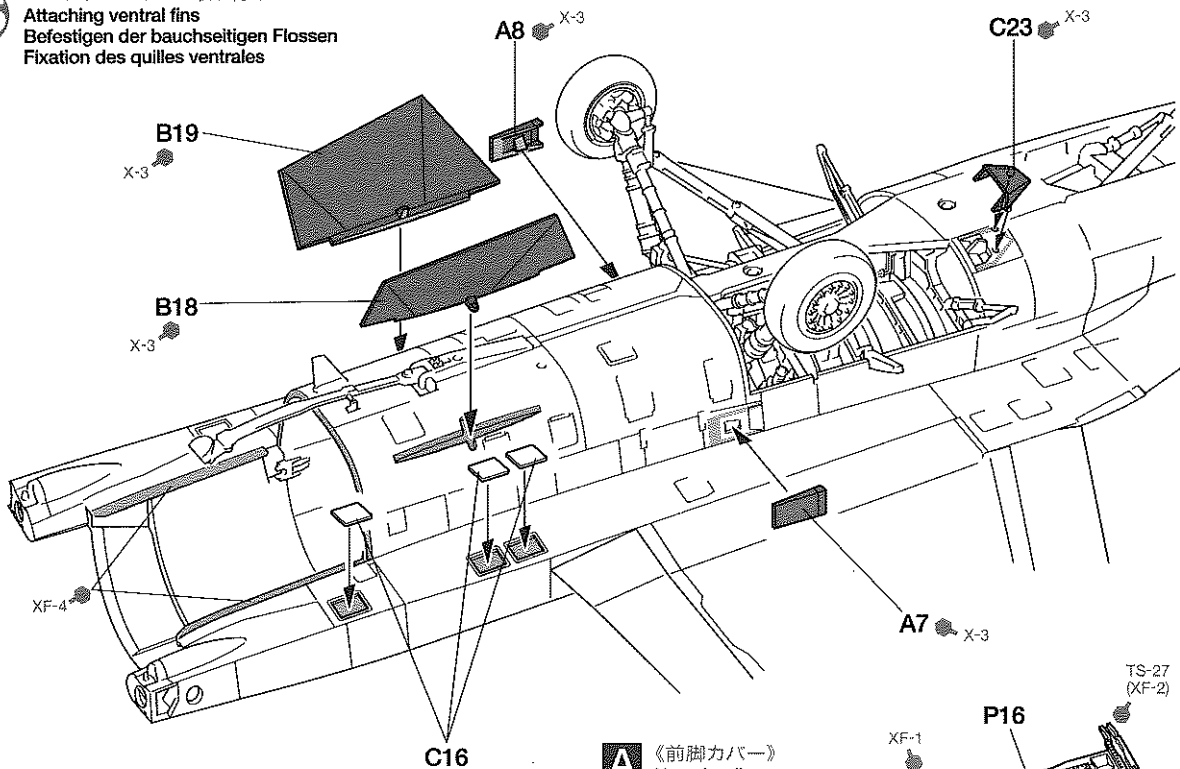
24 機体下面マーキング
Undersurface markings
Markierungen an der Unterseite
Marquages inférieures

★マーキングを行うときは前縁フラップを取り外してから行います。その後、前縁フラップは接着してください。
 ★Apply decals prior to attaching leading edge flaps.
 ★Die Aufkleber vor dem Befestigen der Frontflügelklappen anbringen.
 ★Apposer les decals avant de fixer les becs de bord d'attaque.



★機体下面のマーキングはこの時点で行います。上図を参考にして、しっかりと機体になじませてください。また、細部のマーキングには綿棒があると便利です。
 ★Undersurface decals are to be applied in this step. Carefully attach them following the illustration above. A cotton tipped stick is useful to help attach them securely.
 ★Die Aufkleber der Unterseite sind in diesem Schritt anzubringen. Befestigen Sie diese sorgfältig gemäß obiger Abbildung. Ein Stäbchen mit Watte-Spitze (Q-Tip) ist zum sicheren Anbringen hilfreich.
 ★Les decals des surfaces inférieures doivent être apposés à cette étape en se reportant à l'illustration ci-dessus. Un coton tige sera utile pour les apposer correctement.

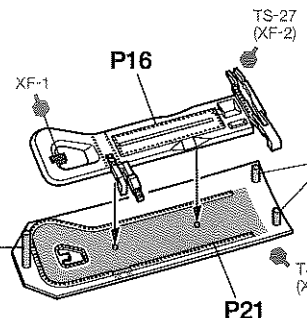
25 ベントラルフィンを取り付け
Attaching ventral fins
Befestigen der bauchseitigen Flossen
Fixation des quilles ventrales



A 《前脚カバー》
Nose landing gear cover
Bugfahrwerk-Klappe
Trappe du train avant

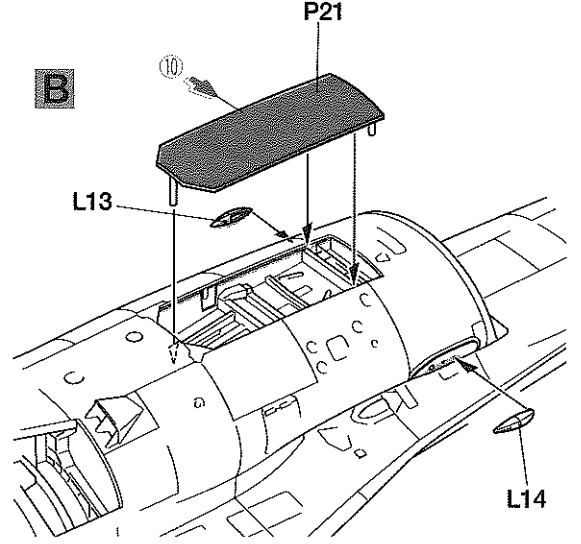
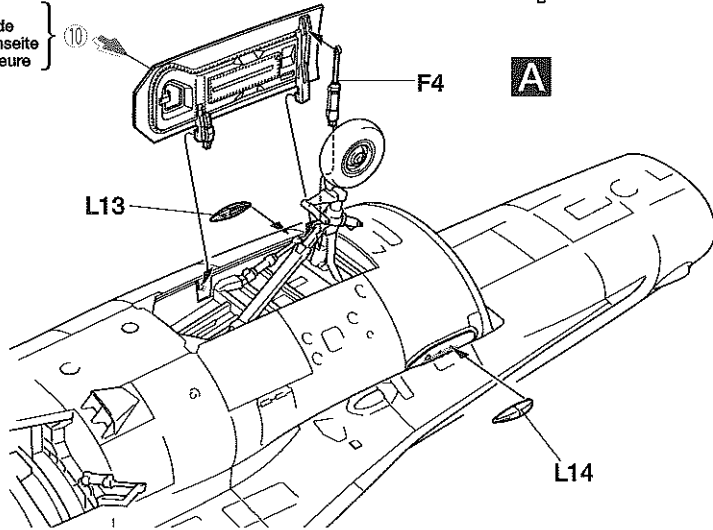
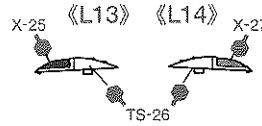
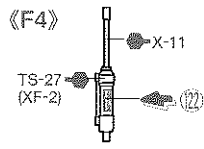
★切り取ります。
 ★Remove.
 ★Entfernen.
 ★Enlever.

★切り取ります。
 ★Remove.
 ★Entfernen.
 ★Enlever.

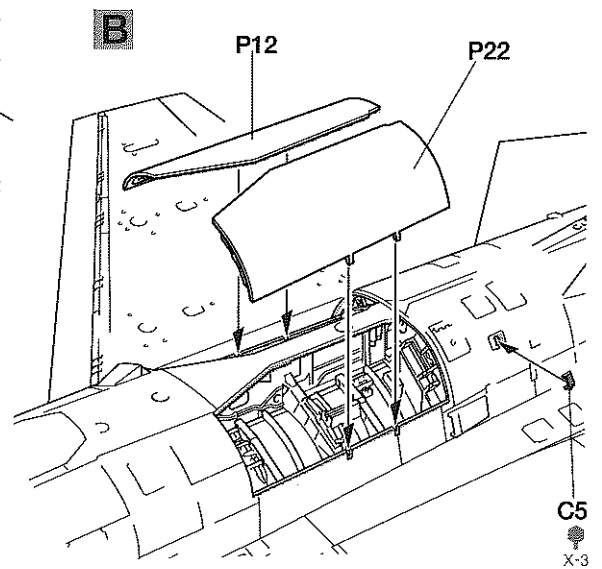
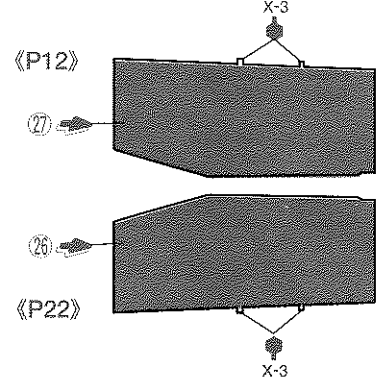
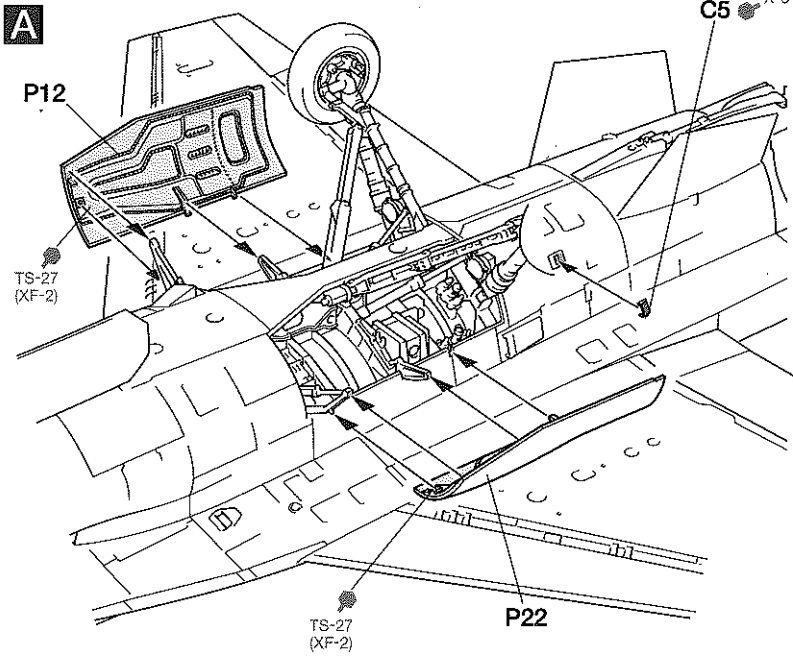


26 前脚カバーの取り付け
Attaching nose landing gear cover
Einbau der Bugfahrwerk-Klappe
Fixation de la trappe du train avant

表側
 Outside
 Außenseite
 Extérieure



27 主脚カバーの取り付け
Attaching main landing gear covers
Einbau der Hauptfahrwerk-Klappen
Fixation des trappes du train principal

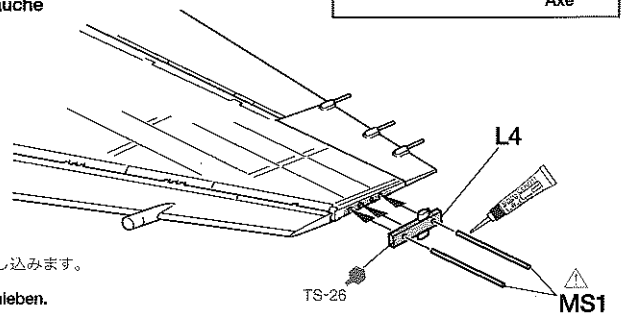
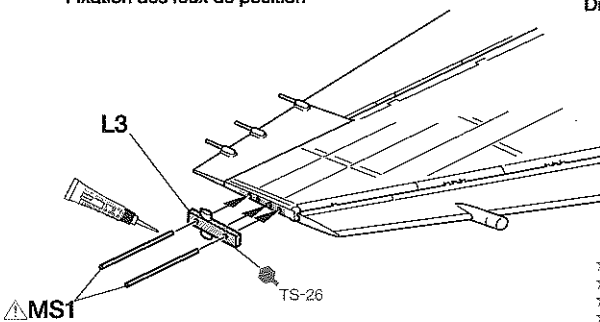


28 翼端灯の取り付け
Attaching wing tip lights
Einbau der Flügelspitzen-Lichter
Fixation des feux de position

《右翼端》
 Right
 Rechts
 Droit

《左翼端》
 Left
 Links
 Gauche

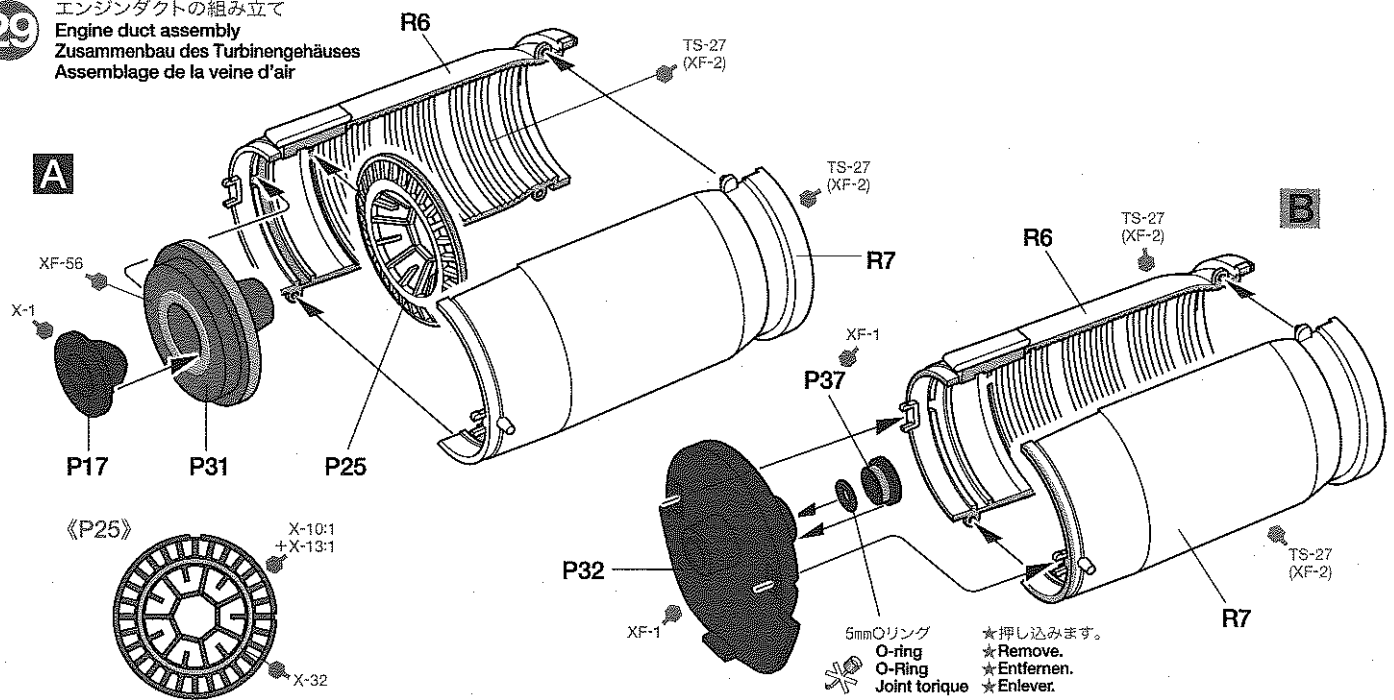
MS1 0.7 × 13.5mm シャフト
 Shaft
 Achse
 Axe



★シャフトはしっかりと押し込みます。
 ★Fully insert shafts.
 ★Die Achsen ganz einschieben.
 ★Insérer les axes à fond.

29

エンジンダクトの組み立て
Engine duct assembly
Zusammenbau des Turbinengehäuses
Assemblage de la veine d'air

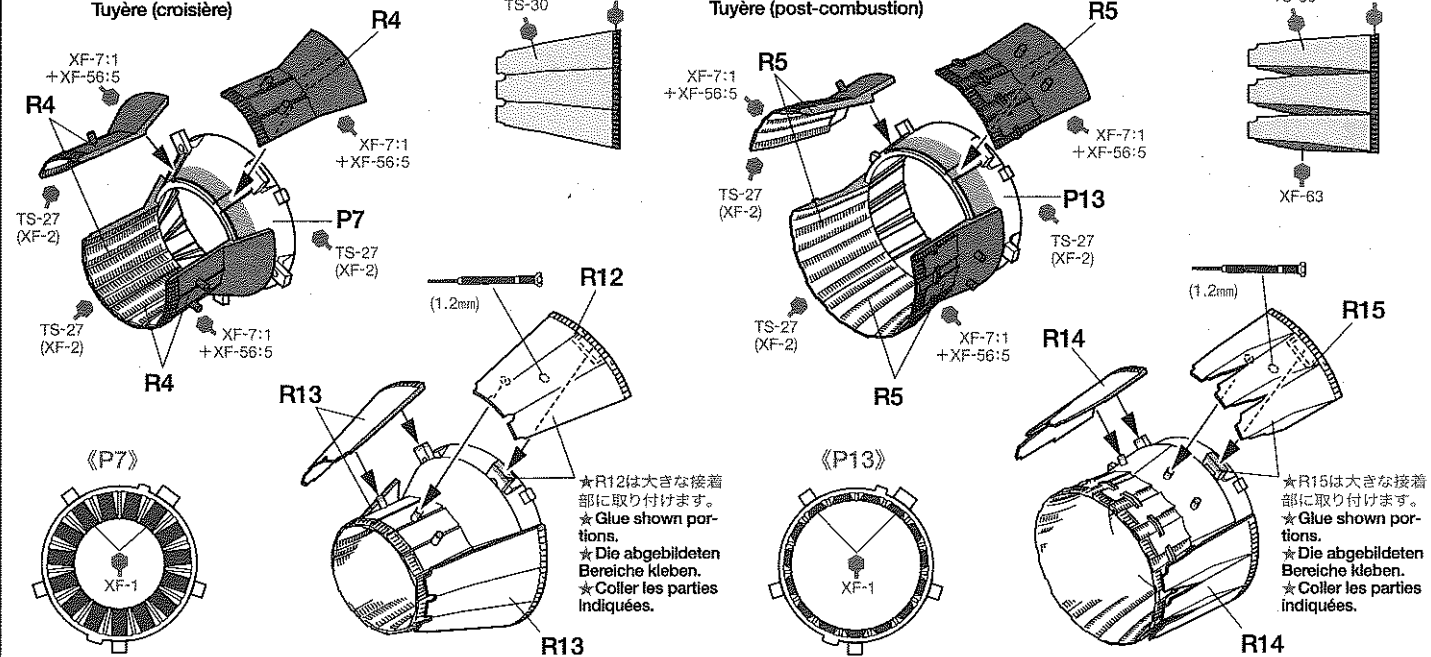


30

ノズル (絞った状態)
Nozzle (cruising)
Düse (Normalflug)
Tuyère (croisière)

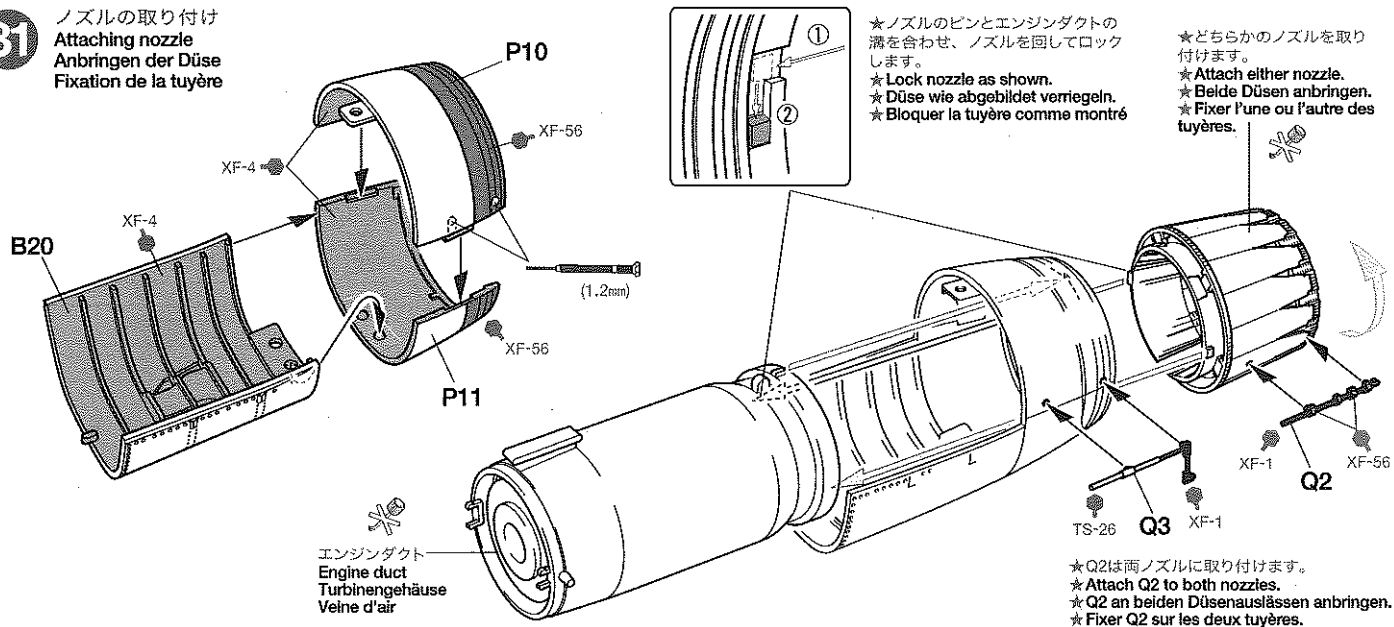
ノズル (開いた状態)
Nozzle (afterburner)
Düse (Nachbrenner)
Tuyère (post-combustion)

《R14, R15》 XF-7:1 + XF-56:5

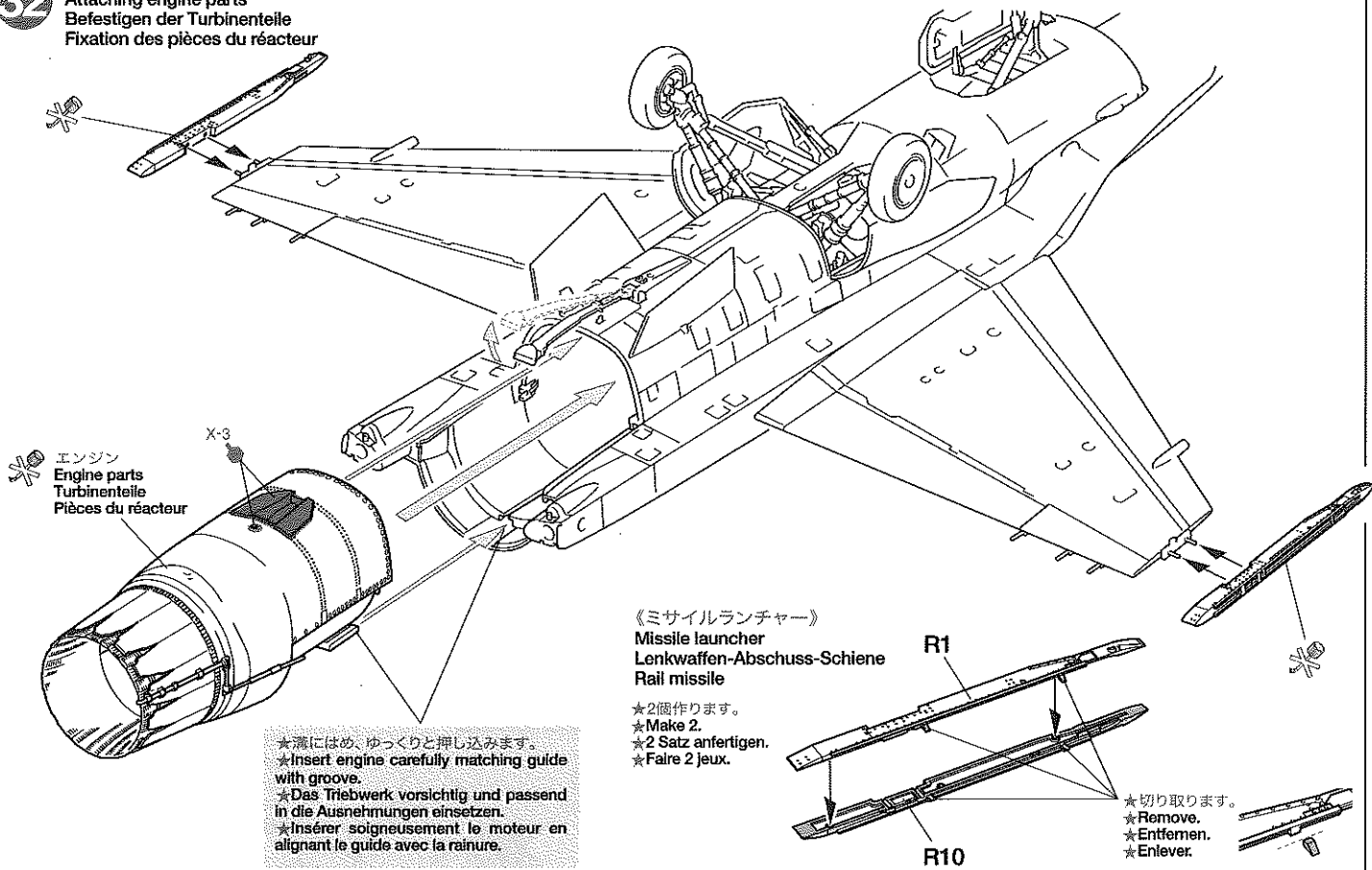


31

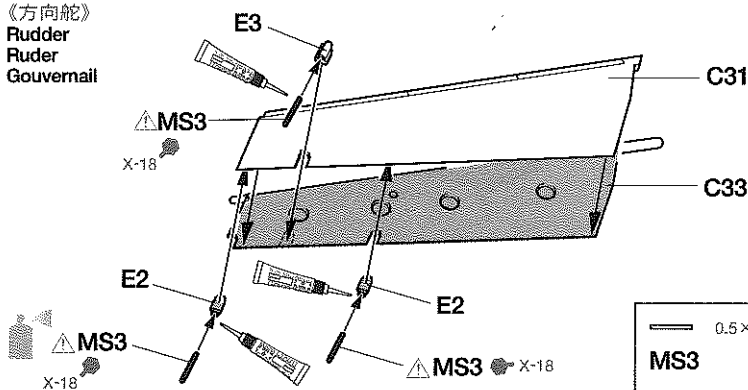
ノズルの取り付け
Attaching nozzle
Anbringen der Düse
Fixation de la tuyère



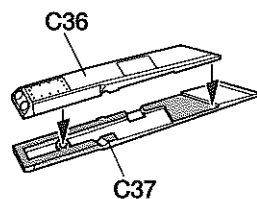
32 エンジンの取り付け
Attaching engine parts
Befestigen der Turbinenteile
Fixation des pièces du réacteur



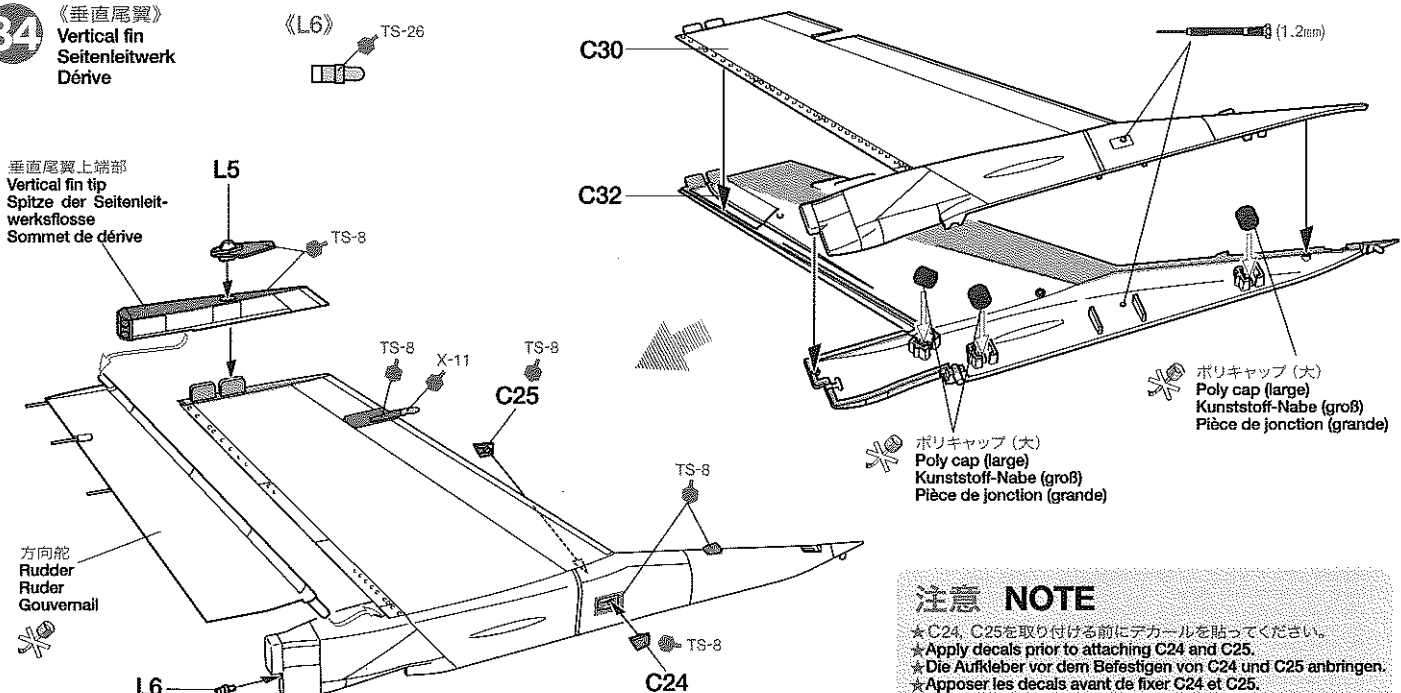
33 《方向舵》
Rudder
Ruder
Gouvernail



《垂直尾翼上端部》
Vertical fin tip
Spitze der Seitenleitwerksflosse
Sommet de dérive



34 《垂直尾翼》
Vertical fin
Seitenleitwerk
Dérive

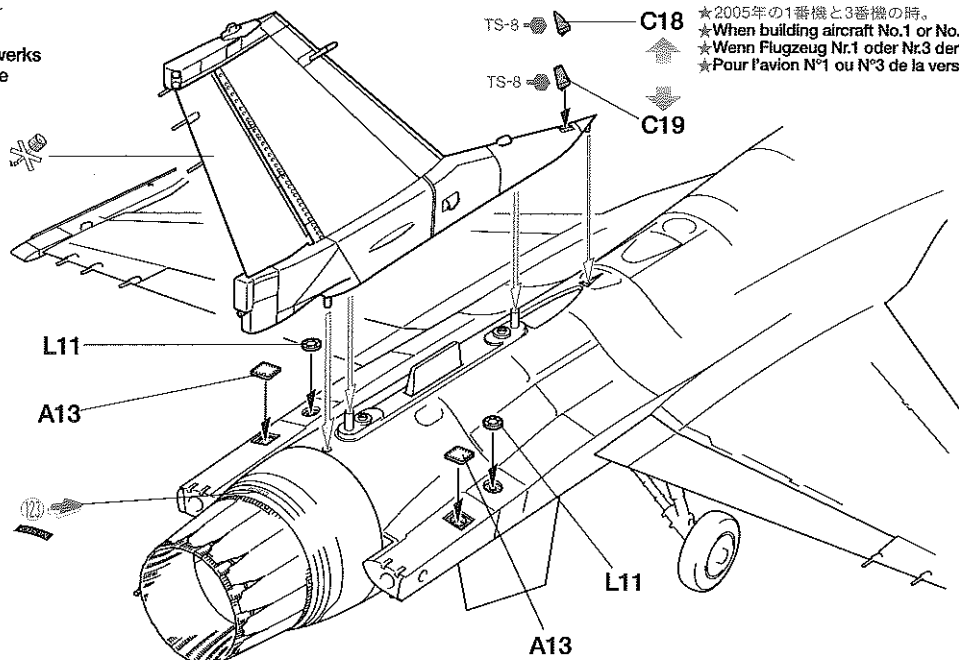


注意 NOTE

★C24, C25を取り付ける前にデカールを貼ってください。
★Apply decals prior to attaching C24 and C25.
★Die Aufkleber vor dem Befestigen von C24 und C25 anbringen.
★Apposer les decals avant de fixer C24 et C25.

35

垂直尾翼の取り付け
Attaching vertical fin
Einbau des Seitenleitwerks
Installation de la dérive



★2005年の1番機と3番機の時。
★When building aircraft No.1 or No.3 of 2005 version.
★Wenn Flugzeug Nr.1 oder Nr.3 der Version 2005 gebaut wird.
★Pour l'avion N°1 ou N°3 de la version 2005.

《L11裏面》
Underside
Unterseite
Intérieure



36

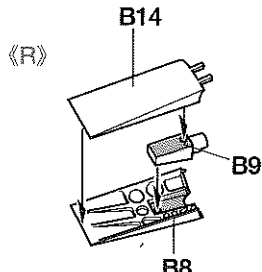
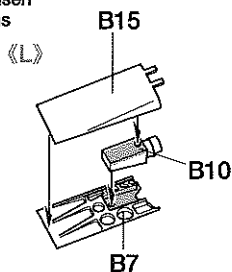
《エアブレーキ》
Air brakes
Luftbremsen
Aérofrens

《水平尾翼》
Horizontal stabilizer
Höhenflosse
Stabilisateur horizontal

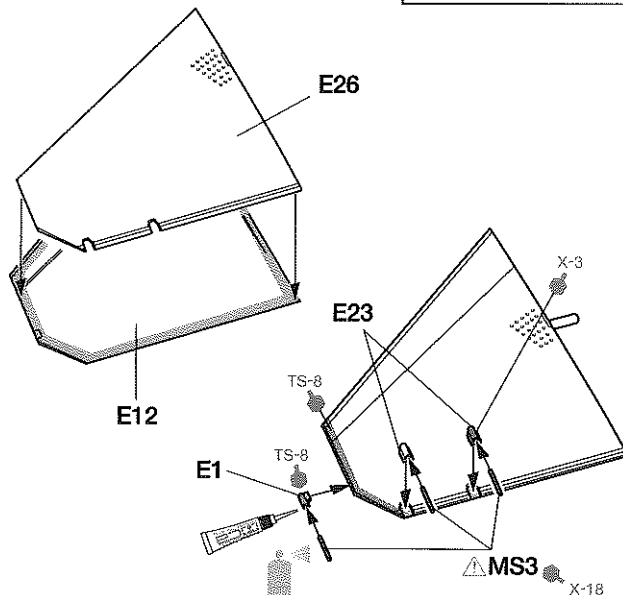
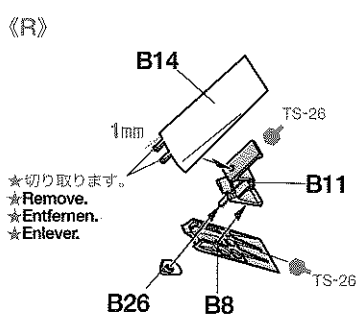
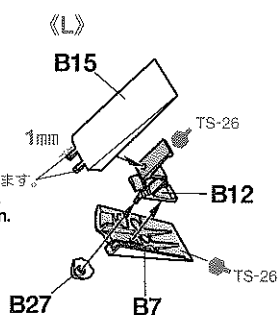
★2枚作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

MS3 0.5×5.5mmシャフト
Shaft
Achse
Axe

《閉状態》
Closed
Geschlossen
Fermés

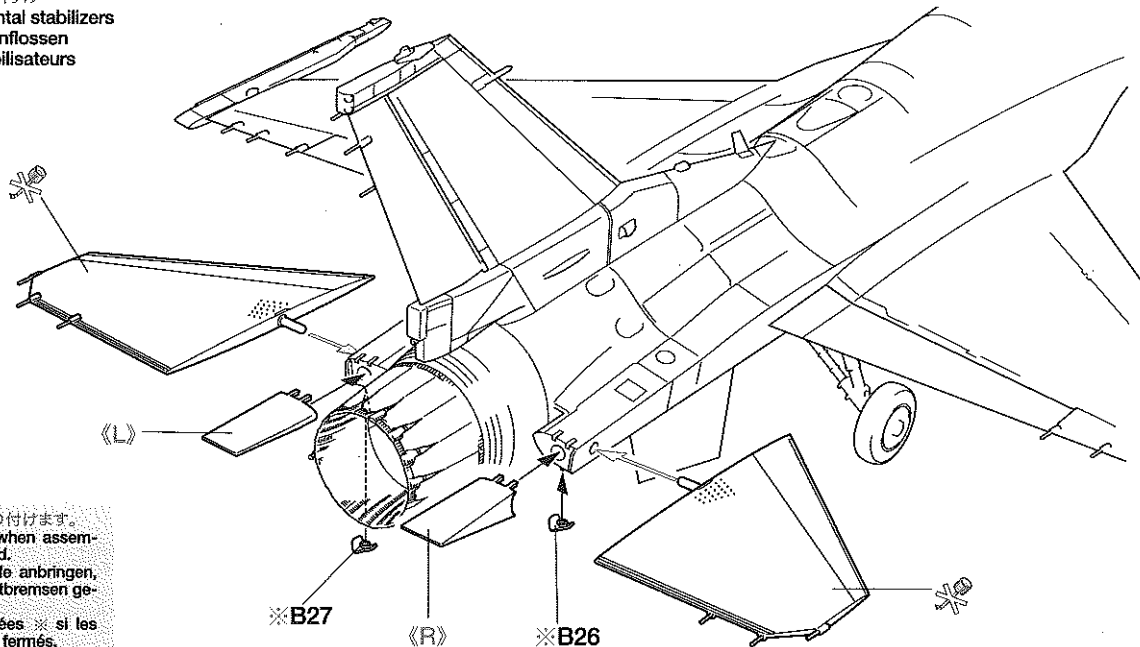


《開状態》
Open
Offen
Ouverts



37

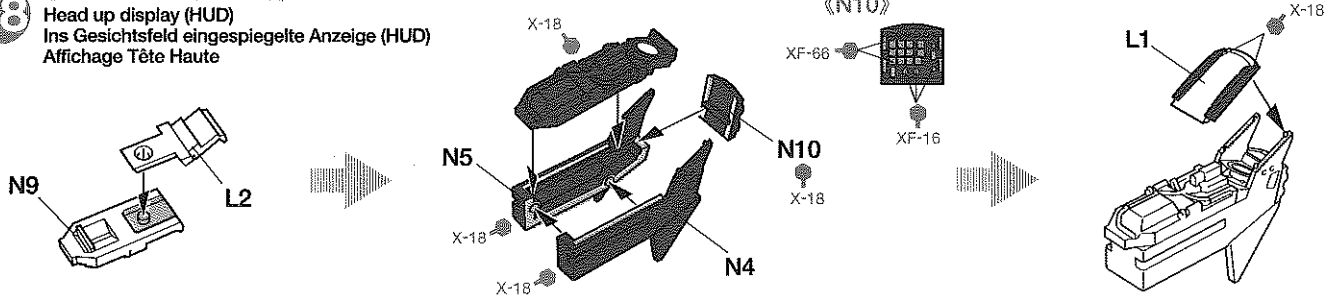
水平尾翼の取り付け
Attaching horizontal stabilizers
Einbau der Höhenflossen
Fixation des stabilisateurs
horizontaux



※の部品は閉状態のみ取り付けます。
Attach parts marked ※ when assembling with air brakes closed.
Die mit ※ markierten Teile anbringen, wenn die geschlossenen Luftbremsen gebaut werden.
Utiliser les pièces marquées ※ si les aérofrens sont pré-sentés fermés.

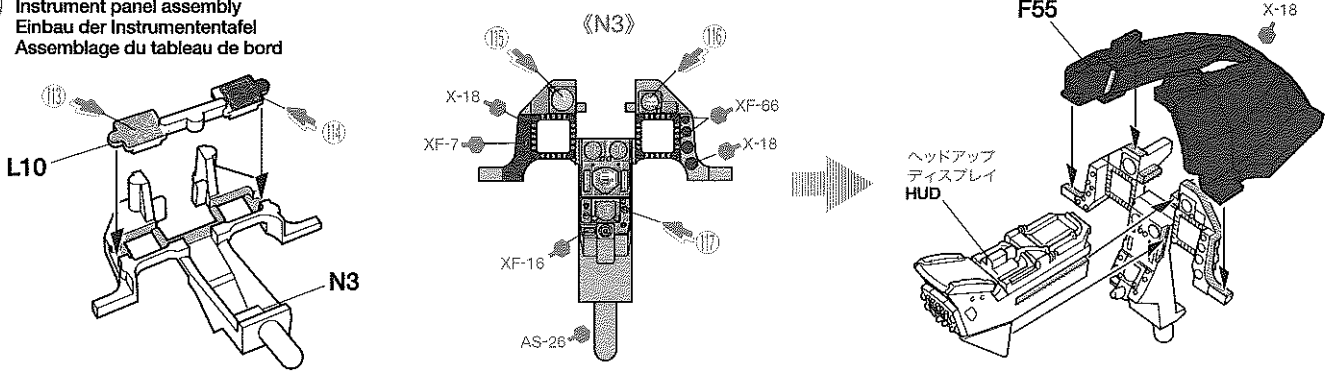
38

《ヘッドアップディスプレイ》
 Head up display (HUD)
 Ins Gesichtsfeld eingespiegelte Anzeige (HUD)
 Affichage Tête Haute



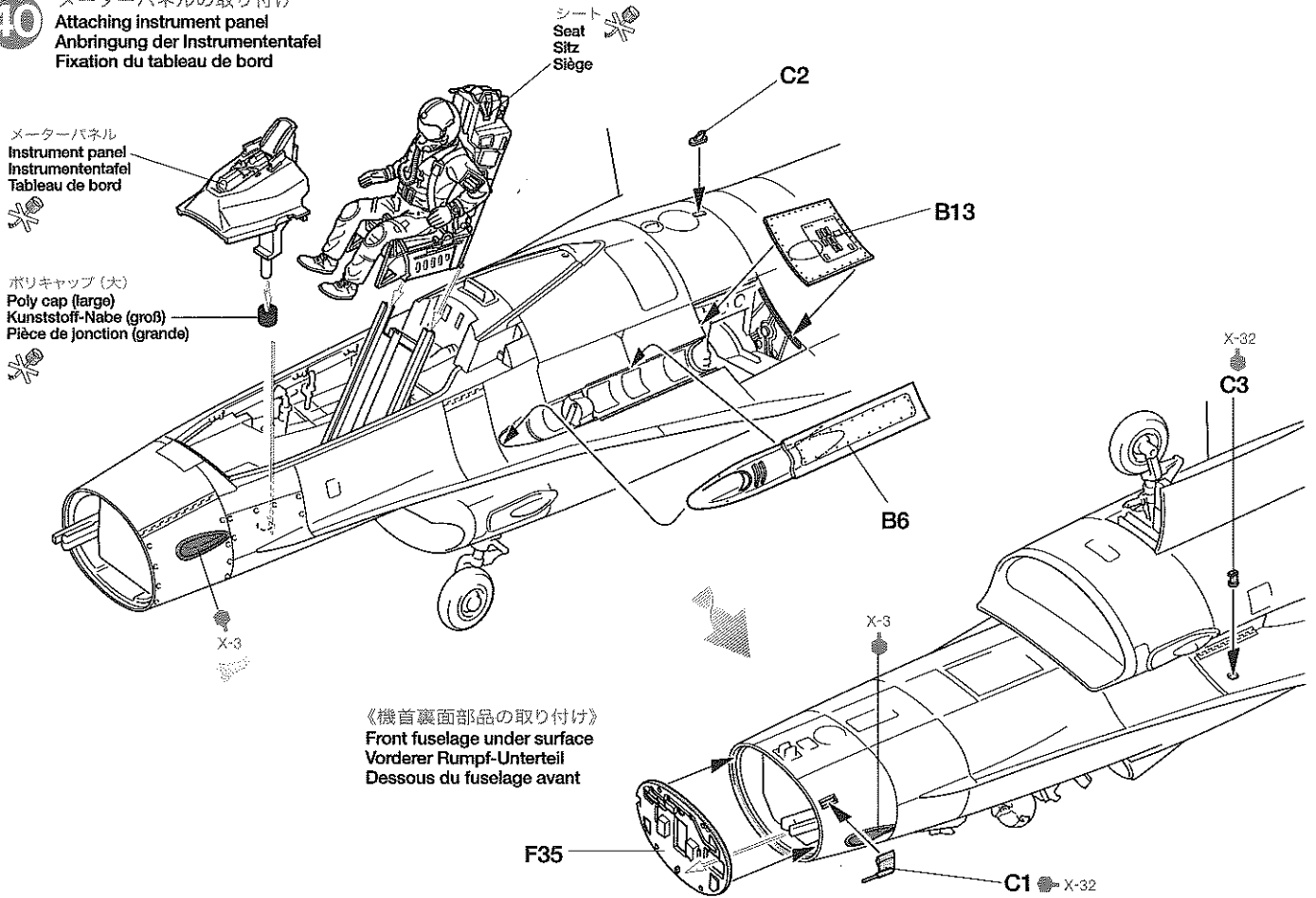
39

メーターパネルの組み立て
 Instrument panel assembly
 Einbau der Instrumententafel
 Assemblage du tableau de bord



40

メーターパネルの取り付け
 Attaching instrument panel
 Anbringung der Instrumententafel
 Fixation du tableau de bord



《機首裏面部品の取り付け》
 Front fuselage under surface
 Vorderer Rumpf-Unterteil
 Dessous du fuselage avant

《マスクシールの使い方》

- ① マスクシールを台紙ごと切り抜きます。
 - ② アルファベットの順にマスクシールを貼ります。この時、先に貼ったマスクシールに少し重ねるように貼っていきます。
 - ③ 裏は市販のマスクングテープで全面を覆ってから塗装してください。
- ※マスクシールやマスクングテープは浮き上がっているとそこから塗料が入ってしまい失敗の原因になるため、塗装する前に浮いていそうな場所はしっかり押さえてから塗装します。また、前部キャノピーはスモーク部品を、後部キャノピーはクリア部品を使用してください。

Using masking sticker

- ① Cut out masking sticker.
- ② Apply masking stickers referring to illustration, placing the stickers over the border in numbered order.

③ Mask whole inside of the canopy using masking tape (sold separately).

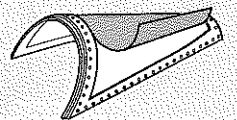
- ※Make sure to securely apply masking sticker/tape so as not to allow any gap under the sticker. Use front canopy (smoke) and rear canopy (clear) for "Thunderbirds" aircraft.

Verwendung der Abkleber

- ① Abkleber ausschneiden
 - ② Abkleber unter Beachtung der Abbildung anbringen, dabei die Abkleber in der nummerierten Reihenfolge über die Grenze kleben.
 - ③ Die gesamte Innenseite des Kabinendaches mit (getrennt erhältlichem) Abklebeband abkleben.
- ※Unbedingt auf sicheres Andrücken von Abkleber/Abklebeband achten, so dass sich kein Spalt unter dem Abkleber bilden kann. Für die "Thunderbirds" Flugzeuge die vordere (rauchfarbene) und hintere (klare) Kanzel verwenden.

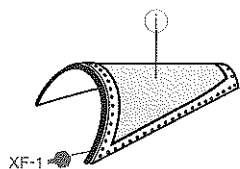
Utilisation des caches autocollants

- ① Découper les caches autocollants.
 - ② Appliquer les caches autocollants en se référant aux illustrations. Placer les caches le long des limites dans l'ordre numérique.
 - ③ Masquer entièrement l'intérieur de la verrière avec de la bande cache (disponible séparément).
- ※Appliquer soigneusement les caches auto-collants et la bande cache de façon à ne laisser aucun espace. Partie avant fumée et partie arrière claire sur un appareil des "Thunderbirds".

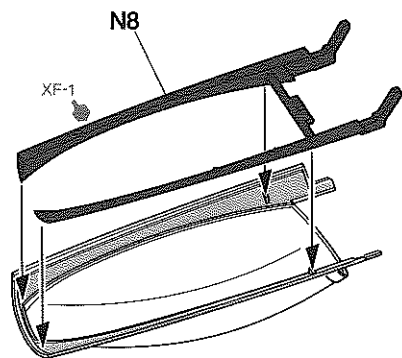
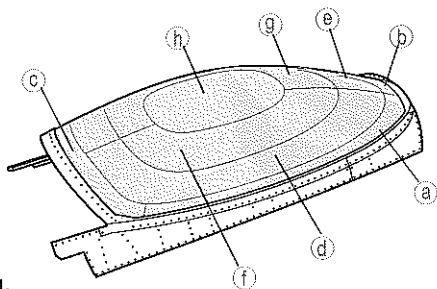


41

《キャンピー後部 (クリア部品)》
Rear canopy (clear)
Hinteres Kabinendach (farblos)
Verrière arrière (claire)



《キャンピー前部 (スモーク部品)》
Front canopy (smoke)
Vorderes Kabinendach (rauchglasfarben)
Verrière avant (fumée)

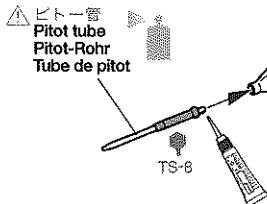
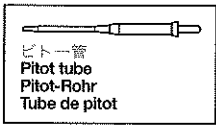
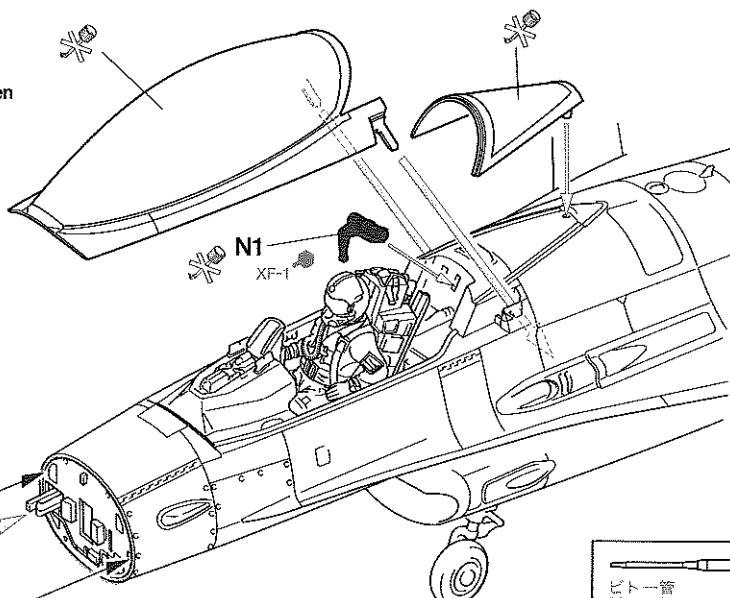
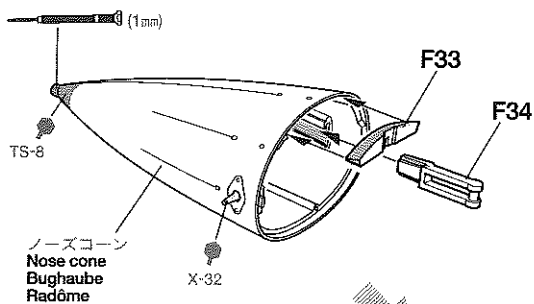


★P21の《マスクシールの使い方》を参考にして貼ります。
★Refer to "Using masking sticker" on page 21.
★Die "Verwendung der Abkleber" auf Seite 21 beachten.
★Se reporter à "Utilisation des caches autocollants" page 21.

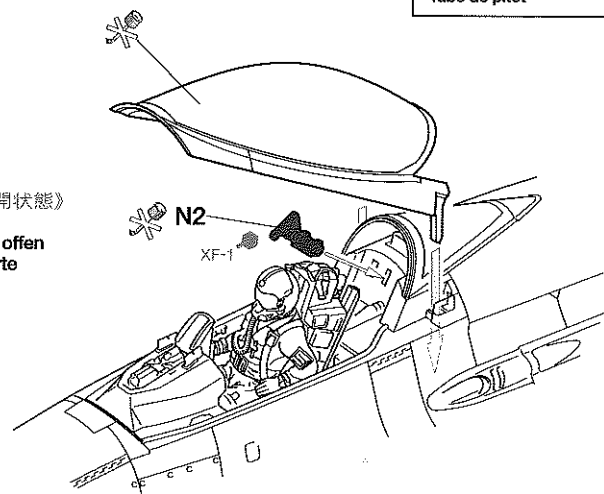
42

キャンピーの取り付け
Attaching canopy
Kabinendach-Einbau
Fixation de la verrière

《キャンピー閉状態》
Canopy closed
Kabinendach geschlossen
Verrière fermée



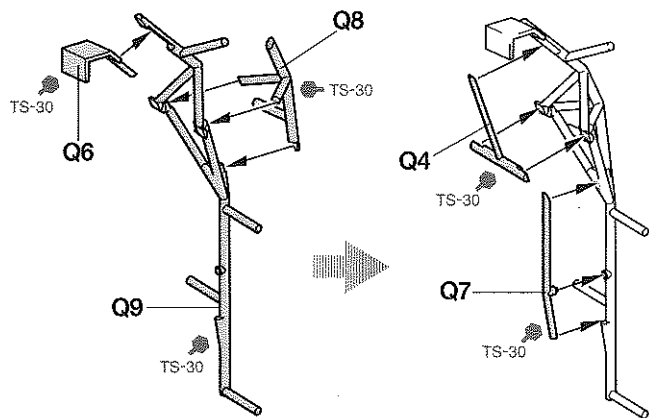
《キャンピー開状態》
Canopy open
Kabinendach offen
Verrière ouverte



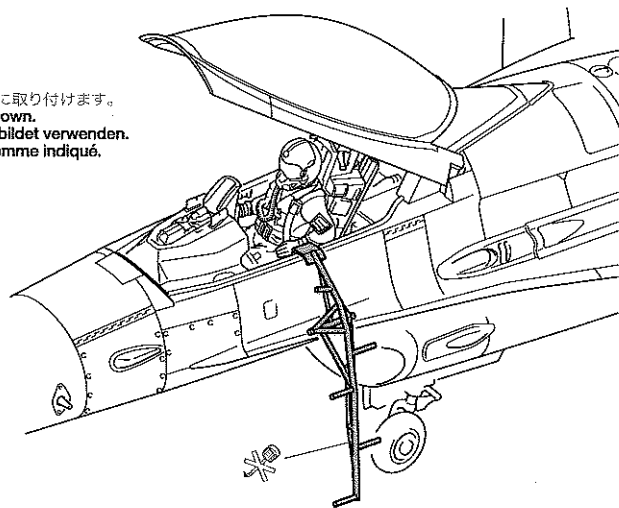
43

ラダーの組み立て
Ladder assembly
Zusammenbau der Einstiegsleiter
Assemblage de l'échelle

A



★図の位置に取り付けます。
★Use as shown.
★Wie abgebildet verwenden.
★Utiliser comme indiqué.



44

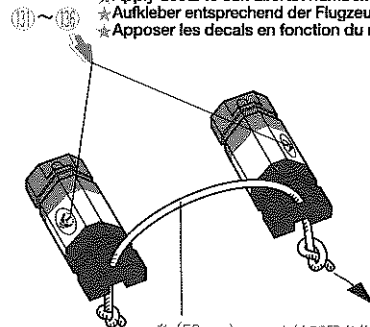
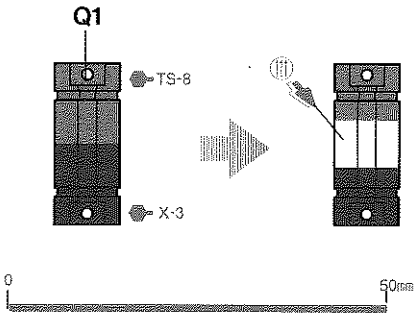
《車輪止め》
Wheel chock
Sicherheits-Bremsblock
Cales

A

★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

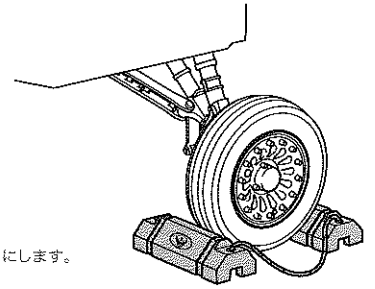
★機体番号に合わせてマークを張ります。
★Apply decal to suit aircraft number.
★Aufkleber entsprechend der Flugzeugnummer anbringen.
★Apposer les decals en fonction du numéro de l'avion.

★マークが外側を向くように使用します。
★Use as shown.
★Wie abgebildet verwenden.
★Utiliser comme indiqué.



糸 (50mm)
String (50mm)
Leine (50mm)
Ficelle (50mm)

★結び目を作って抜けないようにします。
★Make a knot.
★Einen Knoten machen.
★Faire un noeud.

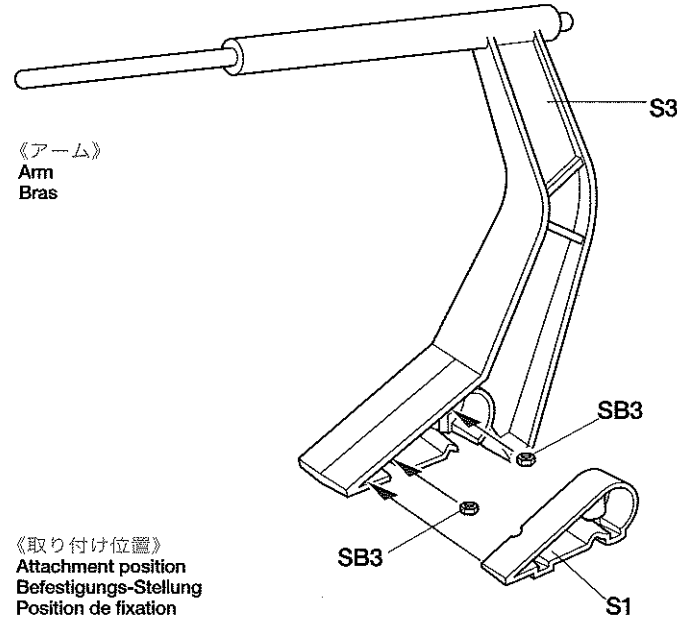
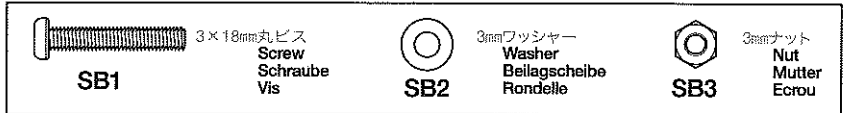


DISPLAY STAND

45

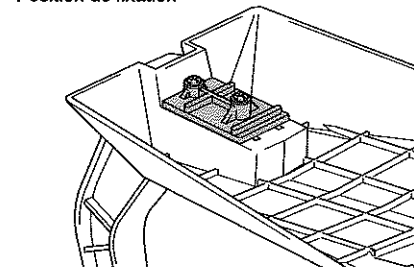
ディスプレイスタンドの組み立て
Display stand
Ausstellungs-Ständer
Support de présentation

B

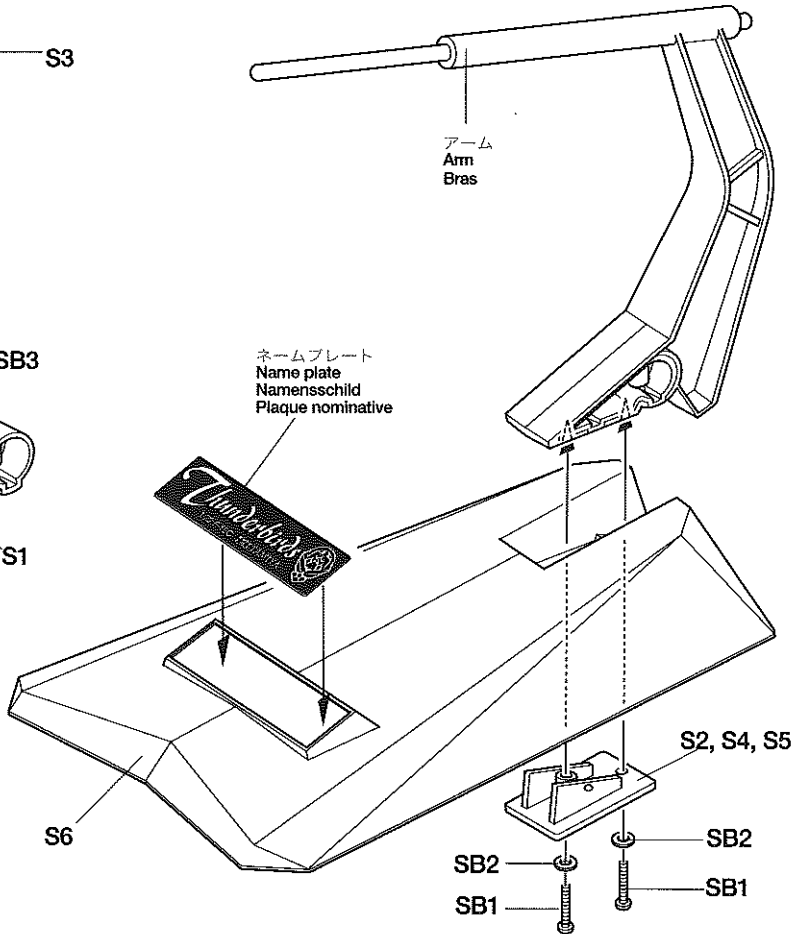


《アーム》
Arm
Bras

《取り付け位置》
Attachment position
Befestigungs-Stellung
Position de fixation

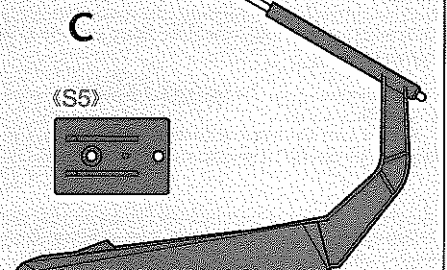
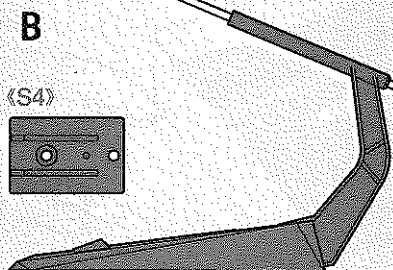
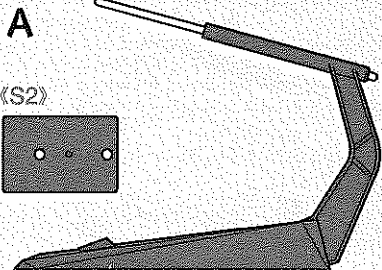


★SB1は+ドライバー-L(大)で締め込みます。
★Tighten screws SB1 using + screwdriver (large).
★Die Schrauben SB1 mit + Schraubenzieher (groß) einschrauben.
★Serrer les vis SB1 à l'aide d'un tournevis + (grand modèle).



《アームの角度》
Arm angle
Winkel des Arms
Inclinaison du bras

★取り付ける部品 (S2, S4, S5) によってスタンドの角度をA, B, Cの3段階に変えることができます。
★Select 3 angles by using S2, S4 or S5 part.
★Durch Verwendung von S2, S4 oder S5 sind 3 Winkel wählbar.
★Choisir une des 3 inclinaisons possibles en optant pour S2, S4 ou S5.



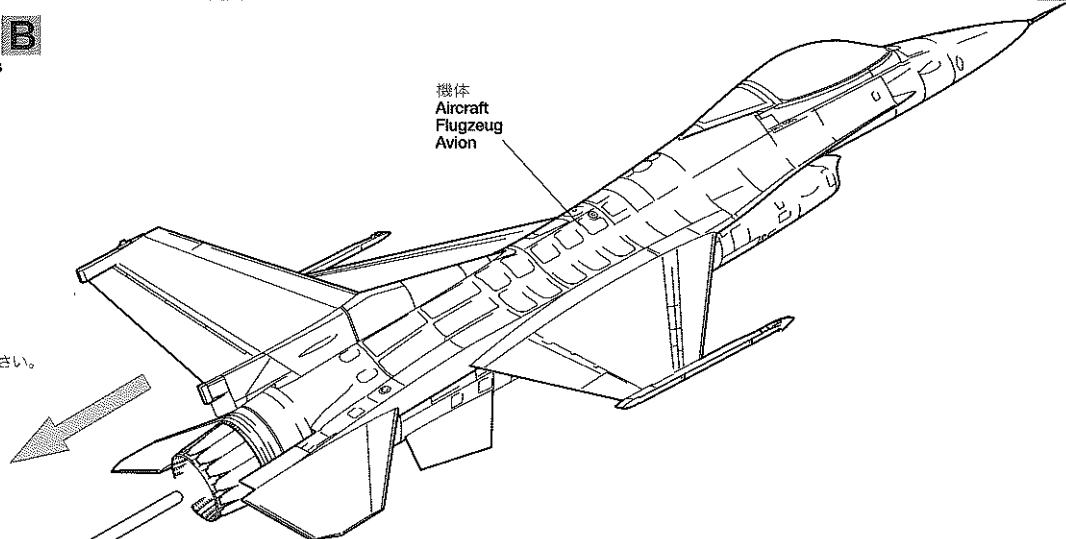
46

機体の取り付け
 Displaying aircraft
 Aufstellen des Flugzeugs
 Présentation de l'avion

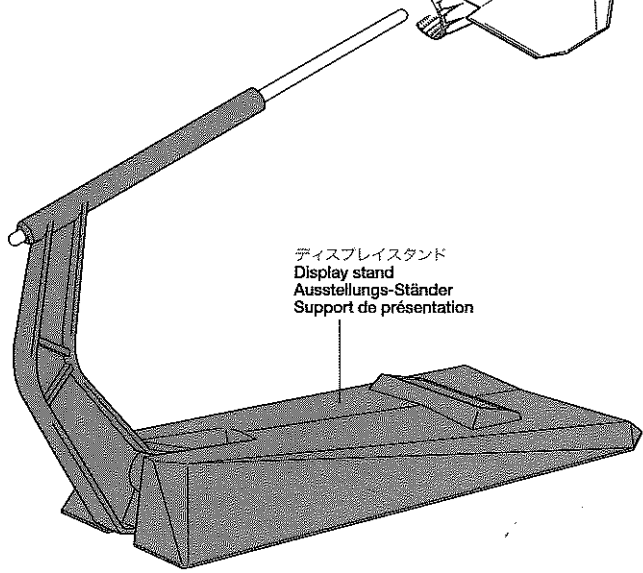
B

機体
 Aircraft
 Flugzeug
 Avion

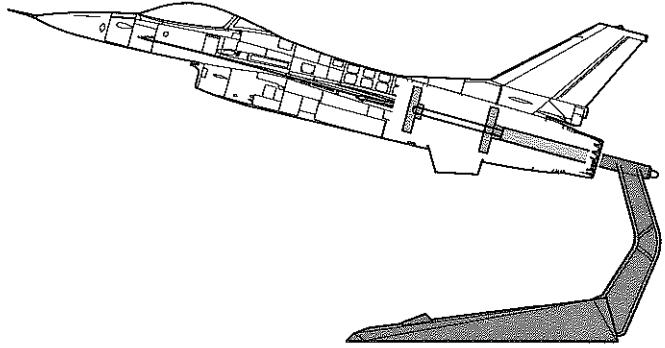
★最後まで押し込んでください。
 ★Fully insert.
 ★Ganz einschieben.
 ★Insérer à fond.



ディスプレイスタンド
 Display stand
 Ausstellungs-Ständer
 Support de présentation



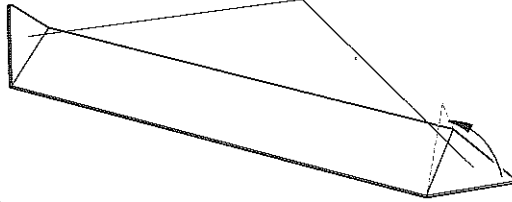
★図のようにアームを機体に差し込みます。
 ★Secure arm and aircraft as shown.
 ★Arm und Flugzeug sicher zusammengesteckt.
 ★Fixer l'avion sur le support comme montré.



《ネームプレートの使用方法》

Name plate
 Namenplatte
 Plaque de nom

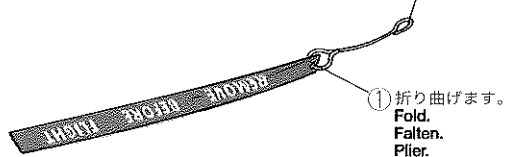
★折り曲げます。
 ★Bend as shown.
 ★Wie abgebildet biegen.
 ★Plier comme indiqué.



《セイフティーピンタグの使用法》

Safety-pin tag
 Sicherheitsfähnchen
 Repères des contrôles pré-voil

② 細いエナメル線などを使い、図のように工作してください。
 Use thin wire, etc. (not included)
 Benutzen Sie dünnen Draht, usw. (nicht enthalten)
 Utiliser du fil fin, etc... (non fourni)



① 折り曲げます。
 Fold.
 Falten.
 Plier.

★セイフティーピンタグは飛行前にチェックが必要な部分や爆弾の安全ピンなどに取り付けておくものです。お手持ちの資料を参考に取付けてください。
 ★The safety-pin tags are attached to vital aircraft components that require ground crew inspection. Attach these tags referring to your own materials.
 ★Die Sicherheitsfähnchen werden an wichtigen Teilen des Flugzeugs angebracht, welche von der Boden-Crew überprüft werden müssen. Diese Fähnchen entsprechend ihren eigenen Unterlagen anbringen.
 ★Ces fanions sont fixés aux éléments de l'appareil nécessitant une inspection par le personnel au sol. Attachez-les en vous référant à votre documentation personnelle.

STORING MODEL

完成したモデルは各部を分解して箱に収納できます。収納方法は下記に示しました。

①まずキャノピーと垂直尾翼を取り外します。この時、人形やエンジンが抜け落ちる場合がありますので十分注意します。外したキャノピーは付属のチャック付きビニール袋に入れます。

Assembled model can be perfectly stored in the box.
 ① Detach canopy and vertical fin. Store canopy in vinyl bag included in kit.

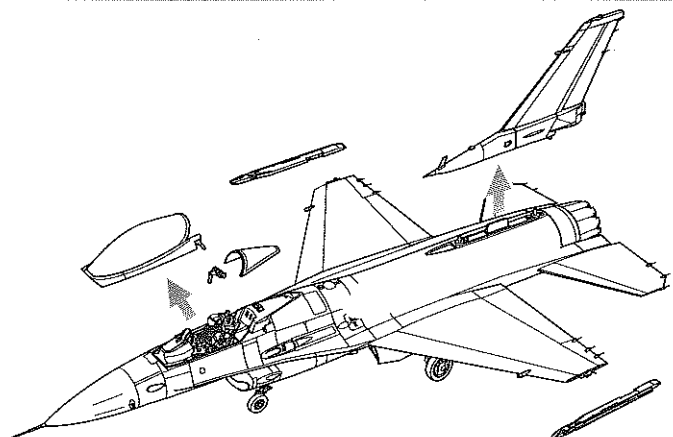
Das zusammengebaute Modell kann perfekt in der Schachtel aufbewahrt werden.

① Kanzel und Seitenleitwerksflosse abnehmen. Die Kanzel im Vinylbeutel, der dem Bausatz beiliegt, verstauen.

Le modèle assemblé peut être parfaitement calé dans la boîte.

① Enlever la verrière et la dérive. Ranger la verrière dans le sac vinyle fourni dans le kit.

1



②中蓋の足はミシン目になっていますので、図の位置から切り離します。

②Cut storage base as shown.

②Den Karton zum Verstauen wie abgebildet zuschneiden.

②Découper le carton de calage comme montré.

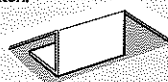
③中蓋に穴を開けます。穴はミシン目になっていますので、切れ目を入れて指示の方向に折り曲げます。また図中に指示のある場合はその指示に従ってください。

③Make holes in storage base. Cut lines and fold as indicated. Follow instructions in the illustrations below.

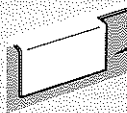
③Die Öffnungen in den Verstaukarton schneiden. Die Linien ritzen und wie abgebildet falten. Befolgen Sie dabei die unten bei den Abbildungen stehenden Anleitungen.

③Percer les trous dans le carton. Découper selon les lignes et plier comme montré. Suivre également les instructions sur les illustrations ci-dessous.

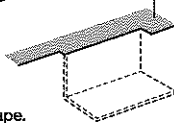
★L字に折り曲げます。
★Fold in to form L shape.
★In L-Form falten.
★Plier en L.



★山折りにします。
★Fold in.
★Erhöhung falten.
★Pliage intérieur.



★L字に折り曲げます。
★Fold in to form L shape.
★In L-Form falten.
★Plier en L.



④取り外したミサイルランチャーおよびキャノピーは付属の小箱に収納します。小箱と分解したスタンドをパッケージ内箱に収納し、その上に中蓋をかぶせます。

④Store canopy and accessories in the small box included in kit. Place the small box and display stand under the storage base.

④Verstauen Sie die Kanzel und das Zubehör in der dem Bauplatz beiliegenden kleinen Schachtel. Legen Sie die kleine Schachtel und den Ausstellungsständer unter die Grundplatte der Verpackung.

④Ranger la verrière et les accessoires dans la petite boîte incluse dans le kit. Placer la petite boîte et le support de présentation sous le fond.

⑤中蓋に本体、垂直尾翼を図のように収納してください。
※本収納箱はパッケージを利用した一時的なものです。パッケージの上に物を重ねたり、強く押すと中の完成品が破損する場合があります。展示や保管には市販のケースをご利用ください。

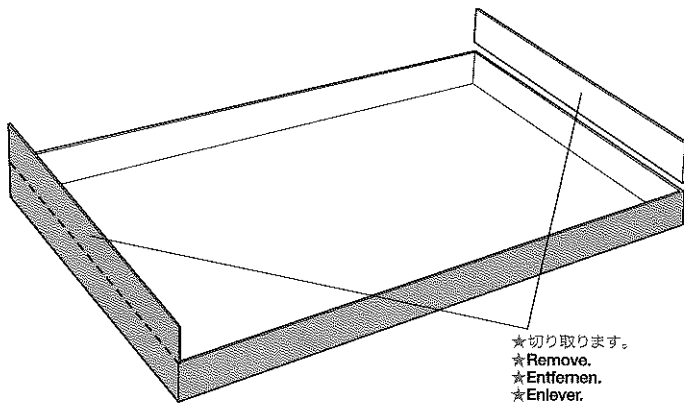
⑤Place fuselage and vertical fin on storage base as shown.
※Do not place things on the package or handle roughly while model is stored inside. This will damage the model. Use separately sold display case for high quality display and extra protection.

⑤Den Rumpf und das Seitenleitwerk wie abgebildet im Verstaukarton anordnen.

※Legen Sie keine Gegenstände auf die Verpackung oder drücken Sie diese, wenn das Modell darin verstaut ist. Das Modell wird dadurch beschädigt. Wenn Sie mehr Sicherheit wünschen, verwenden Sie eine getrennt erhältliche Ausstellungs-Box.

⑤Placer le fuselage et la dérive dans le carton de calage comme montré.
※Ne pas placer d'objet sur la boîte. Ne pas la pousser avec le modèle à l'intérieur. Cela endommagerait le modèle. Utiliser une boîte vitrine, disponible séparément, pour plus de protection.

2



★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

3

★谷折りにします。
★Fold out.
★Mulde falten.
★Pliage extérieur.

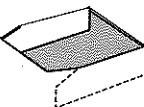


★谷折りにします。
★Fold out.
★Mulde falten.
★Pliage extérieur.

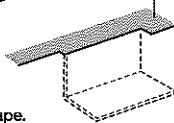
★切り抜きます。
★Cut out.
★Ausschneiden.
★Découper.



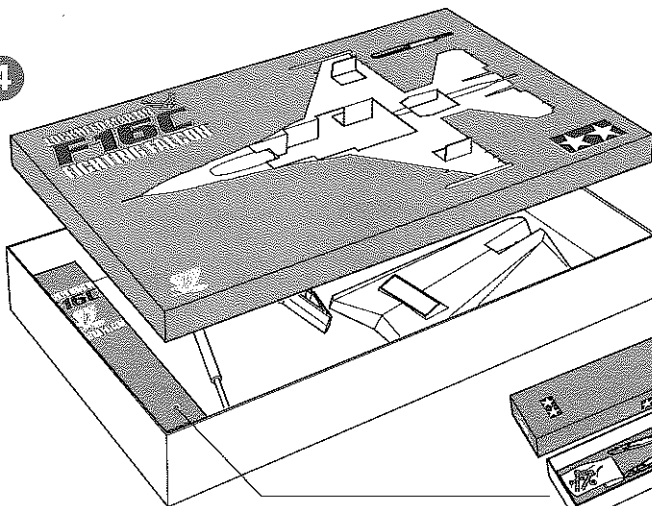
★山折りにします。
★Fold in.
★Erhöhung falten.
★Pliage intérieur.



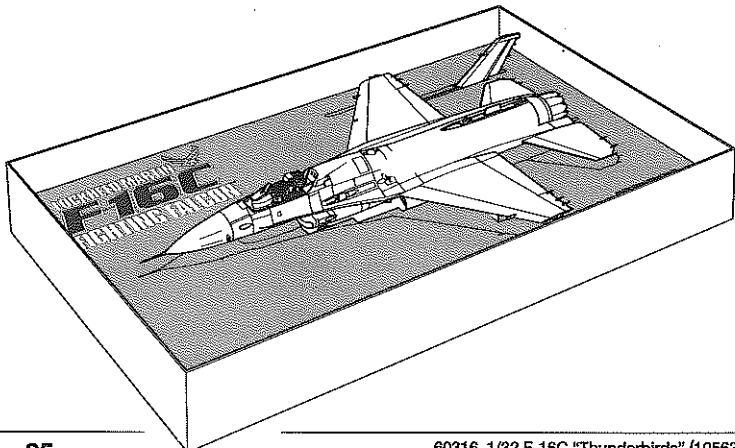
★谷折りにします。
★Fold out.
★Mulde falten.
★Pliage extérieur.



4



5



PARTS

A PARTS ×1
9006434

スライドマーク(a).....×1
Decal sheet 1406215
Abziehbild-Blatt
Décalcomanies

スライドマーク(b).....×1
Decal sheet 1406216
Abziehbild-Blatt
Décalcomanies

スライドマーク(c).....×1
Decal sheet 1406217
Abziehbild-Blatt
Décalcomanies

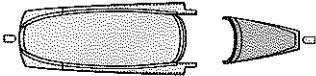
セイフティピンタグ.....×1
Safety-pin tag 1246006
Sicherheitsfähnchen
Repères des contrôles pré-vo

ネームプレート.....×1
Name plate 1426082
Namensschild
Plaque nominative

マスクシール.....×1
Masking sticker 1426059
Abkleber
Cache

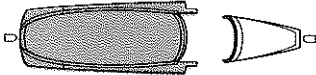
モールドイングステッカー.....×1
Sticker 1426061
Aufkleber

●スモーク部品 / Smoke parts 9336085
/ Rauchfarbene Teile / Pièces fumées

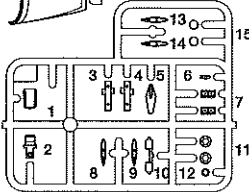


キャンピー前部.....×1
Front canopy
Vorderes Kabinendach
Verrière avant
9336084

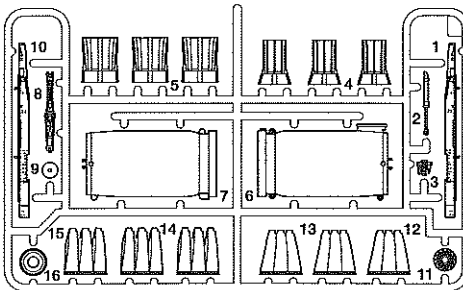
キャンピー後部.....×1
Rear canopy
Hinteres Kabinendach
Verrière arrière
9336084



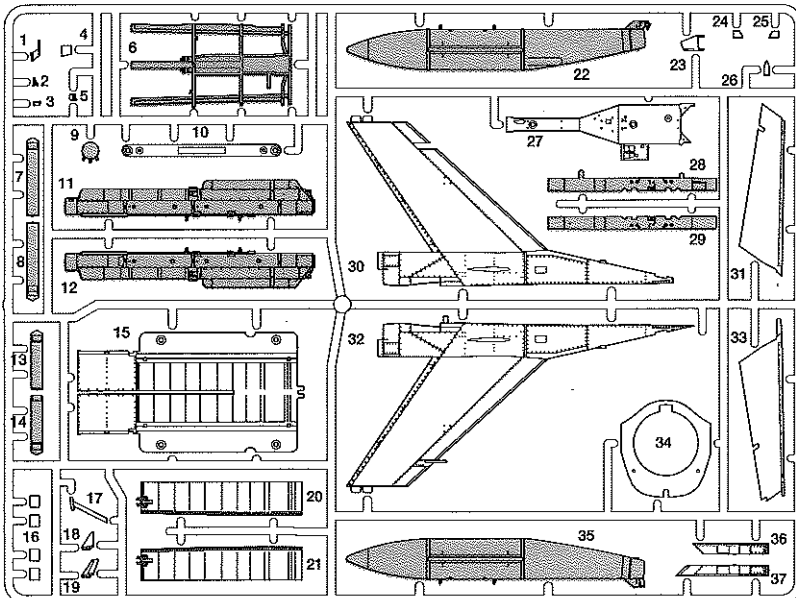
L PARTS ×1
9116019



R PARTS ×2
0006452



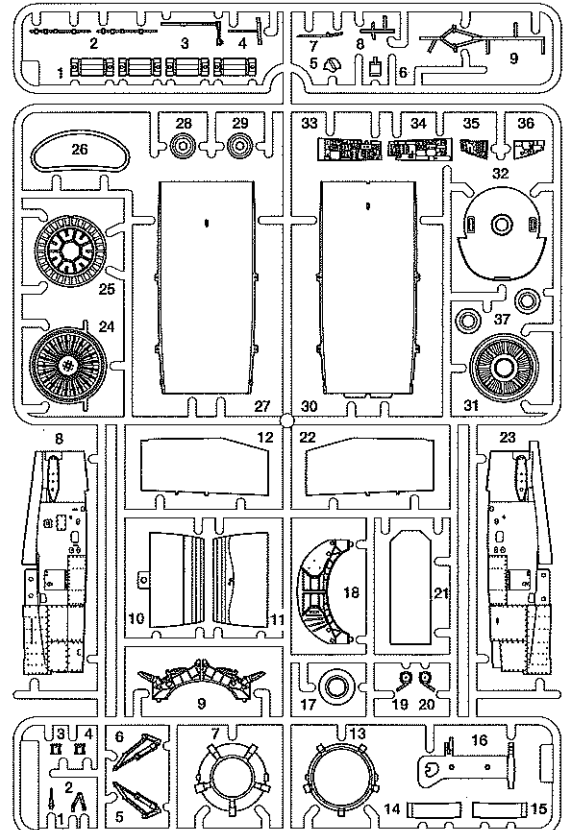
C PARTS ×1
9006436



ノーズコーン.....×1
Nose cone
Bughaube
Radôme
9006440

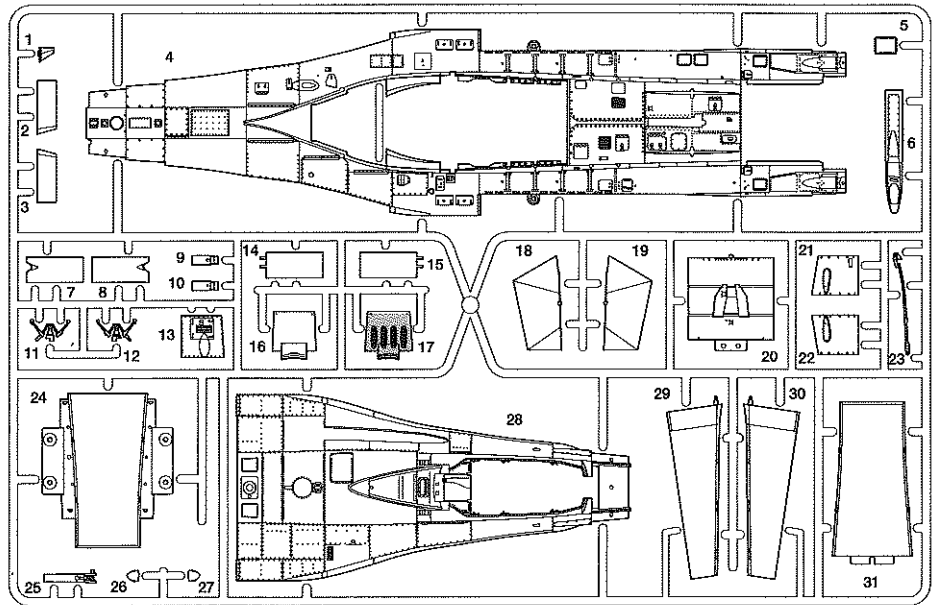
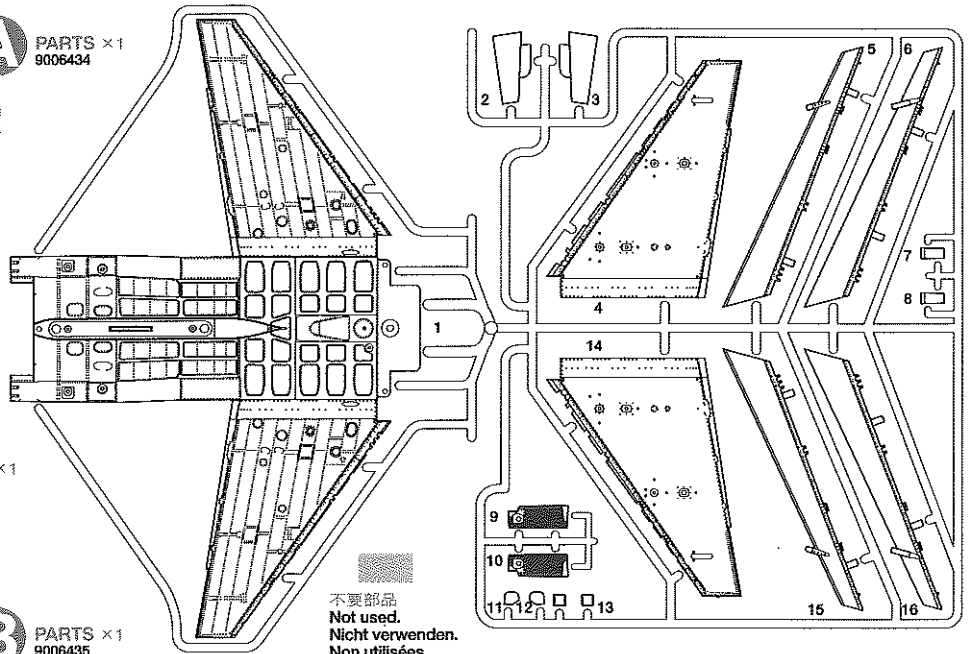
O PARTS ×1
9116024

P PARTS ×1
9116024



B PARTS ×1
9006435

不要部品
Not used.
Nicht verwenden.
Non utilisées.






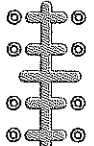
O PARTS ×1
9116024

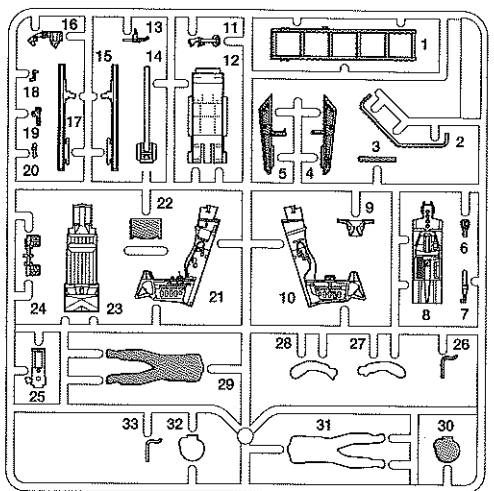
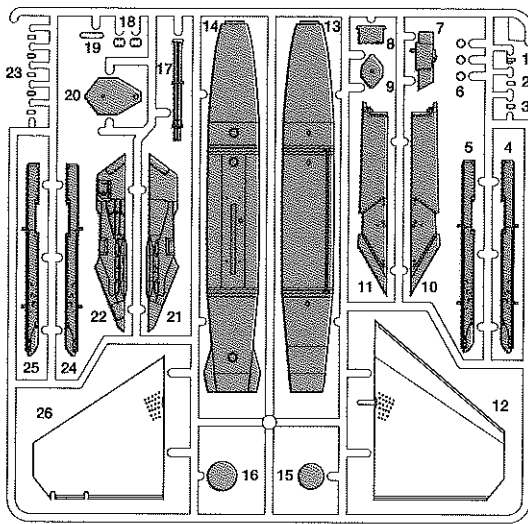
P PARTS ×1
9116024

PARTS

E PARTS × 2
0006451

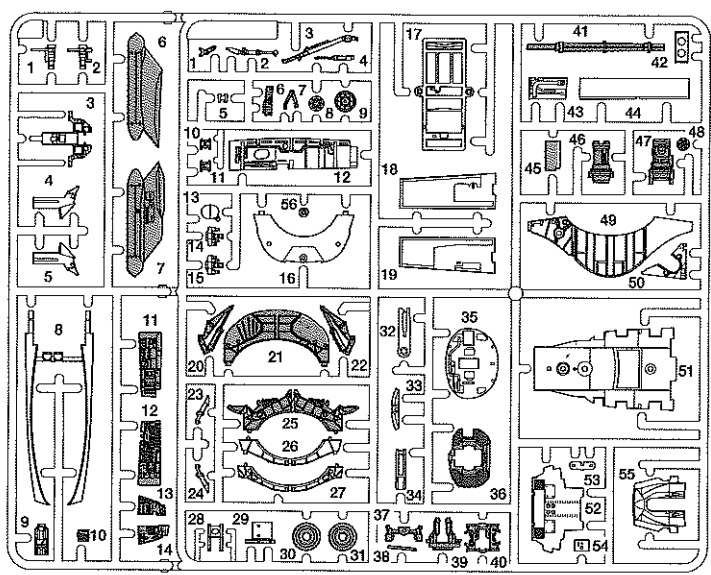
G PARTS × 1
9006408

-  タイヤ (小)×1
Tire (nose landing gear)
Reifen (Bugfahrwerk)
Pneu (train avant)
0116031
-  タイヤ (大)×2
Tire (main landing gear)
Reifen (Hauptfahrwerk)
Pneu (train principal)
0116031
-  5mm Oリング×2
O-ring 9805701
O-Ring
Joint torique
-  ポリキャップ (小)
Poly cap (small)
Kunststoff-Nabe (klein)
Pièce de jonction (petite)
0446168

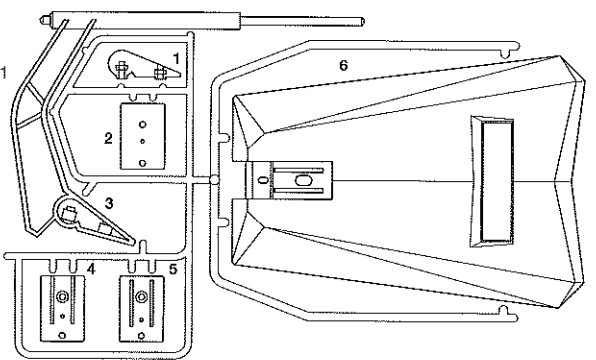


N PARTS × 1
9006407



F PARTS × 1
9006407




S PARTS × 1
0446176



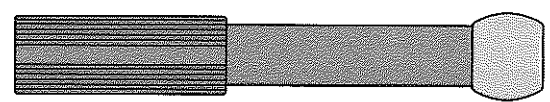
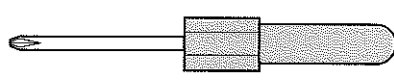
スタンド金具袋
STAND PARTS BAG
STÄNDER TEILE-BEUTEL
SACHETS DES PIÈCES DU
SUPPORT 9486006

-  3mmワッシャー
Washer
Beilagscheibe
Rondelle
SB2 × 2
-  3mmナット
Nut
Mutter
Ecorou
SB3 × 2

-  3×18mm丸ビス
Screw
Schraube
Vis
SB1 × 2

金具袋
METAL PARTS BAG
METALLTEILE-BEUTEL
SACHET DES PIÈCES
METALLIQUES

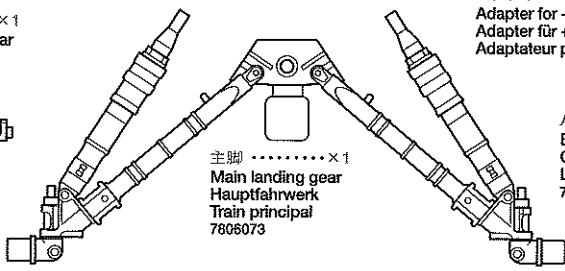
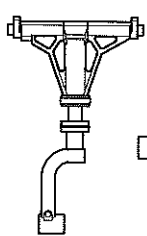
+ドライバ (小)×1
+ Screwdriver (small)
+ Schraubenzieher (klein)
Tournevis + (petit)
2990007



+ドライバ (小) 用アダプター×1
Adapter for + screwdriver (small)
Adapter für + Schraubenzieher (klein)
Adaptateur pour tournevis + (petit)

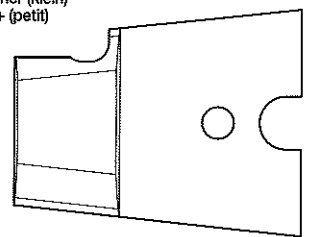
- MS1** 0.7×13.5mmシャフト
×4
9446024 Shaft
Achse
Axe
- MS2** 0.7×6mmシャフト
×2
9446023 Shaft
Achse
Axe
- MS3** 0.5×5.5mmシャフト
×15
9446024 Shaft
Achse
Axe

前脚×1
Nose landing gear
Bugfahrwerk
Train avant
7806073



主脚×1
Main landing gear
Hauptfahrwerk
Train principal
7806073

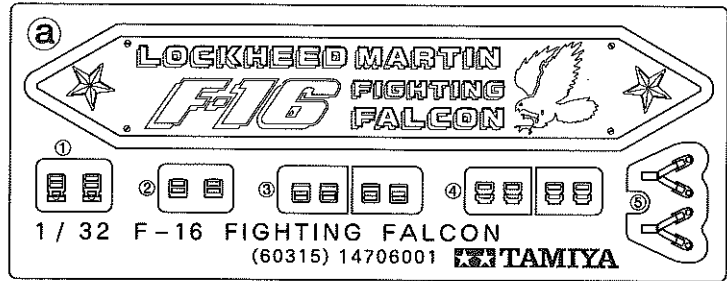
バラスト×1
Ballast
Gewicht
Lest
7806073



ピトー管×1
Pitot tube
Pitot-Rohr
Tube de pitot
9446023

ポリキャップ (大)×10
Poly cap (large) 9442022
Kunststoff-Nabe (groß)
Pièce de jonction (grande)

エッチングパーツ (a)×1
Photo-etched parts 9406135
Fotogeätzte Teile
Pièces photo-découpées



ビス袋
SCREW BAG
SCHRAUBENBEUTEL
SACHET DE VIS 9486006

1.6×3mm丸ビス
Screw
Schraube
Vis
MB4 × 1

1.4×4mm丸ビス
Screw
Schraube
Vis
MB5 × 2

1.2×4mm丸ビス (黒)
Screw (black)
Schraube (schwarz)
Vis (noire)
MB6 × 1

六角リベット
Hex head rivet
Sechskant-Niete
Rivet à tête hexagonale
MB7 × 2

3×6mmタッピングビス
Tapping screw
Schneidschraube
Vis taraudeuse
MB1 × 1

2×4mmタッピングビス
Tapping screw
Schneidschraube
Vis taraudeuse
MB2 × 15

1.4×3mmタッピングビス
Tapping screw
Hauptkopfschraube
Vis taraudeuse
MB3 × 4

平リベット
Flat head rivet
Flachkopf-Niete
Rivet à tête plate

PAINTING

《F-16C “サンダーバース”の塗装》

アメリカ空軍“サンダーバース”が1992年より使用しているF-16Cは美しく磨き上げられた純白の機体に、機首と翼端に大胆に配色されたブルーとレッドのストライプが施されています。さらに、垂直尾翼には星条旗をイメージさせるカラーリング、そして、機体下面にはシンボルマークでチーム名の由来ともなったインディアンの伝説の鳥“サンダーバード”が描かれています。また、コックピットサイド後方には過去に訪問した60以上にものぼる国々の国旗が描かれており、これらは国際親善の役割を象徴しています。チームは6機編成からなり、エアインターク横には各ポジションの番号が記されています。またコックピットの左側にはパイロット、右側にはクルーの名前が記入されています。シーズンごとに新たなメンバーが迎えられ、担当機にはその名前が書き入れられます。コックピットなどの細部の塗装は説明図中にマークとタミヤカラー・エナメル塗料とアクリル塗料、スプレーカラーの色番号で指示してあります。

Painting F-16C “Thunderbirds”
The F-16C used by the USAF “Thunderbirds” since

1992 features a clean, white main body, with nose, wing and horizontal stabilizer tips adorned with striking red and blue stripes. The vertical tail fin is decorated with a Stars and Stripes motif, while the underside of the plane depicts the “Thunderbirds” of Native American legend. In keeping with the team’s international friendship activities, flags of the more than 60 countries the “Thunderbirds” have visited are painted on either side just behind the cockpit. Each of the team’s 6 jets has its position number on the air intake, while the names of the pilot and ground crew are printed on either side of the cockpit. Refer to instruction manual for guide to painting cockpit and other details. The mark indicates numbers for Tamiya Paint colors.

Lackierung der F-16C “Thunderbirds”
Die F-16C, welche von den USAF “Thunderbirds” seit 1992 verwendet wird, hat einen hell weißen Rumpf; die Nase, die Spitzen der Tragflächen und des Höhenleitwerks sind mit leuchtend roten und blauen Streifen verziert. Das Seitenleitwerk ist mit einem Stars and Stripes Motiv verziert, während auf der Unterseite des Flugzeugs der “Thunderbirds” aus einer einheimischen Amerikanischen Legende dargestellt ist. Um an die internationalen Freundschafts-Aktivitäten des Teams zu erinnern, sind die Fahnen von mehr als 60 Ländern, welche die

“Thunderbirds” besucht haben, auf beiden Seiten unmittelbar hinter dem Cockpit aufgemalt. Jeder der 6 Jets des Teams hat seine Positionsnummer am Lufteinlass aufgemalt, während die Namen des Piloten und der Bodenmannschaft auf beiden Seiten des Cockpits aufgedruckt sind. Verwenden Sie die Bauanleitung als Richtlinie beim Bemalen des Cockpits und anderer Details. Die Markierung gibt die Zahlen für Tamiya Lackfarben an.

Décoration du F-16C “Thunderbirds”
Les F-16C utilisés par les USAF “Thunderbirds” depuis 1992 sont entièrement peints en blanc immaculé avec des parements rouge et bleu vifs sur le nez et les extrémités des ailes et stabilisateurs horizontaux. La dérive porte un motif “Stars and Stripes” et sur le dessous de l’avion est peint le “Thunderbird” de culture amérindienne. Témoins de l’activité internationale de la patrouille, les drapeaux des plus de 60 pays visités sont peints de chaque côté juste en arrière du cockpit. Chacun des 6 appareils porte son numéro dans la formation sur la prise d’air tandis que les noms du pilote et du mécanicien chef figurent de part et d’autre du cockpit. Se reporter au manuel d’assemblage pour la mise en peinture du cockpit et des autres détails. Le symbole indique la référence de peinture Tamiya à employer.

APPLYING DECALS

《スライドマークのはり方》

- ①貼るマークをハサミなどで台紙ごと切り取ります。
- ②マークをぬるま湯に10秒ほどひたしてからタオル等の上に置きます。
- ③台紙のはしを手で持ち、マークをスライドさせて、はる場所に移してください。
- ④指に少し水をつけて、マークをぬらしながら正しい位置にずらしします。
- ⑤やわらかな布でマーク内側の気泡を押し出しながら、おしつけるようにして水分をとりのぞきます。マークが小さいので注意してください。

DECAL APPLICATION

1. Cut off decal from sheet.
2. Dip the decal in tepid water for about 10 sec. and place on a clean cloth.
3. Hold the backing sheet edge and slide decal onto the model.
4. Move decal into position by wetting decal with finger.
5. Press decal gently down with a soft cloth until excess water and air bubbles are gone.

ANBRINGUNG DES ABZIEHBILDES

1. Abziehbild vom Blatt ausschneiden.
2. Das Abziehbild ungefähr 10 Sek. in lauwarmes Wasser tauchen, dann auf sauberen Stoff legen.
3. Die Kante der Unterlage halten und das Abziehbild auf das Modell schieben.

4. Das Abziehbild an die richtige Stelle schieben und dabei mit dem Finger das Abziehbild naßmachen.
5. Das abziehbild mit weichem Stoff ganz andrücken, bis kein überflüssiges Wasser und keine Luftblasen mehr vorhanden sind.

APPLICATION DES DECALCOMANIES

1. Découpez la décalcomanie de sa feuille.
2. Plongez la décalcomanie dans de l’eau tiède pendant 10 secondes environ et poser sur un linge propre.
3. Retenez la feuille de protection par le côté et glissez la décalcomanie sur le modèle réduit.
4. Placez la décalcomanie à l’endroit voulu en la mouillant avec un de vos doigts.
5. Pressez doucement la décalcomanie avec un tissu doux jusqu’à ce que l’eau en excès et les bulles aient disparu.

AFTER MARKET SERVICE CARD

When purchasing Tamiya replacement parts, please take or send this form to your local Tamiya dealer so that the parts required can be correctly identified and supplied. Please note that specifications, availability and price are subject to change without notice.

PARTS CODE	ITEM 60316
9006434	A Parts
9006435	B Parts
9006436	C Parts
0006451	E Parts (1 pc.)
9006407	F & N Parts
9006408	G Parts

9116019	L Parts
9116024	P & Q Parts
0006452	R Parts (1 pc.)
0446176	S Parts
9336084	Canopy (Transparent)
9336085	Canopy (Smoke)
9006440	Nose Cone
0116031	Tire (Main Landing Gear x2, Nose Landing Gear x1)
7806073	Nose Landing Gear, Main Landing Gear, Ballast
9406135	Photo-Etched Parts (a)
9446024	0.7x13.5mm Shaft (MS1) & 0.5x5.5mm Shaft (MS3)
9446023	0.7x6mm Shaft (MS2) & Pitot Tube
9486005	Screw Bag (MB1-MB8)
9486006	Metal Parts Bag (for Stand) (SB1-SB3)

9805701	5mm O-ring (2 pcs.)
0446168	Poly Cap (Small, 8 pcs.)
9442022	Poly Cap (Large, 10 pcs.)
8020007	String (15cm)
1426062	Name Plate
1426061	Sticker
1406215	Decal (a)
1406216	Decal (b)
1406217	Decal (c)
1426059	Masking Sticker
1246006	Safety-Pin Tag
2990007	Screwdriver (Small)
1056327	Instructions
1256045	Finishing Guide

部品請求について

★部品をなくしたり、こわした方は、このステッカーが貼られたカスタマーサービス取次店でのご注文が便利です。また、当社カスタマーサービスに直接ご注文する場合は、右記の方法があります。詳しくは当社カスタマーサービスまでお問い合わせください。

タミヤカスタマーサービス取次店

パーツのお取り寄せに大変便利なお店です。



①《現金書留のご利用法》

下のカードにあなたの氏名、住所、郵便番号、電話番号をしっかりと記入してください。必要部品を〇でかこみ、代金を現金書留または、定額小為替(100円以下は切手可)と一緒に申し込みにください。

②《郵便振替のご利用法》

郵便局の払込用紙の通信欄に下のカードを参考にITEM番号、スケール、製品名、部品名、数量を必ずご記入ください。振込入住所欄には電話番号もお書きください、口座番号・00810-9-1118、加入者名・田宮模型でお振込ください。

③《電話でのご注文ご利用いただけます》

パーツ代金に加えて代引き手数料(315円)をご負担いただければ、代金着払いにより電話でのご注文も承ります。

④《タミヤカード》

タミヤカードを利用されますと部品の入手が早く簡単です。詳しくは、カスタマーサービスまでお問い合わせください。

《お問い合わせ番号》

静岡 **054-283-0003**

東京 **03-3899-3765** (静岡へ自動転送)

営業時間/平日(月～金曜日) ▶ 8:00～20:00

土、日、祝日 ▶ 8:00～17:00



1/32 SCALE AIRCRAFT SERIES NO.16



1/32 エアークラフトシリーズ F-16C “サンダーバース”

Aパーツ	1,050円	9006434
Bパーツ	1,300円	9006435
Cパーツ	1,100円	9006436
Eパーツ(1枚)	700円	0006451
F-Nパーツ	1,100円	9006407
Gパーツ	820円	9006408
Lパーツ	440円	9116019
P-Qパーツ	1,300円	9116024

Rパーツ(1枚)	560円	0006452
Sパーツ	1,100円	0446176
前後キャノピー(透明)	440円	9336084
前後キャノピー(スモーク)	440円	9336085
ノーズコーン	250円	9006440
タイヤ(大×2、小×1)	350円	0116031
前脚、主脚、バラスト	480円	7806073
エッチングパーツ(a)	600円	9406135
0.7×13.5mmシャフト、0.5×5.5mmシャフト	280円	9446024
0.7×6mmシャフト、ピトー管	500円	9446023
ビス袋詰	300円	9486005
スタンド金具袋詰	180円	9486006
5mmOリング(2個)	160円	9805701
ポリキャップ(小・8個)	200円	0446168
ポリキャップ(大・10個)	200円	9442022
糸(15cm)	150円	8020007
ネームプレート	250円	1426062
モールディングステッカー	250円	1426061
マーク(a)	570円	1406215
マーク(b)	500円	1406216
マーク(c)	280円	1406217
マスクシール	260円	1426059
セフトイピンタグ	220円	1246006
+ドライバー(小)	320円	2990007
説明図	600円	1056327
フィニッシングガイド	300円	1256045

For Japanese use only!

ITEM 60316

住所

電話 () -

氏名

★パーツ価格は予告なく変更する事があります。

●タミヤのホームページには豊富な情報が満載です。ぜひご覧ください。

www.tamiya.com

60316 1/32 F-16C “Thunderbirds” (1056327)